

空港土木請負工事
施工パッケージ型積算基準

(平成26年4月1日以降入札公告を行う工事から適用)

目 次

作業日当り標準作業量	1	2. 施工概要	134
① 作業日当り標準作業量	1	3. 施工パッケージ	136
第1章 土工	35	⑥ 函 渠 工	150
① 土量変化率等	35	⑥-1. 函渠工(1)	150
1. 土量の変化	35	1. 適用範囲	150
2. 土量変化率	35	2. 施工概要	150
3. 適用土質及び機械損料補正	36	3. 施工パッケージ	151
4. 土質区分の対応	36	4. 施工歩掛	154
② 土工	38	⑥-2. 函渠工(2)	155
1. 適用範囲	38	1. 適用範囲	155
2. 施工概要	40	2. 施工歩掛	155
3. 施工パッケージ	44	⑦ 殻運搬(施工パッケージ)	157
③ 作業土工	65	1. 適用範囲	157
③-1 床堀工	65	2. 施工パッケージ	157
1. 適用範囲	65	第3章 コンクリート工	164
2. 施工概要	66	① コンクリート工	164
3. 施工パッケージ	68	1. 適用範囲	164
③-2 埋戻工	72	2. コンクリート打設工法の選定	165
1. 適用範囲	72	3. 施工パッケージ	166
2. 施工概要	72	4. 施工歩掛	169
3. 施工パッケージ	72	4-1. 圧送管組立、撤去	169
④ 人力運搬工	75	4-2. 養生工	169
1. 適用範囲	75	4-3. 養生工(特殊養生)	170
2. 施工パッケージ	76	5. 単価表	171
⑤ 人力土工.....	84	② 型 枠 工	172
(ベルトコンベア併用)	84	1. 適用範囲	172
1. 適用範囲	84	2. 施工概要	172
2. 施工概要	84	3. 施工パッケージ	173
3. 施工パッケージ	85	第4章 用地造成工	175
⑥ 安定処理工	88	① 舗装取壊し工	175
1. 適用範囲	88	①-1 舗装版破碎工	175
2. 施工概要	88	1. 適用範囲	175
3. 施工パッケージ	89	2. 施工概要	175
第2章 共通工	89	3. 施工パッケージ	176
① 法 面 工	91	①-2 舗装版切断工	178
1. 法面整形工	91	1. 適用範囲	178
1-1 適用範囲	91	2. 施工範囲	178
1-2 施工概要	91	3. 施工パッケージ	178
1-3 施工フロー	92	第5章 基本施設舗装	180
1-4 施工パッケージ	94	① 路床整形工	180
② 基礎・裏込砕石工	96	1. 適用範囲	180
1. 適用範囲	96	2. 施工概要	180
2. 施工概要	96	3. 施工パッケージ	180
3. 施工パッケージ	96	② 下層路盤工	183
③ コンクリートブロック積(張)工.....	99	1. 適用範囲	183
1. 適用範囲	99	2. 施工概要	183
2. 施工概要	100	3. 施工パッケージ	184
3. 施工パッケージ	101	③ 上層路盤工	188
④ 場所打擁壁工	115	1. 適用範囲	188
④-1. 場所打擁壁工(1)	115	2. 施工概要	188
1. 適用範囲	115	3. 施工パッケージ	188
2. 施工概要	116	④ アスファルト舗装工	195
3. 施工パッケージ	118	1. 適用範囲	195
④-2. 場所打擁壁工(2)	131	2. 施工概要	195
1. 適用範囲	131	3. 施工パッケージ	197
2. 施工歩掛	131		
3. 単価表	132		
⑤ 排水構造物工	133		
1. 適用範囲	133		

第6章 舗装	209
① 路床整形工	209
② コンクリート舗装工	209
③ 路盤工	210
1. 適用範囲	210
2. 施工概要	210
3. 施工パッケージ	210
3-1 不陸整正	210
3-2 下層路盤	212
(車道・路肩部)	212
3-3 下層路盤	214
(歩道部)	214
3-4 上層路盤	215
(車道・路肩部)	215
3-5 上層路盤	218
(歩道部)	218
④ アスファルト舗装工	219
1. 適用範囲	219
2. 施工概要	219
3. 施工パッケージ	220
3-1 基層(道路・駐車場部)	220
中間層(道路・駐車場部)	220
表層(道路・駐車場部)	220
3-2 基層(歩道部)	224
中間層(歩道部)	224
表層(歩道部)	224
3-3 アスカーブ	227
⑤ 透水性アスファルト舗装工	228
1. 適用範囲	228
2. 施工概要	228
3. 施工パッケージ	228
3-1 フィルター層	228
3-2 透水性アスファルト舗装	229
⑥ 区画線工	230
⑦ 縁石工	232
I. 縁石工	232
1. 適用範囲	232
2. 施工概要	232
3. 施工パッケージ	233
3-1 歩車道境界ブロック	233
3-2 地先境界ブロック	236
II. 縁石取壊し工	239
1. 適用範囲	239
2. 施工概要	239
3. 施工パッケージ	239

作業日当り標準作業量

① 作業日当り標準作業量

1. 適用

本章に掲載した作業日当り標準作業量は、施工パッケージ及び標準歩掛りに沿った条件、工法での設定であり、工程、作業日数等の検討のための参考として、とりまとめたものである。

設定した作業量は、あくまでも標準施工の場合であるので、当該工事の施工条件、施工法、制約条件等充分考慮し、適用の可否を検討の上、使用されたい。

2. 作業日当り標準作業量

工 種 名	設 定 内 容											
土工	① 掘削											
	土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	作業日当り標準作業量		
	土砂	オープンカット	-	有り	-	普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土	-	-	-	320m3/日		
						30,000m3以上	-	-	-	710m3/日		
				無し	-	無し	-	50,000m3未満	-	-	-	300m3/日
								50,000m3以上	-	-	-	500m3/日
								有り	50,000m3未満	-	-	-
		50,000m3以上	-	-	-	320m3/日						
		片切掘削	-	-	-	-	-	-	-	220m3/日		
		水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	260m3/日		
		現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	4m3/日		
		上記以外(小規模)	-	-	-	-	1箇所100m3以下(標準)	-	-	-	38m3/日	
	1箇所100m3以下(標準以外)						-	-	-	16m3/日		
	岩塊・玉石	オープンカット	-	-	無し	50,000m3未満	-	-	-	230m3/日		
						50,000m3以上	-	-	-	410m3/日		
					有り	50,000m3未満	-	-	-	140m3/日		
						50,000m3以上	-	-	-	260m3/日		
		水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	180m3/日		
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	3m3/日			

工種名	設定内容																
	土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	作業日当り標準作業量							
土工	軟岩	オープンカット	-	-	無し	500m3未満	-	無し	無し	63m3/日							
								有り(5万m3未満)	無し	63m3/日							
								有り(5万m3以上)	無し	63m3/日							
						500m3以上	-	-	-	340m3/日							
								有り	無し	32m3/日							
								有り	無し	32m3/日							
				有り	無し	32m3/日											
				有り	無し	32m3/日											
		片切掘削	-	-	-	-	-	-	無し	無し	49m3/日						
											有り	49m3/日					
											有り(5万m3未満)	無し	49m3/日				
											有り(5万m3以上)	無し	49m3/日				
	現場制約あり								軟岩(I)	-	-	-	-	-	-	-	25m3/日
															軟岩(II)	-	-
	硬岩	オープンカット	-	-	無し	-	-	不可	無し	41m3/日							
										有り	41m3/日						
										有り(5万m3未満)	無し	41m3/日					
										有り(5万m3以上)	無し	41m3/日					
								可	-	-	-	190m3/日					
										有り	無し	21m3/日					
				有り	無し	21m3/日											
				有り	無し	21m3/日											
				有り	無し	21m3/日											
		片切掘削	-	-	-	-	-	-	不可	無し	29m3/日						
										有り	29m3/日						
										有り(5万m3未満)	無し	29m3/日					
										有り(5万m3以上)	無し	29m3/日					
可									無し	無し	55m3/日						
										有り	55m3/日						
			有り(5万m3未満)	無し	55m3/日												
			有り(5万m3以上)	無し	55m3/日												
現場制約あり		中硬岩	-	-	-	-	-	-	-	13m3/日							
	硬岩(I)							-	-	-	-	8m3/日					

工種名	設定内容					
土工	② 土砂等運搬					
	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	標準	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.3km以下	154m3/日
					0.5km以下	133m3/日
					1.0km以下	118m3/日
					1.5km以下	105m3/日
					2.0km以下	91m3/日
					3.0km以下	77m3/日
					4.0km以下	67m3/日
					5.5km以下	56m3/日
					6.5km以下	48m3/日
					7.5km以下	42m3/日
					9.5km以下	37m3/日
					11.5km以下	32m3/日
					15.5km以下	26m3/日
					22.5km以下	21m3/日
				49.5km以下	16m3/日	
				60.0km以下	11m3/日	
				0.5km以下	133m3/日	
				1.0km以下	118m3/日	
				1.5km以下	105m3/日	
				2.0km以下	91m3/日	
				3.0km以下	77m3/日	
				3.5km以下	67m3/日	
				5.0km以下	56m3/日	
				6.0km以下	48m3/日	
	7.0km以下	42m3/日				
8.5km以下	37m3/日					
11.0km以下	32m3/日					
14.0km以下	26m3/日					
19.5km以下	21m3/日					
31.5km以下	16m3/日					
60.0km以下	11m3/日					
軟岩	-	-	土砂÷1.22			
硬岩	-	-	土砂÷1.37			

工種名	設定内容					
土工	土砂等 発生現場	積込機種 ・規格	土質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	標準	バックホウ 山積1.4m3 (平積1.0m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	0.3km以下	200m3/日
					0.5km以下	167m3/日
					1.0km以下	143m3/日
					1.5km以下	125m3/日
					2.0km以下	111m3/日
					2.5km以下	100m3/日
					3.0km以下	83m3/日
					3.5km以下	77m3/日
					4.5km以下	67m3/日
					6.0km以下	56m3/日
					7.0km以下	48m3/日
					8.5km以下	42m3/日
					10.0km以下	37m3/日
					12.5km以下	32m3/日
				16.5km以下	26m3/日	
				23.5km以下	21m3/日	
				51.5km以下	16m3/日	
				60.0km以下	11m3/日	
				有り	0.3km以下	200m3/日
					0.5km以下	167m3/日
					1.0km以下	143m3/日
					1.5km以下	125m3/日
					2.0km以下	111m3/日
					2.5km以下	100m3/日
					3.0km以下	83m3/日
					3.5km以下	77m3/日
					4.5km以下	67m3/日
					5.5km以下	56m3/日
	6.5km以下	48m3/日				
8.0km以下	42m3/日					
9.5km以下	37m3/日					
11.5km以下	32m3/日					
15.0km以下	26m3/日					
20.5km以下	21m3/日					
33.0km以下	16m3/日					
60.0km以下	11m3/日					
軟岩	-	-	土砂÷1.22			
硬岩	-	-	土砂÷1.37			

工種名	設定内容					
土工	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	標準	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.5km以下	91m3/日
					1.0km以下	83m3/日
					2.0km以下	71m3/日
					2.5km以下	63m3/日
					3.5km以下	56m3/日
					4.5km以下	48m3/日
					6.0km以下	42m3/日
					7.5km以下	37m3/日
					10.0km以下	32m3/日
					13.5km以下	26m3/日
				19.5km以下	21m3/日	
				39.0km以下	16m3/日	
				60.0km以下	11m3/日	
				1.0km以下	83m3/日	
				1.5km以下	71m3/日	
				2.0km以下	63m3/日	
				3.0km以下	56m3/日	
				4.0km以下	48m3/日	
				5.5km以下	42m3/日	
				7.0km以下	37m3/日	
	9.0km以下	32m3/日				
	12.0km以下	26m3/日				
	17.5km以下	21m3/日				
	28.5km以下	16m3/日				
	60.0km以下	11m3/日				
		軟岩	-	-	土砂÷1.22	
		硬岩	-	-	土砂÷1.37	
		クラムシェル	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.5km以下	67m3/日
					2.0km以下	56m3/日
					2.5km以下	48m3/日
					4.0km以下	42m3/日
			5.5km以下		37m3/日	
			7.5km以下		32m3/日	
			10.5km以下		26m3/日	
			16.0km以下		21m3/日	
			30.0km以下		16m3/日	
			60.0km以下	11m3/日		

工種名	設定内容					
土工	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	標準	クラムシエル	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	有り	0.5km以下 2.0km以下 2.5km以下 3.5km以下 5.0km以下 7.0km以下 10.0km以下 14.5km以下 24.5km以下 60.0km以下	67m3/日 56m3/日 48m3/日 42m3/日 37m3/日 32m3/日 26m3/日 21m3/日 16m3/日 11m3/日
			軟岩	-	-	土砂÷1.22
			硬岩	-	-	土砂÷1.37
	小規模	バックホウ 山積0.28m3 (平積0.2m3)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.2km以下 1.0km以下 1.5km以下 2.5km以下 3.5km以下 4.0km以下 5.0km以下 6.0km以下 7.5km以下 10.0km以下 13.0km以下 19.0km以下 35.0km以下 60.0km以下	50m3/日 40m3/日 33m3/日 29m3/日 25m3/日 22m3/日 20m3/日 18m3/日 17m3/日 13m3/日 11m3/日 9m3/日 7m3/日 4m3/日
				有り	0.2km以下 1.0km以下 1.5km以下 2.0km以下 3.0km以下 3.5km以下 4.5km以下 5.5km以下 7.0km以下 9.0km以下 12.0km以下 17.0km以下 27.0km以下 60.0km以下	50m3/日 40m3/日 33m3/日 29m3/日 25m3/日 22m3/日 20m3/日 18m3/日 17m3/日 13m3/日 11m3/日 9m3/日 7m3/日 4m3/日

工種名	設定内容					
土工	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	小規模	バックホウ 山積0.13m3 (平積0.1m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	0.3km以下	22m3/日
					1.0km以下	20m3/日
					1.5km以下	17m3/日
					2.5km以下	14m3/日
					3.0km以下	13m3/日
					3.5km以下	11m3/日
					4.5km以下	10m3/日
					5.5km以下	9m3/日
					7.0km以下	8m3/日
					9.0km以下	7m3/日
				12.0km以下	6m3/日	
				17.0km以下	4m3/日	
				28.0km以下	3m3/日	
				60.0km以下	2m3/日	
				有り	0.3km以下	22m3/日
					1.0km以下	20m3/日
					1.5km以下	17m3/日
					2.5km以下	14m3/日
					3.0km以下	13m3/日
					3.5km以下	11m3/日
	4.5km以下	10m3/日				
	5.0km以下	9m3/日				
	6.5km以下	8m3/日				
	8.0km以下	7m3/日				
	現場制約あり	-	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	0.3km以下	20m3/日
					0.5km以下	18m3/日
					1.5km以下	17m3/日
					2.0km以下	14m3/日
					2.5km以下	13m3/日
					3.0km以下	11m3/日
					4.0km以下	10m3/日
					5.0km以下	9m3/日
6.5km以下					8m3/日	
8.5km以下					7m3/日	
11.0km以下					6m3/日	
16.0km以下					4m3/日	
27.5km以下					3m3/日	
60.0km以下	2m3/日					

工種名	設定内容					
土工	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	現場制約あり	-	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	有り	0.3km以下	20m ³ /日
					0.5km以下	18m ³ /日
					1.0km以下	17m ³ /日
					1.5km以下	14m ³ /日
					2.0km以下	13m ³ /日
					2.5km以下	11m ³ /日
					3.5km以下	10m ³ /日
					4.5km以下	9m ³ /日
					6.0km以下	8m ³ /日
					8.0km以下	7m ³ /日
					10.5km以下	6m ³ /日
					14.5km以下	4m ³ /日
	23.0km以下	3m ³ /日				
60.0km以下	2m ³ /日					
		軟岩	-	-	土砂÷1.22	
		硬岩	-	-	土砂÷1.37	
③ 整地						
作業区分		敷均し作業内容			作業日当り標準作業量	
残土受入れ地での処理		-			1,030m ³ /日	
敷均し(ルーズ)		標準			760m ³ /日	
		標準以外			1,090m ³ /日	
		狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)			140m ³ /日	
		トラフィカビリティが確保できない場合			620m ³ /日	
④ 路体(築堤)盛土						
下幅幅	作業形態	土質	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	
2.5m未満	-	-	-	-	70m ³ /日	
2.5m以上4.0m未満	-	-	-	-	120m ³ /日	
4.0m以上	敷均し+締固め	-	10,000m ³ 未満	無し	690m ³ /日	
				有り	350m ³ /日	
			10,000m ³ 以上	無し	980m ³ /日	
				有り	560m ³ /日	
	敷均し締固め		高含水比粘性土以外	10,000m ³ 未満	無し	410m ³ /日
					有り	190m ³ /日
			高含水比粘性土	10,000m ³ 以上	無し	600m ³ /日
					有り	250m ³ /日
		-	無し	340m ³ /日		
		-	有り	160m ³ /日		
(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。						
2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2~0.3mとする。						

工 種 名	設 定 内 容				
土工	⑤ 路床盛土				
	平均幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	
	2.5m未満	—	—	55m3/日	
	2.5m以上4.0m未満	—	—	100m3/日	
	4.0m以上	10,000m3未満	無し	540m3/日	
			有り	160m3/日	
		10,000m3以上	無し	580m3/日	
			有り	160m3/日	
	<p>(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。 2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。</p>				
	⑥ 押土(ルーズ)				
	土質	作業日当り標準作業量			
	土 砂	540m3/日			
	岩 塊 ・ 玉 石	350m3/日			
	破 砕 岩	350m3/日			
	⑦ 積込(ルーズ)				
土質	作業内容	作業日当り標準作業量			
土 砂	土量50,000m3未満	310m3/日			
	土量50,000m3以上	520m3/日			
	平均施工幅1m以上2m未満	160m3/日			
	1箇所100m3以下(標準)	44m3/日			
	1箇所100m3以下(標準以外)	23m3/日			
岩 塊 ・ 玉 石 、 破 砕 岩	土量50,000m3未満	260m3/日			
	土量50,000m3以上	440m3/日			
	平均施工幅1m以上2m未満	130m3/日			

工種名	設 定 内 容				
作業土工	① 床掘り				
	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無 作業日当り 標準作業量	
	土砂	標準	無し	有り	180m3/日
				無し	220m3/日
			自立式	有り	180m3/日
				無し	220m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	180m3/日
		切梁腹起式	有り	180m3/日	
		平均施工幅 1m以上2m未満	無し	有り	100m3/日
				無し	150m3/日
			自立式	有り	100m3/日
				無し	150m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	100m3/日
		切梁腹起式	有り	100m3/日	
		掘削深さ 5m超20m以下	グラウンドアンカー式	有り	130m3/日
				無し	200m3/日
	掘削深さ20m超	グラウンドアンカー式	-	120m3/日	
		切梁腹起式	-	120m3/日	
	上記以外(小規模)	-	-	35m3/日	
	岩塊・ 玉石	標準	無し	有り	130m3/日
				無し	160m3/日
			自立式	有り	130m3/日
				無し	160m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	130m3/日
		切梁腹起式	有り	130m3/日	
		平均施工幅 1m以上2m未満	無し	有り	70m3/日
				無し	110m3/日
			自立式	有り	70m3/日
				無し	110m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	70m3/日
		切梁腹起式	有り	70m3/日	
		掘削深さ 5m超20m以下	グラウンドアンカー式	有り	90m3/日
				無し	140m3/日
	掘削深さ20m超	切梁腹起式	有り	90m3/日	
		グラウンドアンカー式	-	90m3/日	
	切梁腹起式	-	90m3/日		

工 種 名	設 定 内 容			
作業土工	② 舗装版破碎積込(小規模土工)			
	作業日当り標準作業量 (m ² /日)	26		
	③ 埋戻し			
	施工方法	土質	障害の有無	作業日当り標準作業量
	最小埋戻幅4m以上	—	—	270m ³ /日
	最大埋戻幅4m以上	—	—	96m ³ /日
	最大埋戻幅1m以上4m未満	—	—	61m ³ /日
	最大埋戻幅1m未満	—	—	33m ³ /日
	上記以外(小規模)	土砂	—	41m ³ /日
人力土工 (ベルトコンベア併用)	④ タンパ締固め			
	作業日当り標準作業量 (m ³ /日)	37		
	① ベルトコンベア併用人力掘削(床掘り)			
	土質	ベルトコン掘付状況	作業日当り標準作業量	
	土	砂	水平掘付	13m ³ /日
			傾斜掘付	8m ³ /日
	岩	塊・玉石	水平掘付	8m ³ /日
			傾斜掘付	5m ³ /日
② ベルトコンベア併用人力積込				
土質	ベルトコン掘付状況	作業日当り標準作業量		
土	砂	水平掘付	38m ³ /日	
		傾斜掘付	23m ³ /日	
岩	塊・玉石	水平掘付	26m ³ /日	
		傾斜掘付	16m ³ /日	

工 種 名	設 定 内 容																											
安定処理工	<p>① 安定処理(スタビライザ)</p> <table border="1" data-bbox="528 427 1070 517"> <thead> <tr> <th>混合回数</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>790m²/日</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>690m²/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 固化材散布、混合、敷均し、締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には、100m程度の仮置場～現場までの小運搬及び現場内小運搬が含まれている。</p> <p>② 安定処理(バックホウ)</p> <table border="1" data-bbox="528 763 1297 887"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>混合深さ</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">路 床</td> <td>1m以下</td> <td>180m²/日</td> </tr> <tr> <td>1m以下</td> <td>127m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">構 造 物 基 礎</td> <td>1mを超え2m以下</td> <td>74m²/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 固化材散布、混合、敷均し、締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には、50m程度の現場内小運搬が含まれている。</p>	混合回数	作業日当り標準作業量	1回	790m ² /日	2回	690m ² /日	施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量	路 床	1m以下	180m ² /日	1m以下	127m ² /日	構 造 物 基 礎	1mを超え2m以下	74m ² /日										
混合回数	作業日当り標準作業量																											
1回	790m ² /日																											
2回	690m ² /日																											
施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量																										
路 床	1m以下	180m ² /日																										
	1m以下	127m ² /日																										
構 造 物 基 礎	1mを超え2m以下	74m ² /日																										
	法面工 (法面整形工)	<p>① 法面整形工</p> <table border="1" data-bbox="528 1093 1361 1339"> <thead> <tr> <th>整形箇所</th> <th>法面締固めの有無</th> <th>現場制約の有無</th> <th>土質</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">盛土部</td> <td rowspan="2">有り</td> <td>有り</td> <td>砂及び砂質土、粘性土</td> <td>120m²/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>レキ質土、砂及び砂質土、粘性土</td> <td>140m²/日</td> </tr> <tr> <td>無し</td> <td>無し</td> <td>レキ質土、砂及び砂質土、粘性土</td> <td>220m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">切土部</td> <td rowspan="3">-</td> <td>有り</td> <td>軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩</td> <td>30m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無し</td> <td>レキ質土、砂及び砂質土、粘性土</td> <td>140m²/日</td> </tr> <tr> <td>軟岩Ⅰ</td> <td>120m²/日</td> </tr> </tbody> </table>	整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質	作業日当り標準作業量	盛土部	有り	有り	砂及び砂質土、粘性土	120m ² /日	無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	140m ² /日	無し	無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	220m ² /日	切土部	-	有り	軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩	30m ² /日	無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	140m ² /日	軟岩Ⅰ
整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質	作業日当り標準作業量																								
盛土部	有り	有り	砂及び砂質土、粘性土	120m ² /日																								
		無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	140m ² /日																								
	無し	無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	220m ² /日																								
切土部	-	有り	軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩	30m ² /日																								
		無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	140m ² /日																								
			軟岩Ⅰ	120m ² /日																								
法面工 (コンクリート法枠工 (現場打法枠工))	<p>① コンクリートポンプ車投入打設</p> <table border="1" data-bbox="528 1424 1225 1485"> <thead> <tr> <th>作業日当り標準作業量 (m³/日)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>7.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 養生を含む。</p>	作業日当り標準作業量 (m ³ /日)			7.2																							
作業日当り標準作業量 (m ³ /日)																												
	7.2																											

工 種 名	設 定 内 容																			
吹付法面とりこわし工	① 吹付法面とりこわし工 <table border="1" data-bbox="528 427 1171 517"> <thead> <tr> <th>工法区分</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 力 施 工</td> <td>59m²/日</td> </tr> <tr> <td>機 械 施 工</td> <td>147m²/日</td> </tr> </tbody> </table>	工法区分	作業日当り標準作業量	人 力 施 工	59m ² /日	機 械 施 工	147m ² /日													
工法区分	作業日当り標準作業量																			
人 力 施 工	59m ² /日																			
機 械 施 工	147m ² /日																			
基礎・裏込砕石工	① 基礎・裏込砕石工 <table border="1" data-bbox="528 584 1126 674"> <thead> <tr> <th>工 種 名</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 礎 砕 石</td> <td>155m²/日</td> </tr> <tr> <td>裏 込 砕 石</td> <td>38m²/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表には、20m程度の現場内小運搬を含む。 2. 基礎砕石の敷均し厚は20cmまでを対象とし、それを超える場合は上表に0.7を乗じた数量を計上する。ただし、この場合の敷均し厚は30cmを上限とする。</p>	工 種 名	作業日当り標準作業量	基 礎 砕 石	155m ² /日	裏 込 砕 石	38m ² /日													
工 種 名	作業日当り標準作業量																			
基 礎 砕 石	155m ² /日																			
裏 込 砕 石	38m ² /日																			
コンクリートブロック積(張)工	① コンクリートブロック積(張)工 <table border="1" data-bbox="528 913 1262 1218"> <thead> <tr> <th>工 種 名</th> <th>ブロック質量</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 積</td> <td>150kg/個以上</td> <td>13m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">間 知 ブ ロ ッ ク 張 平 ブ ロ ッ ク 張 連 節 ブ ロ ッ ク 張</td> <td>150kg/個未満</td> <td>49m²/日</td> </tr> <tr> <td>150kg/個以上</td> <td>81m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緑 化 ブ ロ ッ ク 積</td> <td>150kg/個未満</td> <td>13m²/日</td> </tr> <tr> <td>150kg/個以上</td> <td>24m²/日</td> </tr> <tr> <td>植 樹</td> <td>—</td> <td>340本/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業を含む。 ・コンクリートブロック積、 間知ブロック張、平ブロック張、連結ブロック張:ブロック積、裏込・胴込CO、裏込材までの一連作業 ・緑化ブロック積 :緑化ブロック積、胴込CO、裏込材、客土までの一連作業 ・植樹 :植樹作業のみ 2. ブロック積(張)は、裏込・胴込CO、裏込材を施工しない場合も上表による。 3. 緑化ブロック積は、胴込CO、裏込材、客土を施工しない場合も上表による。</p>	工 種 名	ブロック質量	作業日当り標準作業量	コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 積	150kg/個以上	13m ² /日	間 知 ブ ロ ッ ク 張 平 ブ ロ ッ ク 張 連 節 ブ ロ ッ ク 張	150kg/個未満	49m ² /日	150kg/個以上	81m ² /日	緑 化 ブ ロ ッ ク 積	150kg/個未満	13m ² /日	150kg/個以上	24m ² /日	植 樹	—	340本/日
工 種 名	ブロック質量	作業日当り標準作業量																		
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 積	150kg/個以上	13m ² /日																		
間 知 ブ ロ ッ ク 張 平 ブ ロ ッ ク 張 連 節 ブ ロ ッ ク 張	150kg/個未満	49m ² /日																		
	150kg/個以上	81m ² /日																		
緑 化 ブ ロ ッ ク 積	150kg/個未満	13m ² /日																		
	150kg/個以上	24m ² /日																		
植 樹	—	340本/日																		

工 種 名	設 定 内 容																								
石積(張)工	<p>① 石積(張)工</p> <table border="1" data-bbox="528 427 1297 551"> <thead> <tr> <th>積張の区分</th> <th>工種の区分</th> <th>石の種類</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積 工</td> <td>練石</td> <td>玉石、雑割石</td> <td>19m²/日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">張 工</td> <td>練石</td> <td>玉石、雑割石</td> <td>31m²/日</td> </tr> <tr> <td>空石</td> <td>玉石</td> <td>31m²/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 石積(張)工は、裏込・胴込CO、裏込材を施工しない場合も上表による。</p>	積張の区分	工種の区分	石の種類	作業日当り標準作業量	積 工	練石	玉石、雑割石	19m ² /日	張 工	練石	玉石、雑割石	31m ² /日	空石	玉石	31m ² /日									
積張の区分	工種の区分	石の種類	作業日当り標準作業量																						
積 工	練石	玉石、雑割石	19m ² /日																						
張 工	練石	玉石、雑割石	31m ² /日																						
	空石	玉石	31m ² /日																						
擁壁工(場所打擁壁工(構造物単位))	<p>①. I 擁壁工(1)</p> <p>表1-1 作業日当り標準作業量</p> <table border="1" data-bbox="528 730 1315 969"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>作業日当り標準作業量(m³/日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型擁壁(A) 小型擁壁(B)</td> <td>0.5m以上1.0m以下</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重力式擁壁</td> <td>1m超2m未満</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>2m以上5m以下</td> <td>7.8(7.5)</td> </tr> <tr> <td>もたれ式擁壁</td> <td>3mから8mまで</td> <td>6.3(6.3)</td> </tr> <tr> <td>逆T型擁壁</td> <td>3mから10mまで</td> <td>5.2(5.0)</td> </tr> <tr> <td>L型擁壁</td> <td>3mから7mまで</td> <td>4.2(4.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生 ・コンクリート打設・養生 ・型枠製作・設置、撤去 ・鉄筋加工・組立 ・足場設置・撤去 ・目地材設置 ・水抜きパイプ設置 ・吸出防止材設置 <p>2. 上表の作業日当り標準作業量は、基礎材、均しコンクリート、足場の施工の有無、足場形式(枠組足場、単管足場、手摺先行型枠組足場)、目地材、水抜きパイプ、吸出防止材の施工の有無にかかわらず適用出来る。</p> <p>なお、手摺先行型枠組足場を使用する場合は、()書きの数値を適用する。</p> <p>3. 小型擁壁の場合、小型擁壁(A)、(B)を問わず適用出来る。</p> <p>4. コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用できる。</p> <p>5. 上表の作業日当り標準作業量は、擁壁本体コンクリート換算値である。</p> <p>②. II 擁壁工(2)(「I 擁壁工(1)」の適用範囲を外れた構造物)</p> <p>表1-2 コンクリートポンプ車打設</p> <table border="1" data-bbox="552 1794 1339 1854"> <thead> <tr> <th>作 業 名</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートポンプ車打設</td> <td>80m³/日</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		作業日当り標準作業量(m ³ /日)	小型擁壁(A) 小型擁壁(B)	0.5m以上1.0m以下	1.2	重力式擁壁	1m超2m未満	5.7	2m以上5m以下	7.8(7.5)	もたれ式擁壁	3mから8mまで	6.3(6.3)	逆T型擁壁	3mから10mまで	5.2(5.0)	L型擁壁	3mから7mまで	4.2(4.0)	作 業 名	作業日当り標準作業量	コンクリートポンプ車打設	80m ³ /日
区 分		作業日当り標準作業量(m ³ /日)																							
小型擁壁(A) 小型擁壁(B)	0.5m以上1.0m以下	1.2																							
重力式擁壁	1m超2m未満	5.7																							
	2m以上5m以下	7.8(7.5)																							
もたれ式擁壁	3mから8mまで	6.3(6.3)																							
逆T型擁壁	3mから10mまで	5.2(5.0)																							
L型擁壁	3mから7mまで	4.2(4.0)																							
作 業 名	作業日当り標準作業量																								
コンクリートポンプ車打設	80m ³ /日																								

工 種 名	設 定 内 容																																																																																																																							
プレキャスト擁壁工	<p>① プレキャスト擁壁</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">プレキャスト擁壁 高さ(m)</td> <td style="text-align: center;">0.5 以上 1.0 以下</td> <td style="text-align: center;">1.0 を超え 2.0 以下</td> <td style="text-align: center;">2.0 を超え 3.5 以下</td> <td style="text-align: center;">3.5 を超え 5.0 以下</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">作業日当り 標準作業量</td> <td style="text-align: center;">45m/日</td> <td style="text-align: center;">38m/日</td> <td style="text-align: center;">30m/日</td> <td style="text-align: center;">24m/日</td> </tr> </table> <p>(注)運搬距離10m程度までの現場内小運搬を含んでいるが、床掘り、埋戻し、雑工種(基礎砕石、均しコンクリート)、残土処理は含まない。</p>	プレキャスト擁壁 高さ(m)	0.5 以上 1.0 以下	1.0 を超え 2.0 以下	2.0 を超え 3.5 以下	3.5 を超え 5.0 以下	作業日当り 標準作業量	45m/日	38m/日	30m/日	24m/日																																																																																																													
プレキャスト擁壁 高さ(m)	0.5 以上 1.0 以下	1.0 を超え 2.0 以下	2.0 を超え 3.5 以下	3.5 を超え 5.0 以下																																																																																																																				
作業日当り 標準作業量	45m/日	38m/日	30m/日	24m/日																																																																																																																				
排水構造物工	<p>(1) ヒューム管</p> <p>① ヒューム管単体</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">管 径(mm)</td> <td style="text-align: center;">200 250 300 350</td> <td style="text-align: center;">400 450 500 600</td> <td style="text-align: center;">700 800 900 1,000</td> <td style="text-align: center;">1,100 1,200 1,350</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">作業日当り標準作業量 (m/日)</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">14</td> </tr> </table> <p>② ヒューム管+ヒューム管用巻きコンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">管 径(mm)</td> <td style="text-align: center;">200 250 300 350</td> <td style="text-align: center;">400 450 500 600</td> <td style="text-align: center;">700 800 900 1,000</td> <td style="text-align: center;">1,100 1,200 1,350</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">作業日当り標準作業量 (m/日)</td> <td style="text-align: center;">90° 巻き 8</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">180° 巻き 7</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">360° 巻き 5</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </table> <p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・ヒューム管設置 ・コンクリート打設・養生 ・型枠製作・設置、撤去 ・鉄筋加工・組立 <p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、基礎砕石の有無にかかわらず適用出来る。</p> <p>3. コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用する。</p> <p>4. 上表②の作業日当り標準作業量は、ヒューム管設置延長換算値である。</p> <p>(2) ボックスカルバート</p> <p>① ボックスカルバート単体</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">区 分</th> <th colspan="9" style="text-align: center;">PC鋼材を使用しない場合</th> </tr> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">1.0</th> <th colspan="4" style="text-align: center;">1.5</th> <th colspan="3" style="text-align: center;">2.0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">製品長(m)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="4"></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">枠 番 号</td> <td style="text-align: center;">④</td> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td style="text-align: center;">②</td> <td style="text-align: center;">④</td> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td style="text-align: center;">①</td> <td style="text-align: center;">② ③</td> <td style="text-align: center;">④</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">作業日当り標準作業量 (m/日)</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="9" style="text-align: center;">PC鋼材による縦連結の場合</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" style="text-align: center;">1.5</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">②</td> <td style="text-align: center;">④</td> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td style="text-align: center;">①</td> <td style="text-align: center;">② ③</td> <td style="text-align: center;">④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	管 径(mm)	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350	作業日当り標準作業量 (m/日)	50	25	17	14	管 径(mm)	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350	作業日当り標準作業量 (m/日)	90° 巻き 8	6	4	3		180° 巻き 7	5	3	2		360° 巻き 5	3	2	-	区 分	PC鋼材を使用しない場合									1.0		1.5				2.0			製品長(m)										枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	② ③	④	作業日当り標準作業量 (m/日)	6	3	8	6	4	3	17	11	9		PC鋼材による縦連結の場合										1.5				2.0						②	④	⑤	⑥	①	② ③	④				4	4	3	2	13	8	5		
管 径(mm)	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350																																																																																																																				
作業日当り標準作業量 (m/日)	50	25	17	14																																																																																																																				
管 径(mm)	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350																																																																																																																				
作業日当り標準作業量 (m/日)	90° 巻き 8	6	4	3																																																																																																																				
	180° 巻き 7	5	3	2																																																																																																																				
	360° 巻き 5	3	2	-																																																																																																																				
区 分	PC鋼材を使用しない場合																																																																																																																							
	1.0		1.5				2.0																																																																																																																	
製品長(m)																																																																																																																								
枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	② ③	④																																																																																																															
作業日当り標準作業量 (m/日)	6	3	8	6	4	3	17	11	9																																																																																																															
	PC鋼材による縦連結の場合																																																																																																																							
	1.5				2.0																																																																																																																			
	②	④	⑤	⑥	①	② ③	④																																																																																																																	
	4	4	3	2	13	8	5																																																																																																																	

工 種 名	設 定 内 容											
排水構造物工	② ボックスカルバート+雑工種(基礎砕石・均しコンクリート)											
	区 分		PC鋼材を使用しない場合									
	製品長(m)		1.0		1.5			2.0				
	枠 番 号		④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	②	③	④
	作業日当り標準作業量 (m/日)		4	2	4	4	2	2	10	5	7	4
	PC鋼材による縦連結の場合											
	1.5					2.0						
	②		④		⑤		⑥		①		②	
	③		④		⑤		⑥		①		②	
	3		3		2		1		9		4	
	<p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・ボックスカルバート設置 <p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、ボックスカルバート設置延長換算値である。</p>											
	(3) 暗渠排水管											
	区 分		直 管			波・網状管						
	管 径(mm)		50～150		200～400		50～150		200～400		450～600	
	作業日当り標準作業量 (m/日)		250		125		429		273		150	
(4) フィルター材												
作業日当り標準作業量 (m ³ /日)					36							
(5) 管(函)渠型側溝												
① 管(函)渠型側溝単体												
製品長 (m)					2.0							
内径又は内空幅 (mm)					200以上400以下			400を超え600以下				
作業日当り標準作業量(m/日)					33			17				
② 管(函)渠型側溝+基礎砕石												
製品長 (m)					2.0							
内径又は内空幅 (mm)					200以上400以下			400を超え600以下				
作業日当り標準作業量(m/日)					29			16				
<p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・管(函)渠型側溝設置 <p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、管(函)渠型側溝設置延長換算値である。</p>												
(6) プレキャスト集水樹												
① 集水樹単体												
製品質量(kg/基)		50以上 80以下	80を超え 400以下	400を超え 800以下	800を超え 1,200以下	1,200を超え 1,600以下	1,600を超え 2,200以下					
作業日当り標準作業量 (基/日)		100	24	17	14	11	9					

工 種 名	設 定 内 容																										
排水構造物工	② 集水桝＋基礎砕石																										
	<table border="1"> <tr> <td>製品質量(kg/基)</td> <td>50以上 80以下</td> <td>80を超え 400以下</td> <td>400を超え 800以下</td> <td>800を超え 1,200以下</td> <td>1,200を超え 1,600以下</td> <td>1,600を超え 2,200以下</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(基/日)</td> <td>77</td> <td>22</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </table>	製品質量(kg/基)	50以上 80以下	80を超え 400以下	400を超え 800以下	800を超え 1,200以下	1,200を超え 1,600以下	1,600を超え 2,200以下	作業日当り標準作業量(基/日)	77	22	16	13	10	8												
	製品質量(kg/基)	50以上 80以下	80を超え 400以下	400を超え 800以下	800を超え 1,200以下	1,200を超え 1,600以下	1,600を超え 2,200以下																				
	作業日当り標準作業量(基/日)	77	22	16	13	10	8																				
	<p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・集水桝設置 																										
	<p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、集水桝設置数量換算値である。</p>																										
	(7) 鉄筋コンクリート台付管																										
	① 鉄筋コンクリート台付管単体																										
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">管 径(mm)</td> <td>200</td> <td>250</td> <td>350</td> <td>400</td> <td>600</td> <td>700</td> <td>900</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>300</td> <td></td> <td>450</td> <td>500</td> <td>800</td> <td></td> <td>1,100</td> <td>1,200</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(m/日)</td> <td colspan="2">50</td> <td colspan="2">33</td> <td colspan="2">25</td> <td colspan="2">17</td> </tr> </table>	管 径(mm)	200	250	350	400	600	700	900	1,000	300		450	500	800		1,100	1,200	作業日当り標準作業量(m/日)	50		33		25		17	
	管 径(mm)		200	250	350	400	600	700	900	1,000																	
		300		450	500	800		1,100	1,200																		
	作業日当り標準作業量(m/日)	50		33		25		17																			
	② 鉄筋コンクリート台付管＋基礎砕石																										
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">管 径(mm)</td> <td>200</td> <td>250</td> <td>350</td> <td>400</td> <td>600</td> <td>700</td> <td>900</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>300</td> <td></td> <td>450</td> <td>500</td> <td>800</td> <td></td> <td>1,100</td> <td>1,200</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(m/日)</td> <td colspan="2">44</td> <td colspan="2">29</td> <td colspan="2">23</td> <td colspan="2">16</td> </tr> </table>	管 径(mm)	200	250	350	400	600	700	900	1,000	300		450	500	800		1,100	1,200	作業日当り標準作業量(m/日)	44		29		23		16	
	管 径(mm)		200	250	350	400	600	700	900	1,000																	
300			450	500	800		1,100	1,200																			
作業日当り標準作業量(m/日)	44		29		23		16																				
<p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・鉄筋コンクリート台付管設置 																											
<p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、鉄筋コンクリート台付管設置延長換算値である。</p>																											
(8) プレキャストL形側溝																											
① L形側溝単体																											
<table border="1"> <tr> <td>製品 長(m)</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(m/日)</td> <td>33</td> </tr> </table>	製品 長(m)	0.6	作業日当り標準作業量(m/日)	33																							
製品 長(m)	0.6																										
作業日当り標準作業量(m/日)	33																										
② L形側溝＋基礎砕石																											
<table border="1"> <tr> <td>製品 長(m)</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(m/日)</td> <td>29</td> </tr> </table>	製品 長(m)	0.6	作業日当り標準作業量(m/日)	29																							
製品 長(m)	0.6																										
作業日当り標準作業量(m/日)	29																										
<p>(注)1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・L形側溝設置 																											
<p>2. 上表②の作業日当り標準作業量は、L形側溝設置延長換算値である。</p>																											
(9) プレキャストマンホール																											
<table border="1"> <tr> <td>製品質量(kg/基)</td> <td>2,000以下</td> <td>2,000を超え4,000以下</td> </tr> <tr> <td>作業日当り標準作業量(基/日)</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </table>	製品質量(kg/基)	2,000以下	2,000を超え4,000以下	作業日当り標準作業量(基/日)	4	3																					
製品質量(kg/基)	2,000以下	2,000を超え4,000以下																									
作業日当り標準作業量(基/日)	4	3																									
<p>(注)1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・マンホール設置 																											
<p>2. 作業日当り標準作業量は、基礎材の有無にかかわらず適用出来る。</p>																											
<p>3. 上表の作業日当り標準作業量は、マンホール設置数量換算値である。</p>																											

工種名	設定内容																														
函渠工 (構造物単位)	<p>① 函渠工(1)</p> <table border="1" data-bbox="528 427 1297 889"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 427 1062 524">内空寸法</th> <th data-bbox="1062 427 1297 524">作業日当り標準作業量 (m3/日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td data-bbox="528 524 1062 557">幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:1.0以上2.5未満</td><td data-bbox="1062 524 1297 557">2.0</td></tr> <tr><td data-bbox="528 557 1062 591">幅:2.5以上4.0以下かつ高さ:1.0以上2.5未満</td><td data-bbox="1062 557 1297 591">3.4</td></tr> <tr><td data-bbox="528 591 1062 624">幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:2.5以上4.0以下</td><td data-bbox="1062 591 1297 624">3.5</td></tr> <tr><td data-bbox="528 624 1062 658">幅:2.5以上4.0未満かつ高さ:2.5以上4.0以下</td><td data-bbox="1062 624 1297 658">3.9</td></tr> <tr><td data-bbox="528 658 1062 692">幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:2.5以上4.0未満</td><td data-bbox="1062 658 1297 692">5.0</td></tr> <tr><td data-bbox="528 692 1062 725">幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:2.5以上4.0未満</td><td data-bbox="1062 692 1297 725">5.9</td></tr> <tr><td data-bbox="528 725 1062 759">幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:4.0以上5.5未満</td><td data-bbox="1062 725 1297 759">6.5</td></tr> <tr><td data-bbox="528 759 1062 792">幅:5.5以上7.0未満かつ高さ:4.0以上5.5未満</td><td data-bbox="1062 759 1297 792">7.5</td></tr> <tr><td data-bbox="528 792 1062 826">幅:7.0以上8.5未満かつ高さ:4.0以上5.5以下</td><td data-bbox="1062 792 1297 826">8.5</td></tr> <tr><td data-bbox="528 826 1062 860">幅:8.5以上10.0以下かつ高さ:4.0以上5.5以下</td><td data-bbox="1062 826 1297 860">10.0</td></tr> <tr><td data-bbox="528 860 1062 893">幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:5.5以上7.0以下</td><td data-bbox="1062 860 1297 893">7.2</td></tr> <tr><td data-bbox="528 893 1062 927">幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:5.5以上7.0以下</td><td data-bbox="1062 893 1297 927">8.4</td></tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・コンクリート打設・養生 ・型枠製作・設置、撤去 ・鉄筋加工・組立 ・足場設置、撤去・支保設置、撤去 ・目地材設置・止水板設置 <p>2. 上表の作業日当り標準作業量は、作業の重複を考慮した1ブロックでの値であり、工程の算出に当っては、施工場所、ブロック数を考慮して決定するものとする。</p> <p>3. 上表の作業日当り標準作業量は、基礎材敷均し・転圧、均しコンクリート、足場の施工の有無、足場形式(枠組足場又は手摺先行型枠組足場)にかかわらず適用出来る。</p> <p>4. コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用する。</p> <p>5. 上表の作業日当り標準作業量は、本体コンクリート(函渠、ウイング、段落ち防止枕)換算値である。</p> <p>② 函渠工(2)(⑥-1函渠工(1)の適用範囲を外れた構造物)</p> <table border="1" data-bbox="528 1608 1206 1671"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 1608 890 1641">作業名</th> <th data-bbox="890 1608 1206 1641">作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 1641 890 1671">コンクリートポンプ車打設</td> <td data-bbox="890 1641 1206 1671">102m3/日</td> </tr> </tbody> </table>	内空寸法	作業日当り標準作業量 (m3/日)	幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:1.0以上2.5未満	2.0	幅:2.5以上4.0以下かつ高さ:1.0以上2.5未満	3.4	幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:2.5以上4.0以下	3.5	幅:2.5以上4.0未満かつ高さ:2.5以上4.0以下	3.9	幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:2.5以上4.0未満	5.0	幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:2.5以上4.0未満	5.9	幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:4.0以上5.5未満	6.5	幅:5.5以上7.0未満かつ高さ:4.0以上5.5未満	7.5	幅:7.0以上8.5未満かつ高さ:4.0以上5.5以下	8.5	幅:8.5以上10.0以下かつ高さ:4.0以上5.5以下	10.0	幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:5.5以上7.0以下	7.2	幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:5.5以上7.0以下	8.4	作業名	作業日当り標準作業量	コンクリートポンプ車打設	102m3/日
内空寸法	作業日当り標準作業量 (m3/日)																														
幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:1.0以上2.5未満	2.0																														
幅:2.5以上4.0以下かつ高さ:1.0以上2.5未満	3.4																														
幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:2.5以上4.0以下	3.5																														
幅:2.5以上4.0未満かつ高さ:2.5以上4.0以下	3.9																														
幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:2.5以上4.0未満	5.0																														
幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:2.5以上4.0未満	5.9																														
幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:4.0以上5.5未満	6.5																														
幅:5.5以上7.0未満かつ高さ:4.0以上5.5未満	7.5																														
幅:7.0以上8.5未満かつ高さ:4.0以上5.5以下	8.5																														
幅:8.5以上10.0以下かつ高さ:4.0以上5.5以下	10.0																														
幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:5.5以上7.0以下	7.2																														
幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:5.5以上7.0以下	8.4																														
作業名	作業日当り標準作業量																														
コンクリートポンプ車打設	102m3/日																														

工種名	設定内容							
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量			
				コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物 とりこわし	機械積込	無し	0.3km以下	118m3/日
							0.5km以下	103m3/日
							1.0km以下	90m3/日
							1.5km以下	81m3/日
							2.0km以下	70m3/日
							3.0km以下	59m3/日
							4.0km以下	51m3/日
							5.5km以下	43m3/日
							6.5km以下	37m3/日
							7.5km以下	32m3/日
							9.5km以下	28m3/日
							11.5km以下	25m3/日
							15.5km以下	20m3/日
						22.5km以下	16m3/日	
						49.5km以下	12m3/日	
						60.0km以下	8m3/日	
						有り	0.3km以下	118m3/日
							0.5km以下	103m3/日
							1.0km以下	90m3/日
							1.5km以下	81m3/日
							2.0km以下	70m3/日
							3.0km以下	59m3/日
							3.5km以下	51m3/日
							5.0km以下	43m3/日
							6.0km以下	37m3/日
7.0km以下	32m3/日							
8.5km以下	28m3/日							
11.0km以下	25m3/日							
14.0km以下	20m3/日							
19.5km以下	16m3/日							
31.5km以下	12m3/日							
60.0km以下	8m3/日							

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物 とりこわし	人力積込	無し	0.3km以下	15m ³ /日
				0.5km以下	14m ³ /日
				1.5km以下	13m ³ /日
				2.0km以下	11m ³ /日
				2.5km以下	10m ³ /日
				3.0km以下	9m ³ /日
				4.0km以下	8m ³ /日
				5.0km以下	7m ³ /日
				6.5km以下	6m ³ /日
				8.5km以下	5m ³ /日
			11.0km以下	4m ³ /日	
			16.0km以下	3m ³ /日	
			27.5km以下	3m ³ /日	
			60.0km以下	2m ³ /日	
			0.5km以下	14m ³ /日	
			1.0km以下	13m ³ /日	
			1.5km以下	11m ³ /日	
			2.0km以下	10m ³ /日	
			2.5km以下	9m ³ /日	
3.5km以下			8m ³ /日		
4.5km以下	7m ³ /日				
6.0km以下	6m ³ /日				
8.0km以下	5m ³ /日				
10.5km以下	4m ³ /日				
14.5km以下	3m ³ /日				
23.0km以下	3m ³ /日				
60.0km以下	2m ³ /日				

工種名	設定内容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	舗装版破碎	機械積込 (騒音対策不要、 舗装版厚 15cm超) または (騒音対策必要)	無し	0.5km以下	70m3/日
				1.0km以下	64m3/日
				2.0km以下	55m3/日
				2.5km以下	48m3/日
				3.5km以下	43m3/日
				4.5km以下	37m3/日
				6.0km以下	32m3/日
				7.5km以下	28m3/日
				10.0km以下	25m3/日
				13.5km以下	20m3/日
				19.5km以下	16m3/日
			39.0km以下	12m3/日	
			60.0km以下	8m3/日	
			1.0km以下	64m3/日	
			1.5km以下	55m3/日	
			2.0km以下	48m3/日	
			3.0km以下	43m3/日	
			4.0km以下	37m3/日	
			5.5km以下	32m3/日	
			7.0km以下	28m3/日	
			9.0km以下	25m3/日	
			12.0km以下	20m3/日	
17.5km以下			16m3/日		
28.5km以下	12m3/日				
60.0km以下	8m3/日				

工種名	設定内容							
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量			
				舗装版破碎	人力積込	無し	0.3km以下	15m3/日
							0.5km以下	14m3/日
							1.5km以下	13m3/日
							2.0km以下	11m3/日
							2.5km以下	10m3/日
							3.0km以下	9m3/日
							4.0km以下	8m3/日
							5.0km以下	7m3/日
							6.5km以下	6m3/日
							8.5km以下	5m3/日
							11.0km以下	4m3/日
							16.0km以下	3m3/日
							27.5km以下	3m3/日
				60.0km以下	2m3/日			
						有り	0.3km以下	15m3/日
							0.5km以下	14m3/日
							1.0km以下	13m3/日
							1.5km以下	11m3/日
							2.0km以下	10m3/日
							2.5km以下	9m3/日
							3.5km以下	8m3/日
							4.5km以下	7m3/日
6.0km以下	6m3/日							
8.0km以下	5m3/日							
10.5km以下	4m3/日							
14.5km以下	3m3/日							
23.0km以下	3m3/日							
60.0km以下	2m3/日							

工種名	設定内容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	機械積込 (騒音対策不要、 舗装版厚 15cm以下)	無し	0.3km以下	32m3/日	
			1.5km以下	28m3/日	
			3.5km以下	25m3/日	
			6.5km以下	20m3/日	
			11.5km以下	16m3/日	
			22.0km以下	12m3/日	
			60.0km以下	8m3/日	
			0.3km以下	32m3/日	
			1.5km以下	28m3/日	
			3.5km以下	25m3/日	
			6.0km以下	20m3/日	
			10.5km以下	16m3/日	
			19.5km以下	12m3/日	
			60.0km以下	8m3/日	
	舗装版破碎	無し	0.3km以下	17m3/日	
			1.0km以下	15m3/日	
			1.5km以下	13m3/日	
			2.5km以下	11m3/日	
			3.0km以下	10m3/日	
			3.5km以下	9m3/日	
			4.5km以下	8m3/日	
			5.5km以下	7m3/日	
			7.0km以下	6m3/日	
			9.0km以下	5m3/日	
			12.0km以下	4m3/日	
			17.0km以下	3m3/日	
			28.5km以下	3m3/日	
			60.0km以下	2m3/日	
		機械積込 (小規模土工)	0.3km以下	17m3/日	
1.0km以下			15m3/日		
1.5km以下			13m3/日		
2.5km以下			11m3/日		
3.0km以下			10m3/日		
3.5km以下			9m3/日		
4.5km以下			8m3/日		
5.5km以下			7m3/日		
7.0km以下	6m3/日				
9.0km以下	5m3/日				
12.0km以下	4m3/日				
17.0km以下	3m3/日				
28.5km以下	3m3/日				
60.0km以下	2m3/日				

工種名	設定内容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	吹付法面取壊し (モルタル)	機械積込	無し	0.5km以下	100m3/日
				1.0km以下	83m3/日
				1.5km以下	71m3/日
				2.5km以下	63m3/日
				3.5km以下	56m3/日
				5.5km以下	45m3/日
				7.5km以下	36m3/日
				9.5km以下	31m3/日
				12.0km以下	27m3/日
				16.5km以下	22m3/日
				25.5km以下	18m3/日
			60.0km以下	13m3/日	
			1.0km以下	83m3/日	
			1.5km以下	71m3/日	
			2.5km以下	63m3/日	
			3.5km以下	56m3/日	
			5.5km以下	45m3/日	
			7.0km以下	36m3/日	
			8.5km以下	31m3/日	
			11.0km以下	27m3/日	
			15.0km以下	22m3/日	
			22.0km以下	18m3/日	
42.0km以下			13m3/日		
60.0km以下	9m3/日				

工種名	設定内容																											
コンクリート工	<p>① コンクリート</p> <table border="1" data-bbox="528 427 1390 611"> <thead> <tr> <th>構造物区分</th> <th>打設方法</th> <th>設計日打設量区分</th> <th>作業日当り標準打設量</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">無筋・鉄筋構造物</td> <td>コンクリート</td> <td>10m3以上300m3未満</td> <td>81m3/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ポンプ車打設</td> <td>300m3以上600m3未満</td> <td>400m3/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人力打設</td> <td>10m3未満</td> <td>4m3/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小型構造物</td> <td>クレーン車打設</td> <td>—</td> <td>6m3/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人力打設</td> <td>—</td> <td>5m3/日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 養生工は、現場、施工条件等により別途考慮する。</p>	構造物区分	打設方法	設計日打設量区分	作業日当り標準打設量	摘要	無筋・鉄筋構造物	コンクリート	10m3以上300m3未満	81m3/日		ポンプ車打設	300m3以上600m3未満	400m3/日		人力打設	10m3未満	4m3/日		小型構造物	クレーン車打設	—	6m3/日		人力打設	—	5m3/日	
構造物区分	打設方法	設計日打設量区分	作業日当り標準打設量	摘要																								
無筋・鉄筋構造物	コンクリート	10m3以上300m3未満	81m3/日																									
	ポンプ車打設	300m3以上600m3未満	400m3/日																									
	人力打設	10m3未満	4m3/日																									
小型構造物	クレーン車打設	—	6m3/日																									
	人力打設	—	5m3/日																									
型枠工	<p>① 型枠</p> <table border="1" data-bbox="528 763 1297 857"> <thead> <tr> <th>作業名</th> <th>対象構造物</th> <th>作業日当り標準作業量</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">型枠の製作・設置・撤去</td> <td>鉄筋・無筋構造物</td> <td>38m2/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小型構造物</td> <td>15m2/日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	作業名	対象構造物	作業日当り標準作業量	摘要	型枠の製作・設置・撤去	鉄筋・無筋構造物	38m2/日		小型構造物	15m2/日																	
作業名	対象構造物	作業日当り標準作業量	摘要																									
型枠の製作・設置・撤去	鉄筋・無筋構造物	38m2/日																										
	小型構造物	15m2/日																										
仮設材設置撤去工	<p>① 仮設材設置撤去工</p> <table border="1" data-bbox="528 947 1326 1193"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業名</th> <th colspan="2">作業日当り標準作業量</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>設置日数</th> <th>撤去日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切梁・起し</td> <td>6.1t/日 (10.1t/日)</td> <td>10.2t/日 (18.3t/日)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タイロッド・腹起し</td> <td>2.0t/日</td> <td>4.6t/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆工板</td> <td>119.3m2/日</td> <td>209.2m2/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆工板桁</td> <td>6.2t/日</td> <td>10.1t/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横矢板</td> <td>24.8m2/日</td> <td>49.3m2/日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 覆工板受桁用桁受の設置・撤去は、覆工板受桁に準ずる。 2. 切梁・腹起しにて、火打ちブロックを使用する場合の日当り施工量は、()の値とする。</p>	作業名	作業日当り標準作業量		摘要	設置日数	撤去日数	切梁・起し	6.1t/日 (10.1t/日)	10.2t/日 (18.3t/日)		タイロッド・腹起し	2.0t/日	4.6t/日		覆工板	119.3m2/日	209.2m2/日		覆工板桁	6.2t/日	10.1t/日		横矢板	24.8m2/日	49.3m2/日		
作業名	作業日当り標準作業量		摘要																									
	設置日数	撤去日数																										
切梁・起し	6.1t/日 (10.1t/日)	10.2t/日 (18.3t/日)																										
タイロッド・腹起し	2.0t/日	4.6t/日																										
覆工板	119.3m2/日	209.2m2/日																										
覆工板桁	6.2t/日	10.1t/日																										
横矢板	24.8m2/日	49.3m2/日																										
足場・支保工	<p>① 足場工</p> <table border="1" data-bbox="528 1424 1257 1547"> <thead> <tr> <th>作業名</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手摺先行型枠組足場設置・撤去</td> <td>61掛m2</td> </tr> <tr> <td>単管足場設置・撤去</td> <td>79掛m2</td> </tr> <tr> <td>単管傾斜足場設置・撤去</td> <td>57掛m2</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 支保工</p> <table border="1" data-bbox="528 1608 1390 1765"> <thead> <tr> <th>作業名</th> <th>支保耐力(fkN/m²(t/m²))</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">パイプサポート支保設置撤去</td> <td>$f \leq 40(4.1)$</td> <td>27空m³</td> </tr> <tr> <td>$40(4.1) < f \leq 60(6.1)$</td> <td>15空m³</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">くさび結合支保設置・撤去</td> <td>$f \leq 40(4.1)$</td> <td>67空m³</td> </tr> <tr> <td>$40(4.1) < f \leq 80(8.2)$</td> <td>37空m³</td> </tr> </tbody> </table>	作業名	作業日当り標準作業量	手摺先行型枠組足場設置・撤去	61掛m2	単管足場設置・撤去	79掛m2	単管傾斜足場設置・撤去	57掛m2	作業名	支保耐力(f kN/m ² (t/m ²))	作業日当り標準作業量	パイプサポート支保設置撤去	$f \leq 40(4.1)$	27空m ³	$40(4.1) < f \leq 60(6.1)$	15空m ³	くさび結合支保設置・撤去	$f \leq 40(4.1)$	67空m ³	$40(4.1) < f \leq 80(8.2)$	37空m ³						
作業名	作業日当り標準作業量																											
手摺先行型枠組足場設置・撤去	61掛m2																											
単管足場設置・撤去	79掛m2																											
単管傾斜足場設置・撤去	57掛m2																											
作業名	支保耐力(f kN/m ² (t/m ²))	作業日当り標準作業量																										
パイプサポート支保設置撤去	$f \leq 40(4.1)$	27空m ³																										
	$40(4.1) < f \leq 60(6.1)$	15空m ³																										
くさび結合支保設置・撤去	$f \leq 40(4.1)$	67空m ³																										
	$40(4.1) < f \leq 80(8.2)$	37空m ³																										

工 種 名	設 定 内 容																																																																														
締切排水工	① ポンプ据付・撤去 <table border="1" data-bbox="528 427 1254 488"> <tr> <td data-bbox="528 427 890 488">作業日当り標準作業量 (箇所/日)</td> <td data-bbox="890 427 1254 488">1.7</td> </tr> </table> (注) 上表の作業日当り標準作業量には、ポンプ運転は含まれていない。				作業日当り標準作業量 (箇所/日)	1.7																																																																									
作業日当り標準作業量 (箇所/日)	1.7																																																																														
舗装工	① 路盤工 不陸整正及び路盤工 (1日・1層当り) <table border="1" data-bbox="528 689 1297 815"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 689 699 719">施工区分</th> <th data-bbox="699 689 954 719">工 種</th> <th data-bbox="954 689 1043 719">単 位</th> <th data-bbox="1043 689 1297 719">作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 719 699 748">車道・路肩部</td> <td data-bbox="699 719 954 748">不陸整正</td> <td data-bbox="954 719 1043 748">m2</td> <td data-bbox="1043 719 1297 748">1,580m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 748 699 777">施工</td> <td data-bbox="699 748 954 777">下層路盤及び上層路盤</td> <td data-bbox="954 748 1043 777">"</td> <td data-bbox="1043 748 1297 777">1,110m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 777 699 806">歩道施工</td> <td data-bbox="699 777 954 806">下層路盤及び上層路盤</td> <td data-bbox="954 777 1043 806">"</td> <td data-bbox="1043 777 1297 806">268m2/日・層</td> </tr> </tbody> </table> (注)1. 下層路盤の一層当りの仕上り厚さは20cmまでとする。 2. 上層路盤の一層当りの仕上り厚さは15cmまで(瀝青安定処理路盤の場合は10cm)とする。				施工区分	工 種	単 位	作業日当り標準作業量	車道・路肩部	不陸整正	m2	1,580m2/日・層	施工	下層路盤及び上層路盤	"	1,110m2/日・層	歩道施工	下層路盤及び上層路盤	"	268m2/日・層																																																											
施工区分	工 種	単 位	作業日当り標準作業量																																																																												
車道・路肩部	不陸整正	m2	1,580m2/日・層																																																																												
施工	下層路盤及び上層路盤	"	1,110m2/日・層																																																																												
歩道施工	下層路盤及び上層路盤	"	268m2/日・層																																																																												
アスファルト舗装工	① 舗設工 (1日・1層当り) <table border="1" data-bbox="528 1055 1334 1727"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 1055 783 1115">施工区分</th> <th data-bbox="783 1055 927 1115">平均厚さ</th> <th data-bbox="927 1055 1070 1115">平均幅員</th> <th data-bbox="1070 1055 1160 1115">単 位</th> <th data-bbox="1160 1055 1334 1115">作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 1122 783 1420" rowspan="12">基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)</td> <td data-bbox="783 1122 927 1151">25mm以上</td> <td data-bbox="927 1122 1070 1151">1.4m未満</td> <td data-bbox="1070 1122 1160 1420" rowspan="12">m2</td> <td data-bbox="1160 1122 1334 1151">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1151 927 1180">35mm未満</td> <td data-bbox="927 1151 1070 1180">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1151 1334 1180">1,000m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1180 927 1209">35mm以上</td> <td data-bbox="927 1180 1070 1209">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1180 1334 1209">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1209 927 1238">45mm未満</td> <td data-bbox="927 1209 1070 1238">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1209 1334 1238">2,300m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1238 927 1267">45mm以上</td> <td data-bbox="927 1238 1070 1267">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1238 1334 1267">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1267 927 1296">55mm未満</td> <td data-bbox="927 1267 1070 1296">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1267 1334 1296">2,300m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1296 927 1326">55mm以上</td> <td data-bbox="927 1296 1070 1326">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1296 1334 1326">230m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1326 927 1355">65mm未満</td> <td data-bbox="927 1326 1070 1355">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1326 1334 1355">2,300m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1355 927 1384">65mm以上</td> <td data-bbox="927 1355 1070 1384">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1355 1334 1384">230m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1384 927 1413">70mm未満</td> <td data-bbox="927 1384 1070 1413">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1384 1334 1413">2,300m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 1420 783 1727" rowspan="6">基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)</td> <td data-bbox="783 1420 927 1449">25mm以上</td> <td data-bbox="927 1420 1070 1449">1.4m未満</td> <td data-bbox="1070 1420 1160 1727" rowspan="6">m2</td> <td data-bbox="1160 1420 1334 1449">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1449 927 1478">35mm未満</td> <td data-bbox="927 1449 1070 1478">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1449 1334 1478">1,000m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1478 927 1507">35mm以上</td> <td data-bbox="927 1478 1070 1507">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1478 1334 1507">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1507 927 1536">45mm未満</td> <td data-bbox="927 1507 1070 1536">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1507 1334 1536">1,000m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1536 927 1565">45mm以上</td> <td data-bbox="927 1536 1070 1565">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1536 1334 1565">250m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1565 927 1594">55mm未満</td> <td data-bbox="927 1565 1070 1594">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1565 1334 1594">1,000m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1594 927 1624">55mm以上</td> <td data-bbox="927 1594 1070 1624">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1594 1334 1624">230m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1624 927 1653">65mm未満</td> <td data-bbox="927 1624 1070 1653">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1624 1334 1653">1,000m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1653 927 1682">65mm以上</td> <td data-bbox="927 1653 1070 1682">1.4m未満</td> <td data-bbox="1160 1653 1334 1682">230m2/日・層</td> </tr> <tr> <td data-bbox="783 1682 927 1711">70mm以下</td> <td data-bbox="927 1682 1070 1711">1.4m以上</td> <td data-bbox="1160 1682 1334 1711">1,000m2/日・層</td> </tr> </tbody> </table> ② アスカーブ (1日当り) <table border="1" data-bbox="528 1827 1160 1888"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 1827 783 1856">名 称</th> <th data-bbox="783 1827 927 1856">単 位</th> <th data-bbox="927 1827 1160 1856">作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 1856 783 1888">アスカーブ</td> <td data-bbox="783 1856 927 1888">m</td> <td data-bbox="927 1856 1160 1888">260m/日</td> </tr> </tbody> </table>				施工区分	平均厚さ	平均幅員	単 位	作業日当り標準作業量	基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)	25mm以上	1.4m未満	m2	250m2/日・層	35mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層	35mm以上	1.4m未満	250m2/日・層	45mm未満	1.4m以上	2,300m2/日・層	45mm以上	1.4m未満	250m2/日・層	55mm未満	1.4m以上	2,300m2/日・層	55mm以上	1.4m未満	230m2/日・層	65mm未満	1.4m以上	2,300m2/日・層	65mm以上	1.4m未満	230m2/日・層	70mm未満	1.4m以上	2,300m2/日・層	基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)	25mm以上	1.4m未満	m2	250m2/日・層	35mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層	35mm以上	1.4m未満	250m2/日・層	45mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層	45mm以上	1.4m未満	250m2/日・層	55mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層	55mm以上	1.4m未満	230m2/日・層	65mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層	65mm以上	1.4m未満	230m2/日・層	70mm以下	1.4m以上	1,000m2/日・層	名 称	単 位	作業日当り標準作業量	アスカーブ	m	260m/日
施工区分	平均厚さ	平均幅員	単 位	作業日当り標準作業量																																																																											
基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)	25mm以上	1.4m未満	m2	250m2/日・層																																																																											
	35mm未満	1.4m以上		1,000m2/日・層																																																																											
	35mm以上	1.4m未満		250m2/日・層																																																																											
	45mm未満	1.4m以上		2,300m2/日・層																																																																											
	45mm以上	1.4m未満		250m2/日・層																																																																											
	55mm未満	1.4m以上		2,300m2/日・層																																																																											
	55mm以上	1.4m未満		230m2/日・層																																																																											
	65mm未満	1.4m以上		2,300m2/日・層																																																																											
	65mm以上	1.4m未満		230m2/日・層																																																																											
	70mm未満	1.4m以上		2,300m2/日・層																																																																											
	基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)	25mm以上		1.4m未満	m2	250m2/日・層																																																																									
		35mm未満		1.4m以上		1,000m2/日・層																																																																									
35mm以上		1.4m未満	250m2/日・層																																																																												
45mm未満		1.4m以上	1,000m2/日・層																																																																												
45mm以上		1.4m未満	250m2/日・層																																																																												
55mm未満		1.4m以上	1,000m2/日・層																																																																												
55mm以上	1.4m未満	230m2/日・層																																																																													
65mm未満	1.4m以上	1,000m2/日・層																																																																													
65mm以上	1.4m未満	230m2/日・層																																																																													
70mm以下	1.4m以上	1,000m2/日・層																																																																													
名 称	単 位	作業日当り標準作業量																																																																													
アスカーブ	m	260m/日																																																																													

工 種 名	設 定 内 容			
排水性舗装工	① 排水性舗装・表層(車道・路肩部)			
	平均施工幅員	導水パイプの設置	作業日当り標準作業量	
	1.4m未満	有	170m ² /日・層	
		無	190m ² /日・層	
1.4m以上	有	1,500m ² /日・層		
	無	1,700m ² /日・層		
透水性アスファルト舗装工	① フィルター層			
	作 業 名	作業日当り標準作業量		
	フィルター材の敷均し及び締固め	290m ² /日・層		
	② 透水性アスファルト舗装			
平均施工幅員	作業日当り標準作業量			
1.4m以上	600m ² /日・層			
1.4m未満	200m ² /日・層			
コンクリート舗装工	① コンクリート舗装工			
	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要	
	機械舗設	1車	111m ² /日	
		2	129m ² /日	
人力舗設	舗装厚20cm以上	47m ² /日		
	舗装厚20cm未満	69m ² /日		
路側工	① 歩車道境界ブロック据付、地先境界ブロック据付			
	ブロックの質量		作業日当り標準作業量	
	ブロックの長さ	ブロックの質量		
	600mm以下	50kg未満	70m/日	
		50kg以上100kg未満	60m/日	
	600mmを超え1,000mm以下	50kg以上150kg未満	65m/日	
	1,000mmを超え2,000mm以下	150kg以上550kg未満	70m/日	
	(注) 1. 上表は、直線部、曲線部及び片面用、両面用、乗入れ、すりつけ用ブロックを含む。			
	2. 上表には、敷モルタル、目地モルタルの施工を含む。			
	3. 上表には、ブロックの現場内小運搬を含む。			
4. 床掘り、埋戻し、基礎の施工は、別途計上する。				
② 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去				
再利用区分	作業日当り標準作業量			
処分	200m/日			
再利用	115m/日			
(注) 1. 上表は、直線部、曲線部及び片面用、両面用、乗入れ、すりつけ用ブロックを含む。				
2. 上表には、敷モルタル、目地モルタルの取外しを含む。				
3. 上表には、ブロックの現場内小運搬を含む。				
4. 基礎コンクリートのとりこわしは、含まない。				

工 種 名	設 定 内 容					
舗装版破碎工	① 舗装版破碎					
	(1) アスファルト舗装版					
	障害等 の有無	騒音振動 対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量		
				直接掘削 ・積込作業	舗装版 破碎作業	掘削・ 積込作業
	無し	不要	10cm以下	810m ² /日	-	-
			10cmを超え 15cm以下	560m ² /日	-	-
			15cmを超え 40cm以下	-	310m ² /日	370m ² /日
		必要	15cm以下	-	260m ² /日	490m ² /日
			15cmを超え 35cm以下	-	180m ² /日	370m ² /日
			35cm以下	-	-	-
(2) コンクリート舗装版						
騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量				
		直接掘削 ・積込作業	舗装版 破碎作業	掘削・ 積込作業		
不要	10cm以下	810m ² /日	-	-		
	10cmを超え 15cm以下	560m ² /日	-	-		
	15cmを超え 35cm以下	-	230m ² /日	260m ² /日		
	35cm以下	-	-	-		
必要	15cm以下	-	190m ² /日	320m ² /日		
	15cmを超え 35cm以下	-	150m ² /日	260m ² /日		
(3) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版						
Co+As(カバー)舗装による アスファルト舗装版厚		作業日当り標準作業量				
		舗装版 破碎作業	掘削・ 積込作業			
15cm以下		230m ² /日	170m ² /日			
15cmを超え22.5cm以下		230m ² /日	150m ² /日			

工 種 名	設 定 内 容																																									
舗装版切断工	<p>① 舗装版切断</p> <p>(1) アスファルト舗装版</p> <table border="1" data-bbox="528 472 1254 595"> <thead> <tr> <th>アスファルト舗装版厚</th> <th>作業日当り標準作業量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15cm以下</td> <td>240m/日</td> </tr> <tr> <td>15cmを超え30cm以下</td> <td>170m/日</td> </tr> <tr> <td>30cmを超え40cm以下</td> <td>120m/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) コンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版</p> <table border="1" data-bbox="528 689 1254 790"> <thead> <tr> <th>コンクリート舗装版厚</th> <th>作業日当り標準作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15cm以下</td> <td>150m/日</td> </tr> <tr> <td>15cmを超え30cm以下</td> <td>70m/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の場合、舗装版厚はコンクリート舗装版のみの厚さである。</p>	アスファルト舗装版厚	作業日当り標準作業量	15cm以下	240m/日	15cmを超え30cm以下	170m/日	30cmを超え40cm以下	120m/日	コンクリート舗装版厚	作業日当り標準作業	15cm以下	150m/日	15cmを超え30cm以下	70m/日																											
アスファルト舗装版厚	作業日当り標準作業量																																									
15cm以下	240m/日																																									
15cmを超え30cm以下	170m/日																																									
30cmを超え40cm以下	120m/日																																									
コンクリート舗装版厚	作業日当り標準作業																																									
15cm以下	150m/日																																									
15cmを超え30cm以下	70m/日																																									
道路打換え工	<p>① 道路打換え工</p> <p>作業日当り標準作業量(コンクリート圧砕機・大型ブレーカ) m2/日</p> <table border="1" data-bbox="528 1021 1342 1402"> <thead> <tr> <th colspan="2">全体掘削厚</th> <th colspan="2">40cm以下</th> <th>40cmを超え 80cm以下</th> <th>80cmを超え 120cm以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">復旧層数</td> <td>2</td> <td>3層以上 5以下</td> <td>4層以上 6層以下</td> <td>5, 6層</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">歩 掛 区 分</td> <td>コンクリート圧砕機 15cm以下</td> <td rowspan="3">270</td> <td>230</td> <td>190</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ15cm を超え30cm以下</td> <td rowspan="2">220</td> <td rowspan="2">180</td> <td rowspan="2">160</td> </tr> <tr> <td>コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ30cm を超え40cm以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>作業日当り標準作業量(バックホウによる直接掘削積込) m2/日</p> <table border="1" data-bbox="528 1496 1342 1854"> <thead> <tr> <th colspan="2">復旧層数</th> <th>2層</th> <th>3層以上 5層以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">歩 掛 区 分</td> <td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cm以下</td> <td>400</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>復旧層数</td> <td>2層</td> <td>3層以上 6層以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">歩 掛 区 分</td> <td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cmを超え80cm以下</td> <td>280</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 80cmを超え120cm以下</td> <td>210</td> <td>180</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 復旧層数は即日復旧を行う(路床～表層まで)の全層数とする。 2. 作業量はとりこわし～復旧までの作業量とする。</p>	全体掘削厚		40cm以下		40cmを超え 80cm以下	80cmを超え 120cm以下	復旧層数		2	3層以上 5以下	4層以上 6層以下	5, 6層	歩 掛 区 分	コンクリート圧砕機 15cm以下	270	230	190	170	コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ15cm を超え30cm以下	220	180	160	コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ30cm を超え40cm以下	復旧層数		2層	3層以上 5層以下	歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cm以下	400	310	復旧層数	2層	3層以上 6層以下	歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cmを超え80cm以下	280	220	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 80cmを超え120cm以下	210	180
全体掘削厚		40cm以下		40cmを超え 80cm以下	80cmを超え 120cm以下																																					
復旧層数		2	3層以上 5以下	4層以上 6層以下	5, 6層																																					
歩 掛 区 分	コンクリート圧砕機 15cm以下	270	230	190	170																																					
	コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ15cm を超え30cm以下		220	180	160																																					
	コンクリート圧砕機・ 大型ブレーカ30cm を超え40cm以下																																									
復旧層数		2層	3層以上 5層以下																																							
歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cm以下	400	310																																							
	復旧層数	2層	3層以上 6層以下																																							
歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40cmを超え80cm以下	280	220																																							
	バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 80cmを超え120cm以下	210	180																																							

工 種 名	設 定 内 容					
路床整形工	①路床整形					
	施工幅区分	現場条件	整地 (整正)	転圧		
	4m以上	標準工事	1015 m ² /h	840 m ² /h		
		拡幅工事	870 m ² /h	720 m ² /h		
		夜間工事	870 m ² /h	720 m ² /h		
		夜間拡幅工事	725 m ² /h	600 m ² /h		
	2.5m以上4m未満	標準工事	240 m ² /h	120 m ² /h		
		拡幅工事	200 m ² /h	96 m ² /h		
		夜間工事	200 m ² /h	96 m ² /h		
		夜間拡幅工事	160 m ² /h	72 m ² /h		
	1m以上2.5m未満	標準工事	100 m ² /h	120 m ² /h		
		拡幅工事	100 m ² /h	96 m ² /h		
		夜間工事	100 m ² /h	96 m ² /h		
		夜間拡幅工事	100 m ² /h	72 m ² /h		
	1m未満	標準工事	100 m ² /h	30 m ² /h		
		拡幅工事	100 m ² /h	25 m ² /h		
夜間工事		100 m ² /h	25 m ² /h			
夜間拡幅工事		100 m ² /h	20 m ² /h			
下層路盤(空港)	①下層路盤(空港)					
	施工幅区分	現場条件	敷均し (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	
	4m以上	標準工事	621 m ² /h	注1 332 m ² /h	注2 630 m ² /h	
		拡幅工事	518 m ² /h	注1 277 m ² /h	注2 525 m ² /h	
		夜間工事	518 m ² /h	注1 277 m ² /h	注2 525 m ² /h	
		夜間拡幅工事	414 m ² /h	注1 222 m ² /h	注2 420 m ² /h	
	2.5m以上4m未満	標準工事	240 m ² /h	173 m ² /h	—	
		拡幅工事	200 m ² /h	144 m ² /h		
		夜間工事	200 m ² /h	144 m ² /h		
		夜間拡幅工事	160 m ² /h	115 m ² /h		
	1m以上2.5m未満	標準工事	2.5 m ³ /日	173 m ² /h		
		拡幅工事	2 m ³ /日	144 m ² /h		
		夜間工事	2 m ³ /日	144 m ² /h		
		夜間拡幅工事	1.67 m ³ /日	115 m ² /h		
	1m未満	標準工事	2.5 m ³ /日	30 m ² /h		
		拡幅工事	2 m ³ /日	25 m ² /h		
夜間工事		2 m ³ /日	25 m ² /h			
夜間拡幅工事		1.67 m ³ /日	20 m ² /h			
(注)1. タイヤローラ質量8～20t 2. ロードローラ マカダム質量10～12t 3. 一層当りの最大仕上げ厚は10cm以上20cm以下とする。						
散水車(空港)	①散水車(空港)					
	路盤材種類	片道距離区分	時間当り標準作業量			
	碎石類	5km未満	1424 m ² /h			
		5km以上10km未満	1048 m ² /h			
	ソイルセメント	5km未満	1017 m ² /h			
5km以上10km未満		748 m ² /h				

工 種 名	設 定 内 容						
上層路盤(空港)	①上層路盤(空港)						
	路盤材種別	施工幅区分	現場条件	敷均し (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	
	碎石類・ ソイルセメント	4m以上	標準工事	621 m2/h	注1 332 m2/h	注2 630 m2/h	
			拡幅工事	518 m2/h	注1 277 m2/h	注2 525 m2/h	
			夜間工事	518 m2/h	注1 277 m2/h	注2 525 m2/h	
			夜間拡幅工事	414 m2/h	注1 222 m2/h	注2 420 m2/h	
		2.5m以上 4m未満	標準工事	240 m2/h	173 m2/h	—	
			拡幅工事	200 m2/h	144 m2/h		
			夜間工事	200 m2/h	144 m2/h		
			夜間拡幅工事	160 m2/h	115 m2/h		
		1m以上 2.5m未満	標準工事	2.5 m3/人・日	173 m2/h		
			拡幅工事	2 m3/人・日	144 m2/h		
			夜間工事	2 m3/人・日	144 m2/h		
			夜間拡幅工事	1.67 m3/人・日	115 m2/h		
		1m未満	標準工事	2.5 m3/人・日	30 m2/h		
			拡幅工事	2 m3/人・日	25 m2/h		
			夜間工事	2 m3/人・日	25 m2/h		
			夜間拡幅工事	1.67 m3/人・日	20 m2/h		
	<p>(注)1. タイヤローラ質量8～20t 2. ロードローラ マカダム質量10～12t 3. 一層当りの最大仕上げ厚は10cm以上20cm以下とする。</p>						
	路盤材種別	施工幅区分	現場条件	舗設 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)		転圧 (一層当り能力)
	アスファルト 安定処理	1.4m以上 2m以下	—	79 m2/h	注1 97 m2/h		注2 180 m2/h
2m超 2.5m以下		—	101 m2/h	注1 97 m2/h	注2 180 m2/h		
2.5m超3m 以下		—	124 m2/h	注1 97 m2/h	注2 180 m2/h		
3m超4m 以下		良好	368 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	315 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	263 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
4m超5m 以下		良好	473 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	405 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	338 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
5m超6m 以下		良好	578 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	495 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	413 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
6m超7m 以下		良好	683 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	585 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	488 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
7m超8m 以下		良好	788 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	675 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	563 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
8m超8.5m 以下		良好	866 m2/h	注3 1,103 m2/h	注4 1,820 m2/h		
		普通	743 m2/h	注3 945 m2/h	注4 1,560 m2/h		
		不良	619 m2/h	注3 788 m2/h	注4 1,300 m2/h		
<p>(注)1. タイヤローラ質量3～4t 2. 振動ローラ 搭乗式コンバインド型質量3～4t 3. ロードローラ マカダム質量10～12t 4. タイヤローラ質量8～20t 5. 一層当りの最大仕上げ厚は10cm以下とする。</p>							

工 種 名	設 定 内 容																		
路面清掃	<p>①路面清掃</p> <table border="1" data-bbox="528 427 927 546"> <thead> <tr> <th>現場条件</th> <th>時間当り施工数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良好</td> <td>3,070m²/h</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>2,560m²/h</td> </tr> <tr> <td>不良</td> <td>2,050m²/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 上表は作業1回当たりとする。</p>	現場条件	時間当り施工数量	良好	3,070m ² /h	普通	2,560m ² /h	不良	2,050m ² /h										
現場条件	時間当り施工数量																		
良好	3,070m ² /h																		
普通	2,560m ² /h																		
不良	2,050m ² /h																		
プライムコート (アスファルト舗装工)	<p>①プライムコート(アスファルト舗装工)</p> <table border="1" data-bbox="528 651 1086 745"> <thead> <tr> <th>施工機械</th> <th>1,000m²当り所要日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルトディストリビュータ</td> <td>0.05日</td> </tr> <tr> <td>エンジンスプレイヤ+トラック</td> <td>0.8日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. アスファルトディストリビュータの「補給箇所から散布箇所までの往復に要する時間(min)」は考慮していないので、上表により難しい場合は別途考慮する。</p>	施工機械	1,000m ² 当り所要日数	アスファルトディストリビュータ	0.05日	エンジンスプレイヤ+トラック	0.8日												
施工機械	1,000m ² 当り所要日数																		
アスファルトディストリビュータ	0.05日																		
エンジンスプレイヤ+トラック	0.8日																		
タックコート	<p>①タックコート</p> <table border="1" data-bbox="528 947 1289 1158"> <thead> <tr> <th>施工区分</th> <th>施工機械</th> <th>1,000m²当り所要日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">既設アスファルト舗装</td> <td>アスファルトディストリビュータ</td> <td>0.03日</td> </tr> <tr> <td>エンジンスプレイヤ+トラック</td> <td>0.3日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">新設</td> <td>アスファルトディストリビュータ</td> <td>0.03日</td> </tr> <tr> <td>エンジンスプレイヤ+トラック</td> <td>0.2日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">既設コンクリート舗装</td> <td>アスファルトディストリビュータ</td> <td>0.04日</td> </tr> <tr> <td>エンジンスプレイヤ+トラック</td> <td>0.4日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. アスファルトディストリビュータの「補給箇所から散布箇所までの往復に要する時間(min)」は考慮していないので、上表により難しい場合は別途考慮する。</p>	施工区分	施工機械	1,000m ² 当り所要日数	既設アスファルト舗装	アスファルトディストリビュータ	0.03日	エンジンスプレイヤ+トラック	0.3日	新設	アスファルトディストリビュータ	0.03日	エンジンスプレイヤ+トラック	0.2日	既設コンクリート舗装	アスファルトディストリビュータ	0.04日	エンジンスプレイヤ+トラック	0.4日
施工区分	施工機械	1,000m ² 当り所要日数																	
既設アスファルト舗装	アスファルトディストリビュータ	0.03日																	
	エンジンスプレイヤ+トラック	0.3日																	
新設	アスファルトディストリビュータ	0.03日																	
	エンジンスプレイヤ+トラック	0.2日																	
既設コンクリート舗装	アスファルトディストリビュータ	0.04日																	
	エンジンスプレイヤ+トラック	0.4日																	

工種名	設定内容							
基層・中間層(空港)	① 基層・中間層(空港)							
	施工場所	施設区分	施工幅区分	現場条件	舗設 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	
	一般部	基本施設	3m超 4m未満	良好	368 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	315 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	263 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			4m以上 5m未満	良好	473 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	405 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	338 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			5m以上 6m未満	良好	578 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	495 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	413 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			6m以上 7m未満	良好	683 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	585 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	488 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			7m以上 8m未満	良好	788 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	675 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	563 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			8m以上 8.5m以下	良好	866 m ² /h	注1 1,103 m ² /h	注2 1,820 m ² /h	
				普通	743 m ² /h	注1 945 m ² /h	注2 1,560 m ² /h	
				不良	619 m ² /h	注1 788 m ² /h	注2 1,300 m ² /h	
			基本施設 拡幅	1.4m以上 2m未満	—	79 m ² /h	注3 97 m ² /h	注4 180 m ² /h
				2m以上 2.5m未満	—	101 m ² /h	注3 97 m ² /h	注4 180 m ² /h
				2.5m以上 3m以下	—	124 m ² /h	注3 97 m ² /h	注4 180 m ² /h
	すりつけ部	—	—	良好	250 m ² /日	注1 250 m ² /日	注2 250 m ² /日	
				普通	250 m ² /日	注1 250 m ² /日	注2 250 m ² /日	
				不良	250 m ² /日	注1 250 m ² /日	注2 250 m ² /日	
	(注)1. ロードローラ マカダム質量10～12t 2. タイヤローラ質量8～20t 3. タイヤローラ質量3～4t 4. 振動ローラ 搭乗式コンバインド型質量3～4t 5. 一層当りの最大仕上げ厚は8cm以下とする。但し、すりつけ部の場合は3cm以下とする。							

工 種 名		設 定 内 容						
表層(空港)		①表層(空港)						
施工場所	施設区分	施工幅区分	現場条件	舗設 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	転圧 (一層当り能力)	
一般部	基本施設	3m超 4m未満	良好	368 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h	
			普通	315 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h	
			不良	263 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h	
		4m以上 5m未満	良好	473 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h	
			普通	405 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h	
			不良	338 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h	
		5m以上 6m未満	良好	578 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h	
			普通	495 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h	
			不良	413 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h	
		6m以上 7m未満	良好	683 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h	
			普通	585 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h	
			不良	488 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h	
	7m以上 8m未満	良好	788 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h		
		普通	675 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h		
		不良	563 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h		
	8m以上 8.5m以下	良好	866 m ² /h	注1 683 m ² /h	注2 1,103 m ² /h	注3 1,820 m ² /h		
		普通	743 m ² /h	注1 585 m ² /h	注2 945 m ² /h	注3 1,560 m ² /h		
		不良	619 m ² /h	注1 488 m ² /h	注2 788 m ² /h	注3 1,300 m ² /h		
	基本施設 拡幅	1.4m以上 2m未満	—	79 m ² /h	注4 97 m ² /h	注5 180 m ² /h	—	
		2m以上 2.5m未満	—	101 m ² /h	注4 97 m ² /h	注5 180 m ² /h		
		2.5m以上 3m以下	—	124 m ² /h	注4 97 m ² /h	注5 180 m ² /h		
すりつけ部	—	—	良好	250 m ² /日	—	注2 250 m ² /日	注3 250 m ² /日	
			普通	250 m ² /日		注2 250 m ² /日	注3 250 m ² /日	
			不良	250 m ² /日		注2 250 m ² /日	注3 250 m ² /日	

(注)1. 振動ローラ タンデム質量8～20t
2. ロードローラ マカダム質量10～12t
3. タイヤローラ質量8～20t
4. タイヤローラ質量3～4t
5. 振動ローラ 搭乗式コンバインド型質量3～4t
6. 一層当りの最大仕上げ厚は8cm以下とする。但し、すりつけ部の場合
は3cm以下とする。

第1章 土 工

① 土量変化率等

1. 土量の変化

土量の変化は次の3つの状態の土量に区分して考える。

地山の土量 …………… 掘削すべき土量

ほぐした土量 …………… 運搬すべき土量

締固め後の土量 …………… 出来上がりの盛土量

三つの状態の体積比を次式のように表わし、L及びCを土量の変化率という。

$$L = \frac{\text{ほぐした土量 (m3)}}{\text{地山の土量 (m3)}}$$

$$C = \frac{\text{締固め後の土量 (m3)}}{\text{地山の土量 (m3)}}$$

土量の配分計画を立てる場合には、この土量変化率を用いて、切土、盛土の土量計算を行う。

2. 土量変化率

統一分類法により分類した土の各土質に応じた変化率は表2. 1を標準とする。なお細分し難いときは表2. 2を使用してよい。

表2. 1 土量の変化率

分 類 名 称		記 号	変化率L	変化率C
主 要 区 分				
レキ質土	レキ	(GW) (GP) (GPs) (G-M) (G-C)	1.20	0.95
	レキ質土	(GM) (GC) (GO)	1.20	0.90
砂及び砂質土	砂	(SW) (SP) (SPu) (S-M) (S-C) (S-V)	1.20	0.95
	砂質土 (普通土)	(SM) (SC) (SV)	1.20	0.90
粘性土	粘性土	(ML) (CL) (OL)	1.30	0.90
	高含水比 粘性土	(MH) (CH)	1.25	0.90
岩塊玉石			1.20	1.00
軟岩Ⅰ			1.30	1.15
軟岩Ⅱ			1.50	1.20
中硬岩			1.60	1.25
硬岩Ⅰ			1.65	1.40

(注) 本表は体積(土量)より求めたL、Cである。

表2. 2 土量の変化率

分類名称 主要区分	変化率L	変化率C	1/C	L/C
砂質土及び砂	1.20	0.90	1.11	1.33
粘性土	1.25	0.90	1.11	1.39

- (注) 1. 本表は体積(土量)より求めたL、Cである。
 2. 1/Cは「締固め後の土量」を「地山の土量」に換算する場合に使用する。
 3. L/Cは「締固め後の土量」を「ほぐした土量」に換算する場合に使用する。

3. 適用土質及び機械損料補正

表3. 1 適用土質および機械損料補正

分類名称	掘削積込		ダンプトラック運搬		敷均し・締固め 損料補正
	適用土質	損料補正	適用土質	損料補正	
レキ質土	レキ質土	1.00	土砂	1.00	1.00
砂・砂質土	砂・砂質土	1.00	〃	1.00	1.00
粘性土	粘性土	1.00	〃	1.00	1.00
岩塊・玉石	岩塊・玉石	1.00	〃	1.00	1.00
軟岩(I)	レキ質土	1.00	軟岩	1.00	1.00
軟岩(II)	〃	1.00	〃	1.00	1.00
中硬岩	破碎岩	1.25	硬岩	1.25	1.25
硬岩(I)	〃	1.25	〃	1.25	1.25

- (注) 1. 軟岩(I)、軟岩(II)、中硬岩、硬岩(I)の掘削積込は、「ルーズな状態」に適用する。
 2. 各土質の分類名称の定義は、空港土木工事共通仕様書による。
 3. 機械損料補正は歩掛のみに適用する。なお、施工パッケージについては、パッケージ単価に岩石作業における機械損料の影響を含んでいる。

4. 土質区分の対応

空港土木工事共通仕様書における土質分類と積算条件の土質区分の関係は、以下のとおりである。

表4. 1 適用土質(1)

施工パッケージ 区分 分類名称	掘削	床掘り・埋戻し	掘削(砂防)	積込(ルーズ)	人力積込	積込(ルーズ)(砂防)	押土(ルーズ)	押土(ルーズ)(砂防)
砂・砂質土								
粘性土								
岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石
軟岩I	軟岩	-	軟岩	土砂	軟岩	土砂	土砂	土砂
軟岩II								
中硬岩	硬岩	-	硬岩	破碎岩	中硬岩	破碎岩	破碎岩	破碎岩
硬岩					硬岩			
転石	-	-	転石	-	-	-	-	-

表4.2 適用土質(2)

施工パッケージ 区分 分類名称	法面整形	土砂等運搬	土砂等運搬 (砂防)	人肩運搬 小車運搬 ベルトコンベア併用人力掘削 ベルトコンベア併用人力積込
レキ質土	レキ質土、砂・砂質土、 粘性土	土砂	土砂	土砂
砂・砂質土				
粘性土				
岩塊・玉石	—			岩塊・玉石
軟岩 I	軟岩 I	軟岩	軟岩	—
軟岩 II				
中硬岩	軟岩 II、中硬岩、硬岩	硬岩	硬岩	—
硬岩 I				
転石	—	—	—	—

② 土工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる土工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 掘削

- (1) 土砂、岩塊・玉石、軟岩、硬岩の掘削
- (2) 掘削深さが 5m 以内のバックホウ掘削の場合
- (3) 陸上掘削でクラムシェルによる水中掘削積込を行う場合
- (4) 破砕片除去を伴う際は、掘削面と機械基面の高低差が 5m までの場合
- (5) 岩石の床掘りの場合

1-1-2 土砂等運搬

- (1) 自工区内の土砂等の運搬
- (2) 土取場(仮置場)から採取する土砂等の運搬
- (3) 構造物築造のために行う作業土工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬
- (4) 掘削工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬

1-1-3 整地

- (1) 構造物築造のために行う作業土工で生じた土砂等又は掘削工で生じた土砂等の受入れ地(仮置場)、土取場での整地

1-1-4 路体(築堤)盛土

- (1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路体(築堤)盛土
- (2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路体(築堤)盛土
- (3) 土取場(仮置場)で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路体(築堤)盛土
- (4) 購入土を使用した路体(築堤)盛土

1-1-5 路床盛土

- (1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路床盛土
- (2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土
- (3) 土取場(仮置場)で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土
- (4) 購入土を使用した路床盛土
- (5) 空港土木工事における遮断層、凍上抑制層

1-1-6 押土(レーズ)

- (1) 運搬距離60m以下の押土による土砂等の運搬作業の場合
- (2) 運搬距離30m以下の岩掘削後の集積用押土の場合

1-1-7 積込(レーズ)

- (1) 土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の積込み
- (2) 仮置きされた土砂等の積込み
- (3) 破砕片除去の場合

1-1-8 人力積込

- (1) 仮置きされた土砂等の人力による積込み

1-1-9 転石破砕

- (1) 道路、河川工事等の岩掘削に伴う転石破砕

1-1-10 土材料

- (1) 道路土工、河川土工等における土材料(現場渡し単価又は土場渡し単価)を購入する場合
- (2) 空港土木工事における遮断層、凍上抑制層における材料(現場渡し単価又は工場渡し単価)購入する場合

1-1-11 残土等処分

- (1) 残土運搬された土砂等の残土の処分場での処分
- (2) 泥水運搬された汚泥、泥水等の受入れ地での処分

1-2 適用できない範囲(土木工事標準積算基準書等により別途計上するもの)

1-2-1 掘削

- (1) 海上・水上作業におけるクラムシェル水中掘削積込
- (2) クラムシェルによる床掘り(作業土工)
- (3) 深礎工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工におけるクラムシェル掘削積込
- (4) 河川堤防に布設する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合
- (5) 掘削(砂防)
- (6) 情報ボックス工の設置工事の掘削
- (7) 掘削(トンネル工)
- (8) 電線共同溝工事における掘削
- (9) 砂防、ダム、トンネルの本体工事の岩掘削及び水中掘削

1-2-2 土砂等運搬

- (1) 土砂等運搬(砂防)
- (2) 「河床等沈殿物、底沼等軟弱土の除去」した後の運搬作業
- (3) 機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬

1-2-3 整地

- (1) 締固めを含む場合

1-2-4 路体(築堤)盛土

- (1) 路床盛土工

1-2-5 路床盛土

- (1) 凍上抑制層を有する場合
- (2) 路体盛土工

1-2-6 押土(ルーズ)

- (1) 地山の掘削を伴う押土の場合
- (2) 押土(ルーズ)(砂防)

1-2-7 積込(ルーズ)

- (1) 地山を掘削した土砂等を直接運搬車両等に投入する場合
- (2) 積込(ルーズ)(砂防)
- (3) 人力による積込み

1-3 適用できない範囲(別途考慮するもの)

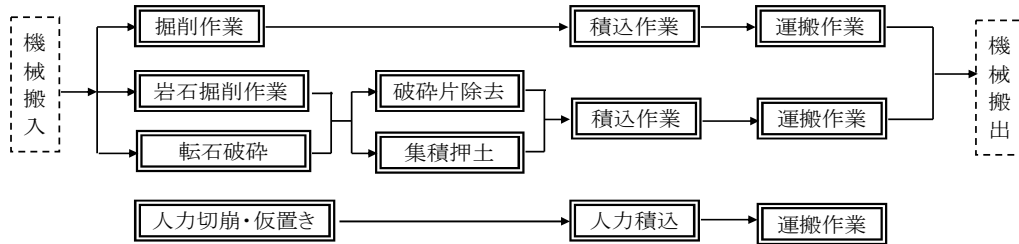
1-3-1 土砂等運搬

- (1) 自動車専用道路を利用する場合
- (2) 運搬距離が60kmを超える場合

2. 施工概要

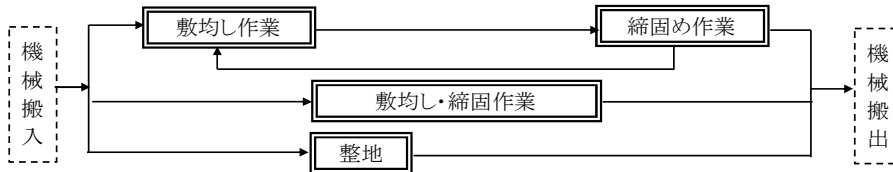
2-1 施工フロー

2-1-1 「掘削」、「転石破碎」、「押土(ルーズ)」「積込(ルーズ)」、「人力積込」、「土砂等運搬」



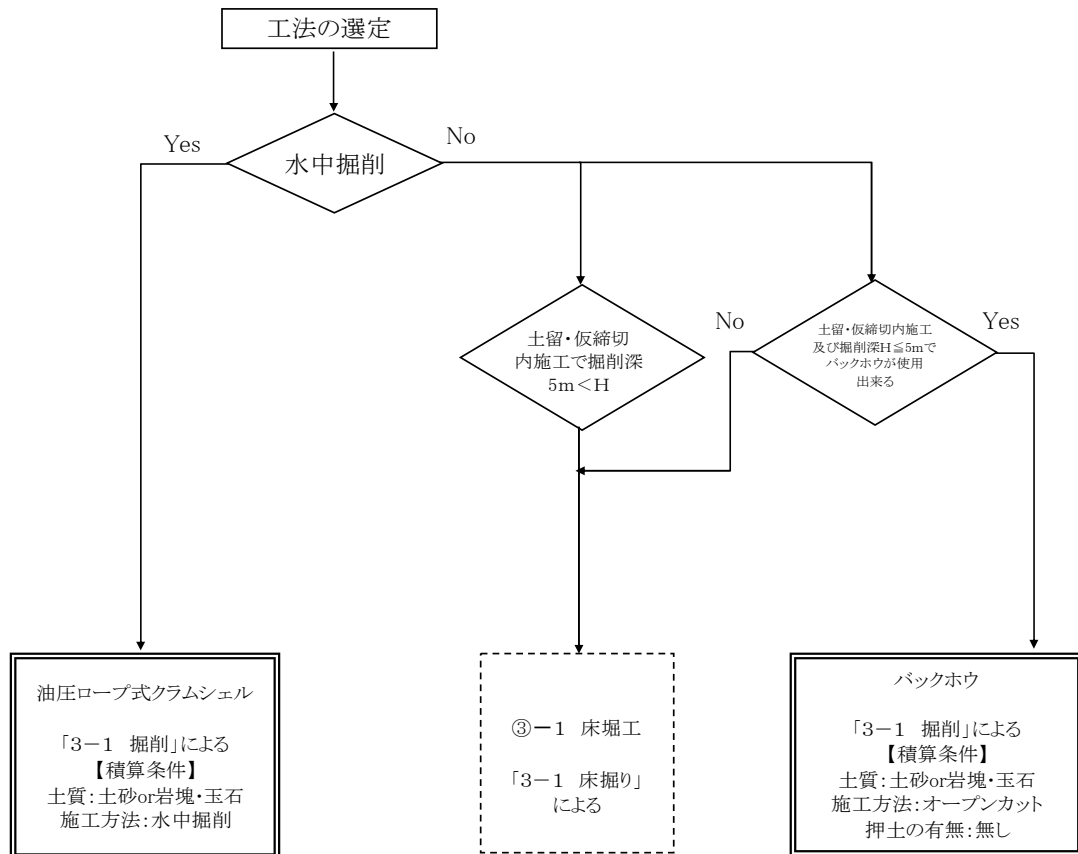
- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 破砕片除去、集積押土は必要な場合計上する(岩石掘削においては条件区分「有」を選択し、転石破碎においては「積込(ルーズ)」または「押土(ルーズ)」を別途計上する)。
 3. 積込、運搬は必要な場合計上する(積込については表「(参考)ダンプトラックによる土砂等運搬時に積込(ルーズ)の計上が必要な掘削の積算条件」による)。
 4. 人力切崩は現場制約有り(機械施工ができない箇所の人力施工)に適用する。
 5. 各作業の対象となる施工パッケージは「2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ」による。

2-1-2 「路体(築堤)盛土」、「路床盛土」、「整地」



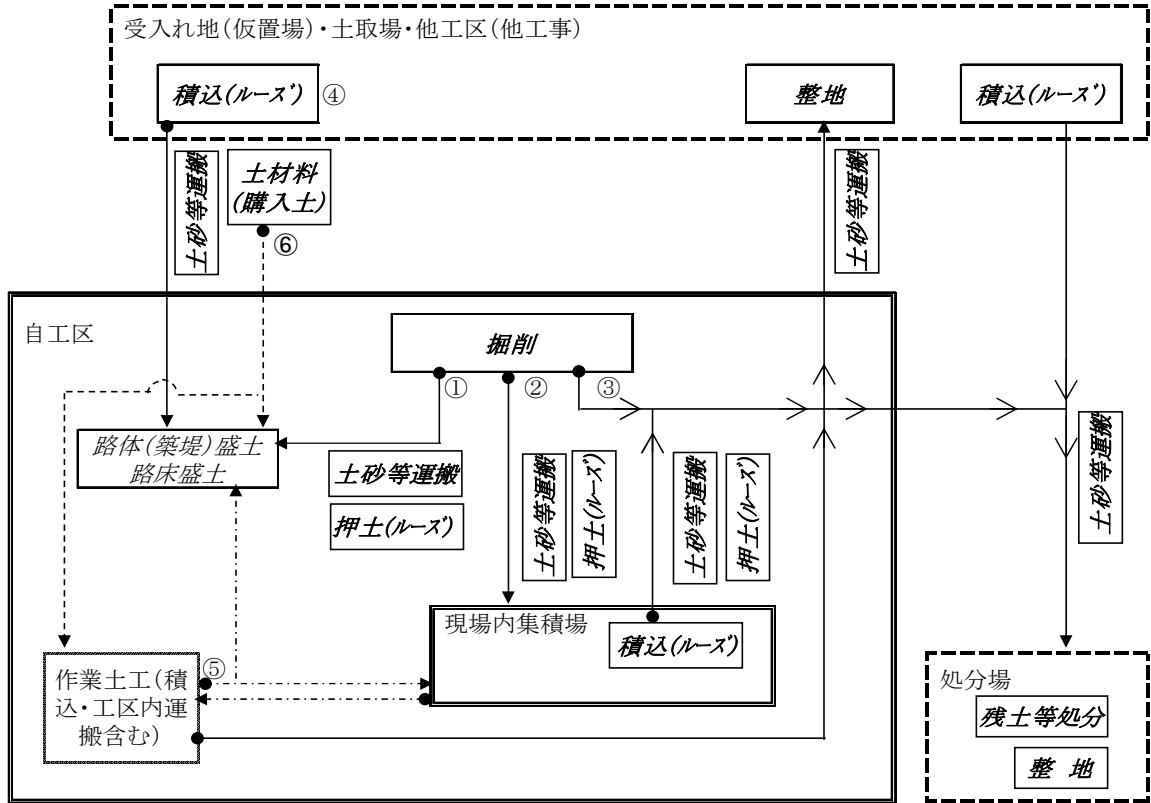
- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 整地は土砂、中硬岩、硬岩 I に関わらず適用できる。

2-1-3 「掘削」におけるクラムシェル工法選定フロー



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ
 (1) 道路土工、河川土工等



- 凡例 * **掘削**等施工パッケージ名称を斜体で示した。
 * **土砂等運搬**、**残土運搬**、**押土(ルース)**を実線で示した。 (●→)
 * 土材料(購入土)は通常現場着単価であり運搬は**土材料**に含まれるため破線で示した。(●---) (図中⑥)
 ただし、**土材料**(購入土)を土場渡し単価で積算する場合は**土砂等運搬**を計上する。
 * 作業土工(床掘り・埋戻し・工区内運搬)における土の流れを一点鎖線で示した。(図中⑤) (●- - -)

- 注 1 **掘削**に含まれる自工区内の運搬について(図中①、②)
 (1)土質が土砂の場合
 ・ **掘削**において、押土「有り」を選択した場合、60m以内の工区内運搬を含む。
 (2)土質が軟岩又は硬岩の場合
 ・ **掘削**において、以下の条件を選択した場合、30m以内の工区内運搬を含む。
 { 「軟岩」で施工数量「500m³以上」又は集積押土「有り」を選択した場合
 { 「硬岩」で火薬使用「可」又は集積押土「有り」を選択した場合
 2 土砂等運搬時の積込作業について(図中①～③)
 ・ **掘削**において、条件区分により積込作業を含まない場合がある。
 ・ **積込(ルース)**を別途計上する必要がある条件区分は、「(参考)ダンプトラックによる**積込(ルース)**」の計上が必要な掘削の積算条件」参照のこと。
 3 地山状態の土を掘削する場合は、**掘削**を使用する。(図中④)

(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に**積込(ルース)**の計上が必要な**掘削**の積算条件

掘削									積込 (ルース)
積算条件									
土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	
土砂	オープンカット	-	有り	-	※1	-	-	-	要
			無し	※1	※1	-	-	-	不要
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	-	要
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	要
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	不要
	上記以外(小規模)	-	-	-	※1	-	-	-	不要
岩塊・玉石	オープンカット	-	-	※1	※1	-	-	-	不要
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	不要
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	不要
軟岩	※1	-	-	-	※1	-	※1	※1	要
硬岩	※1	-	-	-	-	※1	※1	※1	要

注:表中「※1」は積算条件の区分の記載を省略している。

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

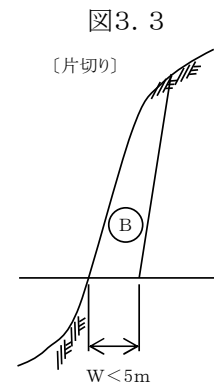
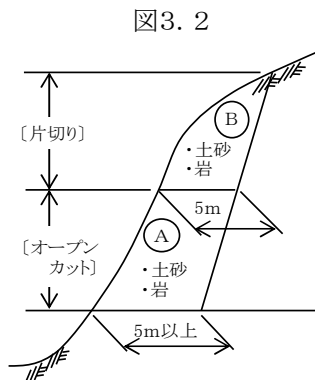
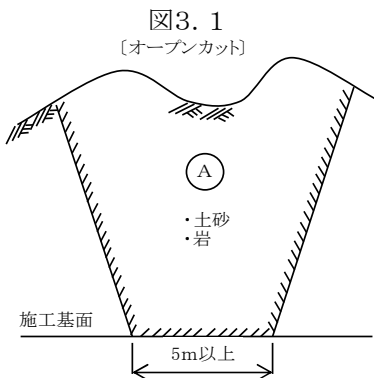
表3. 1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	
土砂	オープンカット	-	有り	-	普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土	-	-	-	
					30,000m3以上	-	-	-	
					50,000m3未満	-	-	-	
			無し	無し	50,000m3以上	-	-	-	
					50,000m3未満	-	-	-	
					50,000m3以上	-	-	-	
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	
	現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-	
	上記以外(小規模)	-	-	-	-	1箇所100m3以下(標準)	-	-	-
1箇所100m3以下(標準以外)						-	-	-	
岩塊・玉石	オープンカット	-	-	無し	50,000m3未満	-	-	-	
					50,000m3以上	-	-	-	
				有り	50,000m3未満	-	-	-	
					50,000m3以上	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	-	-	-	-	
現場制約あり	-	-	-	-	-	-	-		
軟岩	オープンカット	-	-	無し	500m3未満	-	無し	無し 有り	
							有り(50,000m3未満)	無し	
							有り(50,000m3以上)	無し	
							-	-	
				有り	500m3未満		無し	無し 有り	
							有り(50,000m3未満)	無し	
							有り(50,000m3以上)	無し	
							-	-	
	片切掘削	-	-	-	-	-	-	無し	無し 有り
								有り(50,000m3未満)	無し
								有り(50,000m3以上)	無し
								-	-
現場制約あり	-	軟岩(I)	-	-	-	-	-	-	
		軟岩(II)	-	-	-	-	-	-	

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	
硬岩	オープンカット	-	-	無し	-	不可	無し	無し 有り	
							有り (50,000m ³ 未満)	無し	
							有り (50,000m ³ 以上)	無し	
						可	無し	無し 有り	
							有り (50,000m ³ 未満)	無し	
							有り (50,000m ³ 以上)	無し	
	片切掘削	-	-	-	-	-	不可	無し	無し 有り
								有り (50,000m ³ 未満)	無し
								有り (50,000m ³ 以上)	無し
							可	無し	無し 有り
								有り (50,000m ³ 未満)	無し
								有り (50,000m ³ 以上)	無し
現場制約あり	中硬岩	-	-	-	-	-	-		
	硬岩 I	-	-	-	-	-	-		

- (注)1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削・積込み(掘削と同時に進行積込み)・運搬(掘削と同時に進行押土による運搬)、軟岩・硬岩の掘削・積込み・破砕片除去及び集積押土等(積込みは含まないため、別途計上)、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は、地山土量とする。
3. 施工方法は、掘削箇所の地形により「オープンカット」、「片切り」に区分する。



①オープンカット

図3.1に示すような切取面が、水平もしくは緩傾斜をなすように施工が出来る場合で、切取幅 5m以上、かつ延長 20m以上を標準とする。

②片切掘削

図3.2及び図3.3に示すような切取幅 5m未満の領域Bとする。なお、図3.2に示すような箇所にあっても、地形及び工事量などの現場条件等を十分考慮のうえ、前述のオープンカットが可能と判断される場合はオープンカットを適用する。

③水中掘削

土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが5mを超える場合、又は掘削深さが5m以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用出来ない場合での水中の掘削積込作業。

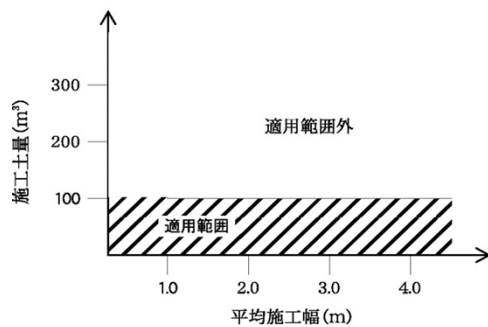
④現場制約あり

機械施工が困難な場合。

⑤上記以外(小規模)

1箇所当たり施工量が100m³以下の掘削・積込み作業。

図3.4 小規模の適用範囲



4. 押土の有無

①有り: 土砂の場合は、60mまでの運搬を含む。ただし、軟岩のオープンカットかつ掘削土量500m³以上を選択した場合及び硬岩のオープンカットで火薬使用「可」を選択した場合、30mまでの押土を含む。

5. 障害の有無

土質: 土砂、岩塊・玉石の場合

①無し: 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合

②有り: 掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり(例えば作業障害が多い場合)連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ5m以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削(溝掘り、基礎掘削)を行う場合

土質: 軟岩の場合

①無し: 掘削量が500m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業できる場合、もしくは掘削量が500m³以上の場合

②有り: 掘削量が500m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合

土質: 硬岩の場合

①無し: 掘削箇所に大型ブレーカが入り作業できる場合、もしくは火薬を使用する場合

②有り: 掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合

6. 施工数量、破砕片除去数量

①施工数量は「箇所」の記載がないものは、1工事当りの数量とする。

表3. 1の条件区分「施工数量」、「破砕片除去の有無」に示す数量区分は、1工事当りの取扱い土量で判断する。1工事当りの取扱い土量とは、掘削及び積込(ルーズ)の条件区分別の施工数量を表3. 2の数量区分の規模別に「○」の項目を合計した土量とする。

表3. 2 1工事当りの取扱数量について

名称	条件区分					施工数量、破砕片除去数量の数量区分		
	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土	500m3	30,000m3	50,000m3
掘削	土砂	オープンカット	有	—	—		○	
			無	—	—			○
		片切掘削	—	—	—			
	岩塊・玉石	オープンカット	—	—	—			○
	軟岩	オープンカット	—	有	無	○		○
				無	有	○		
		片切掘削	有	無			○	
			無	有				
	硬岩	オープンカット	—	有	無			○
無				有				
片切掘削		有	無			○		
		無	有					
押土 (ルーズ)	—							
積込 (ルーズ)	施工数量							
	土量50,000m3未満、土量50,000m3以上							○

②施工方法「上記以外(小規模)」の施工数量における「1箇所」とは、目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。また、「(標準以外)」とは構造物及び建造物等の障害物により、制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当りの施工量が、50m3以下の箇所とする。

③施工数量「普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土」において湿地軟弱土での作業の場合は、取扱土量の制約は受けない。

④土質「軟岩」、「硬岩」における床掘平均掘削幅2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは、破砕片除去「無」を選択の上、「3-7 積込(ルーズ)」により別途計上する。

7. 火薬の標準的な使用量は、オープンカットでは1日当り含水爆薬13.4 kg、AN-FO19.5 kg、片切掘削では1日当り含水爆薬1.8 kgとし、これにより難しい場合は別途計上する。

8. 集積押土の有無

①有り:集積押土の距離は30mまでとする。

9. 軟岩床掘の場合

施工数量に関わらず、500m3未満を適用するものとする。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.3 掘削 代表機材規格一覧

土質	項目	代表機材規格	施工方法										現場制約あり								
			オープンカット				片切掘削			小規模											
			普通土 30,000 m ³ 未満 又は 湿地 軟弱土	30,000 m ³ 以上	50,000 m ³ 未満	50,000 m ³ 以上	-	-	-	1箇所 100m ³ 以下	1箇所 100m ³ 以下	標準		標準 以外							
土砂岩塊・玉石	機械	ブルドーザ【掘削・排出ガス対策型(第1次基準)】20t級																			
		ブルドーザ【普通・排出ガス対策型(第1次基準)】32t級																			
		バックホウ【クローラ型・排ガス対策型(第2次)】 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)																			
		バックホウ【クローラ型・排ガス対策型(第1次)】 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)																			
		バックホウ【クローラ型・排ガス対策型(第1次)】 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)																			
		小型バックホウ【クローラ型・排ガス型(第1次)】 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)																			
		タムシユル【油圧クローラ型・クローラ型】平積0.8m ³																			
		K1																			
		K2																			
		労務	R1	特殊運転手																	
R2	普通作業員																				
R3																					
R4																					
材料	Z1	軽油 1.2号 バトルロール給油																			
	Z2																				
	Z3																				
	Z4																				
市場単価	S																				
土質	項目	代表機材規格	施工方法										現場制約あり								
			オープンカット				片切掘削														
			500m ³ 未満				500m ³ 以上			-											
			磁鉄片除去の有無																		
			無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	-	-									
			風積塵土の有無																		
			無し	有り	-	-	無し	有り	-	-	-										
			軟岩	機械	バックホウ【クローラ型・排ガス対策型(第2次)】 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)																
					ブルドーザ【リッパ装置付・排ガス型(第1次)】32t級																
					空圧圧縮機【可搬式・エンジン駆動・スタリス型】 排出ガス対策型(第1次基準)5.0m ³ /min																
K1																					
K2	大型ブローカ 油圧式 1300kg級																				
K3	ブルドーザ【掘削・排出ガス対策型(第2次基準)】20t級																				
R1	特殊作業員																				
R2	特殊運転手																				
R3	普通作業員																				
材料	Z1	軽油 1.2号 バトルロール給油																			
	Z2																				
	Z3																				
	Z4																				
市場単価	S																				
土質	項目	代表機材規格	施工方法										現場制約あり								
			オープンカット				片切掘削														
			不可				火薬使用			不可											
			磁鉄片除去の有無																		
			無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	無し	有り 50,000 m ³ 未満	有り 50,000 m ³ 以上	-	-	-									
			風積塵土の有無																		
			無し	有り	-	-	無し	有り	-	-	-										
			硬岩	機械	バックホウ【クローラ型・排ガス対策型(第2次)】 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)																
					ブルドーザ【リッパ装置付・排ガス型(第1次)】32t級																
					空圧圧縮機【可搬式・エンジン駆動・スタリス型】 排出ガス対策型(第1次基準)5.0m ³ /min																
K1																					
K2	大型ブローカ 油圧式 1300kg級																				
K3	ブルドーザ【掘削・排出ガス対策型(第1次基準)】20t級																				
R1	特殊作業員																				
R2	特殊運転手																				
R3	普通作業員																				
材料	Z1	軽油 1.2号 バトルロール給油																			
	Z2																				
	Z3																				
	Z4																				
市場単価	S																				

3-2 土砂等運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 土砂等運搬 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離
標準	バックホウ 山積 0.8m3(平積0.6m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		軟岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		硬岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
	バックホウ 山積 1.4m3(平積1.0m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		軟岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		硬岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
	バックホウ 山積 0.45m3(平積0.35m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 9)
			有り	(表3. 10)
		軟岩	無し	(表3. 9)
			有り	(表3. 10)
硬岩		無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
クラムシェル	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	軟岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	硬岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
小規模	バックホウ 山積 0.28m3(平積0.2m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 13)
			有り	(表3. 14)
	バックホウ 山積 0.13m3(平積0.1m3)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 15)
			有り	(表3. 16)
現場制約あり	人力	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3. 17)
			有り	(表3. 18)
		軟岩	無し	(表3. 17)
			有り	(表3. 18)
		硬岩	無し	(表3. 17)
			有り	(表3. 18)

- (注)1. 上表は、掘削工又は作業土工における土砂・軟岩・硬岩の運搬、路体・路床盛土工又は置換工等における土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の運搬、構造物築造のために行う作業土工で生じた残土の処分場までの運搬又は掘削工で生じた残土の処分場までの運搬の他、運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理に掛かる費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用できる。
2. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
4. 運搬土量は地山の土量とする。
5. 小規模は、1箇所当りの施工土量が100m3程度まで、又は平均施工幅が1m未満の場合とする。なお、「1箇所当り」とは目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
6. 現場制約有りとは、現場狭小のため機械搬入が不可な場合。
7. 標準とは、「小規模」、「現場制約有り」に該当しない場合。

表3. 5 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	6.5km以下
	7.5km以下
	9.5km以下
	11.5km以下
	15.5km以下
	22.5km以下
	49.5km以下
60.0km以下	

表3. 6 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	5.0km以下
	6.0km以下
	7.0km以下
	8.5km以下
	11.0km以下
	14.0km以下
	19.5km以下
	31.5km以下
60.0km以下	

表3. 7 運搬距離(3)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	7.0km以下
	8.5km以下
	10.0km以下
	12.5km以下
	16.5km以下
23.5km以下	
51.5km以下	
60.0km以下	

表3. 8 運搬距離(4)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	6.5km以下
	8.0km以下
	9.5km以下
	11.5km以下
	15.0km以下
	20.5km以下
33.0km以下	
60.0km以下	

表3. 9 運搬距離(5)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	7.5km以下
	10.0km以下
	13.5km以下
	19.5km以下
	39.0km以下
	60.0km以下

表3. 10 運搬距離(6)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.5km以下
	28.5km以下
	60.0km以下

表3. 11 運搬距離(7)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	7.5km以下
	10.5km以下
	16.0km以下
	30.0km以下
	60.0km以下

表3. 12 運搬距離(8)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	5.0km以下
	7.0km以下
	10.0km以下
	14.5km以下
	24.5km以下
	60.0km以下

表3. 13 運搬距離(9)

積算条件	区分
運搬距離	0.2km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.0km以下
	5.0km以下
	6.0km以下
	7.5km以下
	10.0km以下
	13.0km以下
	19.0km以下
	35.0km以下
60.0km以下	

表3. 14 運搬距離(10)

積算条件	区分
運搬距離	0.2km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.0km以下
	27.0km以下
	60.0km以下

表3. 15 運搬距離(11)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.0km以下
	28.5km以下
	60.0km以下

表3. 16 運搬距離(12)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.0km以下
	6.5km以下
	8.0km以下
	11.0km以下
	15.0km以下
	24.0km以下
	60.0km以下

表3. 17 運搬距離(13)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.0km以下
	6.5km以下
	8.5km以下
	11.0km以下
	16.0km以下
	27.5km以下
	60.0km以下

表3. 18 運搬距離(14)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	8.0km以下
	10.5km以下
	14.5km以下
	23.0km以下
	60.0km以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 19 土砂等運搬 代表機労材規格一覧

土砂等発生現場	項目	代表機労材規格	備考	
標準	機械	K1 ダンプトラック[普通・ディーゼル]10t積級		
		K2 -		
		K3 -		
	労務	R1 一般運転手		
		R2 -		
		R3 -		
		R4 -		
	材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油		
		Z2 -		
		Z3 -		
Z4 -				
市場単価	S	-		
小規模	機械	K1 ダンプトラック[普通・ディーゼル]4t積級	積込機種・規格がバックホウ 山積0.28m3(平積0.2m3)の場合	
		ダンプトラック[普通・ディーゼル]2t積級	積込機種・規格がバックホウ 山積0.13m3(平積0.1m3)の場合	
		K2 -		
	K3 -			
	労務	R1 一般運転手		
		R2 -		
		R3 -		
		R4 -		
	材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油		
		Z2 -		
Z3 -				
Z4 -				
市場単価	S	-		
現場制約あり	機械	K1 ダンプトラック[普通・ディーゼル]2t積級		
		K2 -		
		K3 -		
	労務	R1 一般運転手		
		R2 -		
		R3 -		
		R4 -		
	材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油		
		Z2 -		
		Z3 -		
Z4 -				
市場単価	S	-		

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

作業区分	敷均し作業内容
残土受入れ地での処理	—
敷均し(ルーズ)	標準
	標準以外
	狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)
	トラフィカビリティが確保できない場合

- (注)1. 上表は、構造物築造のために行う作業土工で生じた土砂等又は掘削工で生じた土砂等の受入れ地(仮置場)、土取場での整地、締固めを行わない場合の土の敷均し等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 作業区分で残土受入れ地での処理を選択した場合の土量は地山の土量とする。
 3. 作業区分で敷均し(ルーズ)を選択した場合の土量は敷均し後の土量とする。なお、敷均しのための、変化率C=1.0とする。
 4. 敷均し作業内容における標準以外とは、1工事当りの全体盛土量が10,000m3以上の場合である。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 21 整地 代表機労材規格一覧

作業区分	項目	代表機労材規格	備考	
残土受入れ地での処理	機械	K1	ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 15t級	
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	特殊運転手	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 1. 2号 バトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
Z4		—		
	市場単価	S	—	
敷均し(ルーズ)	機械	K1	ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 15t級	敷均し作業内容が標準の場合
			ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 21t級	敷均し作業内容が標準以外の場合
			ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 3t級	敷均し作業内容が狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)の場合
			ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(第1次基準)] 16t級	敷均し作業内容がトラフィカビリティが確保できない場合
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊運転手	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 1. 2号 バトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-4 路体(築堤)盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 22 路体(築堤)盛土 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

施工幅員	作業形態	土質	施工数量	障害の有無
2.5m未満	—	—	—	—
2.5m以上4.0m未満	—	—	—	—
4.0m以上	敷均し+締固め	—	10,000m3未満	無し
				有り
			10,000m3以上	無し
				有り
	敷均し締固め	高含水比粘性土以外	10,000m3未満	無し
				有り
			10,000m3以上	無し
				有り
高含水比粘性土	—	無し		
		有り		

- (注)1. 上表は、路体又は築堤の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場(仮置場)で採取し運搬してくる土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工数量は1工事当りの全体盛土量(施工幅員4.0m以上の合計盛土量)とする。
3. 作業形態
- ①敷均し+締固め:敷均しと締固めの作業をそれぞれ異なる施工機械で行うと想定する場合
 - ②敷均し締固め:盛土材料がタイヤローラの締固めに適さない土質(砂等)の場合
4. 障害の有無
- ①無し:作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、新設のバイパス工事、築堤工事等)
 - ②有り:作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、拡築(腹付、嵩上)工事等)
5. 高含水比粘性土:バケットやブレード(排土板)等に付着しやすく、特にトラフィカビリティが不足する等問題となりやすいもの。(条件の悪いローム、条件の悪い粘性土、火山灰質粘性土等)
6. 土量は締固め後の土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.23 路体(築堤)盛土 代表機労材規格一覧

施工幅員	作業形態	土質	項目	代表機労材規格	備考		
2.5m未満	-	-	機械	K1	振動ローラ [ハンドガイド式]質量0.8~1.1t	賃料	
				K2	-		
				K3	-		
			労務	R1	普通作業員		
				R2	特殊作業員		
				R3	-		
				R4	-		
			材料	Z1	軽油 1.2号 ノストロール給油		
				Z2	-		
				Z3	-		
				Z4	-		
			市場単価	S	-		
			2.5m以上 4.0m未満	-	-	機械	K1
K2	振動ローラ [搭乗式コンパインド型]3~4t	賃料					
K3	-						
労務	R1	特殊運転手					
	R2	普通作業員					
	R3	-					
	R4	-					
材料	Z1	軽油 1.2号 ノストロール給油					
	Z2	-					
	Z3	-					
	Z4	-					
市場単価	S	-					
4.0m以上	敷均し +締固め	-				機械	K1
				ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 21t級	施工数量10,000m ³ 以上の場合		
			K2	タイヤローラ 質量8~20t	賃料		
				K3	-		
			労務	R1	特殊運転手		
				R2	普通作業員		
				R3	-		
				R4	-		
			材料	Z1	軽油 1.2号 ノストロール給油		
				Z2	-		
				Z3	-		
				Z4	-		
	市場単価	S	-				
	敷均し 締固め	高含水比 粘性土 以外	-	機械	K1	ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 15t級	施工数量10,000m ³ 未満の場合
						ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 21t級	施工数量10,000m ³ 以上の場合
					K2	-	
					K3	-	
				労務	R1	特殊運転手	
					R2	普通作業員	
					R3	-	
					R4	-	
				材料	Z1	軽油 1.2号 ノストロール給油	
					Z2	-	
					Z3	-	
Z4					-		
市場単価	S	-					
敷均し 締固め	高含水比 粘性土	-	機械	K1	ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(第1次基準)] 16t級		
				K2	-		
				K3	-		
			労務	R1	特殊運転手		
				R2	普通作業員		
				R3	-		
				R4	-		
			材料	Z1	軽油 1.2号 ノストロール給油		
				Z2	-		
				Z3	-		
				Z4	-		
			市場単価	S	-		

3-5 路床盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 24 路床盛土 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

平均幅員	施工数量	障害の有無
2.5m未満	—	—
2.5m以上4.0m未満	—	—
4.0m以上	10,000m3未満	無し
		有り
	10,000m3以上	無し
		有り

(注)1. 上表は、路床の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場(仮置場)で採取し運搬してくる土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 空港土木工事における遮断層、凍上抑制層については、土砂等の敷均し、締固め等、その施工に必要な労務、機械、燃料を含む。なお、材料を購入した場合は「土材料」で別途計上する。

3. 施工数量は1工事当りの全体盛土量(平均幅員4.0m以上の合計盛土量)とする。

4. 平均幅員=断面図の(上幅+下幅)×1/2

5. 土量は締固め後の土量とする。

6. 障害の有無

①無し:作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、新設のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等)

②有り:作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築(腹付、嵩上)工事等)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 25 路床盛土 代表機労材規格一覧

平均幅員	施工数量	項目	代表機労材規格	備考
2.5m未満	-	機械	K1 振動ローラ [ハンドガイド式]質量0. 8～1. 1t	賃料
			K2 -	
			K3 -	
		労務	R1 普通作業員	
			R2 特殊作業員	
			R3 -	
			R4 -	
		材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油	
			Z2 -	
			Z3 -	
Z4 -				
市場単価	S -			
2.5m以上 4.0m未満	-	機械	K1 ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 3t級	
			K2 振動ローラ[搭乗式コンバインド型]3～4t	賃料
			K3 -	
		労務	R1 特殊運転手	
			R2 普通作業員	
			R3 -	
			R4 -	
		材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油	
			Z2 -	
			Z3 -	
Z4 -				
市場単価	S -			
4.0m以上	10,000m3未満	機械	K1 ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 15t級	
			K2 タイヤローラ 質量8～20t	賃料
			K3 -	
		労務	R1 特殊運転手	
			R2 普通作業員	
			R3 -	
			R4 -	
		材料	Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油	
			Z2 -	
	Z3 -			
	Z4 -			
	市場単価	S -		
	10,000m3以上	機械	K1 ブルドーザ[普通・排出ガス対策型(第1次基準)] 21t級	
			K2 タイヤローラ 質量8～20t	賃料
			K3 -	
		労務	R1 特殊運転手	
			R2 普通作業員	
			R3 -	
R4 -				
材料		Z1 軽油 1. 2号 バトロール給油		
		Z2 -		
	Z3 -			
	Z4 -			
市場単価	S -			

3-6 押土(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.26 押土(ルーズ) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質
土砂
岩塊・玉石
破碎岩

- (注)1. 上表は、ルーズな状態の土砂、岩塊・玉石、破碎岩の集積押土や押土による運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.27 押土(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(第1次基準)] 20t級	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊運転手	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2号 バトル給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-7 積込(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 28 積込(ルーズ) 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土質	作業内容
土砂	土量50,000m3未満
	土量50,000m3以上
	平均施工幅1m以上2m未満
	1箇所100m3以下(標準)
	1箇所100m3以下(標準以外)
岩塊・玉石	土量50,000m3未満
	土量50,000m3以上
	平均施工幅1m以上2m未満
破碎岩	土量50,000m3未満
	土量50,000m3以上
	平均施工幅1m以上2m未満

(注)1. 上表は、路体(築堤)盛土、路床盛土、電線共同溝工事等における土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の積込み、掘削工又は作業土工で生じた残土の仮置場での積込み等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 土量は地山土量とする。

3. 土量は1工事当りの数量とする。また、1工事当りの数量の取扱いには、表3. 2によるものとする。

4. 施工内容における「1箇所」とは、目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。また、「(標準以外)」とは構造物及び建造物等の障害物により、制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当りの施工量が、50m3以下の箇所とする。

5. 岩石の床掘平均掘削幅2m未満の場合の積込み(ルーズ)は、平均施工幅1m以上2m未満を適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 29 積込(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	作業内容が土量50,000m3未満の場合	
	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積1.4m3(平積1.0m3)	作業内容が土量50,000m3以上の場合	
	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積0.45m3(平積0.35m3)	作業内容が平均施工幅1m以上2m未満の場合	
	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積0.28m3(平積0.2m3)	作業内容が1箇所100m3以下(標準)の場合	
	小型バックホウ[クローラ型・排ガス型(第1次)] 山積0.13m3(平積0.10m3)	作業内容が1箇所100m3以下(標準以外)の場合	
	K2	-	
K3	-		
労務	R1	特殊運転手	
	R2	-	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-8 人力積込

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.30 人力積込 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質等区分
土砂
岩塊・玉石
軟岩
中硬岩
硬岩
アスファルト塊
コンクリート塊

- (注)1. 上表は、仮置きされた土砂、岩(アスファルト塊、コンクリート塊を含む)を人力により直接積込むまでの作業に必要な全ての労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.31 人力積込 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	-	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	-	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	-	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-9 転石破碎

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.32 転石破碎 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

火薬使用の有無
無し
有り

- (注)1. 上表は、道路、河川工事等の岩掘削に伴う転石破碎の他、火薬・雷管、さく岩機損料及びさく岩機用空気圧縮機の運転経費、さく岩機のロッド・ビット及びチゼルの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 転石の掘出し、破碎石の除去は含まない。

3. 転石粒径が0.5m以上、及び作業範囲が施工幅4.0m以上の箇所で、機械走行面より上下に5.0m以内の場合は、火薬使用の有無「無し」を適用する。
4. 転石粒径が1.0m以上で、作業範囲が4.0m未満、または機械走行面より上下に5.0m超の場合は、火薬使用の有無「有り」を適用する。
5. 火薬の標準的な使用量は、10m³当り含水爆薬1.6kgとする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 33 転石破砕 代表機労材規格一覧

火薬使用の有無	項目		代表機労材規格	備考
無し	機械	K1	バックホウ[クローラ・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
		K2	大型ブレーカ油圧式 1300kg級	
		K3	—	
	労務	R1	特殊運転手	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油1.2号 バトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
市場単価	S	—		
有り	機械	K1	—	
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	さく岩工	
		R2	特殊作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	普通作業員	
	材料	Z1	—	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
市場単価	S	—		

3-10 土材料

土材料の積算条件区分はない。

積算単位はm³とする。

(注)1. 路体盛土工、路床盛土工における盛土材料、作業土工等における埋戻材料又は置換工における置換材料等の購入に要する全ての費用(現場渡し単価又は土場渡し単価)を含む。

2. 空港土木工事における遮断層、凍上抑制層における材料の購入に要する全ての費用(現場渡し単価又は土場渡し単価)を含む。

3-11 残土等処分

残土等処分の積算条件区分はない。

積算単位はm³とする。

(注)残土等処分は、構造物築造のために行う作業土工又は掘削工で生じた残土、地盤改良等で発生した汚泥、泥水等の処分場での処分に要する全ての費用を含む。

③ 作業土工

③-1 床掘工

1. 適用範囲

本資料は、構造物の築造又は撤去を目的とした、土砂、岩塊・玉石の掘削等である床掘りに適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 床掘り

- (1) 作業土工(床掘り)のうち、土砂、岩塊・玉石におけるバックホウ床掘・クラムシェル床掘
・人力床掘の場合

1-1-2 掘削補助機械搬入搬出

- (1) 掘削深さ20m以下のクラムシェル床掘で、土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物があるため、掘削補助機械を使用する場合
(2) 掘削深さ20m超のクラムシェル床掘で掘削補助機械を使用する場合

1-1-3 基面整正

- (1) 機械による床掘り作業における床付面の基面整正の場合

1-1-4 舗装版破碎積込(小規模土工)

- (1) 1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘り作業に伴う舗装厚5cm以内の舗装版破碎積込の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 床掘り

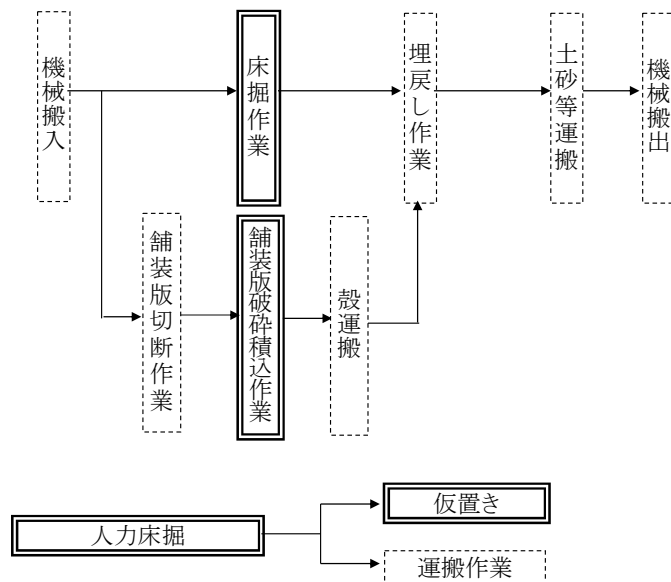
- (1) 深礎工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工のクラムシェル床掘の場合
(2) 地山の掘削作業の場合
(3) 積込み単独の作業の場合

1-2-2 基面整正

- (1) 人力床掘の場合

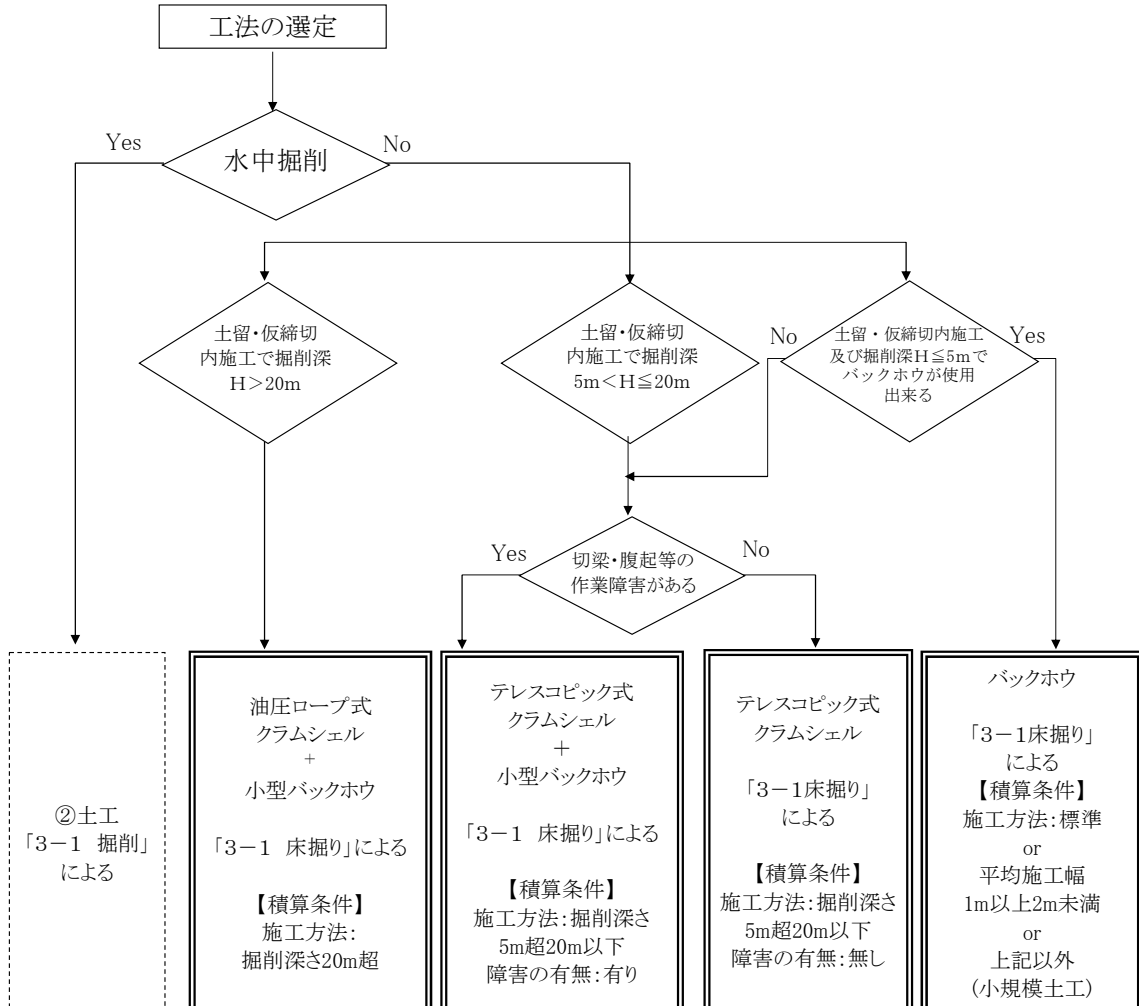
2. 施工概要

2-1 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 人力床掘は現場制約有り(機械施工ができない箇所の人力施工)に適用する。
3. 埋戻しは「第2編 第1章土工 ③-2埋戻し工」による。
4. 土砂等運搬は「第2編 第1章土工 ②土工」による。
5. 殻運搬は「第2編 第2章共通工 ⑦殻運搬」による。

(4) クラムシェル工法選定フロー



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 床掘り 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

土質区分	施工方法	土留方式の種類	障害の有無
土 砂	標準	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
	グラウンドアンカー式	無し	
		有り	
	切梁腹起式	有り	
		無し	
	平均施工幅1m以上2m未満	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
	グラウンドアンカー式	無し	
		有り	
切梁腹起式	有り		
	掘削深さ5m超20m以下	グラウンドアンカー式	
無し			
切梁腹起式	有り		
	掘削深さ20m超	グラウンドアンカー式	
無し			
切梁腹起式	有り		
	上記以外(小規模)	無し	
現場制約あり	無し		
岩塊・玉石	標準	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
	グラウンドアンカー式	無し	
		有り	
	切梁腹起式	有り	
		平均施工幅1m以上2m未満	無し
	有り		
	自立式	無し	
		有り	
	グラウンドアンカー式	無し	
		有り	
	切梁腹起式	有り	
掘削深さ5m超20m以下		グラウンドアンカー式	
	無し		
切梁腹起式	有り		
	掘削深さ20m超	グラウンドアンカー式	
無し			
切梁腹起式	有り		
	現場制約あり	無し	
現場制約あり	無し		

(注) 1. 上表は、構造物の築造又は撤去を目的とした土砂、岩塊・玉石の掘削、および床掘作業における補助労務(基面整正、浮き石の除去)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。なお、施工方法「現場制約あり(機械施工出来ない人力施工)」の場合は基面整正を含む。

2. 障害の有無

有り:①床掘作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合(たとえば作業障害が多い場合)

②土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合

無し:①構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合

②構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合

③土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合

3. 施工方法「標準」、および「平均施工幅 1m以上 2m未満」において掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合は障害の有無で「有り」を適用する。

4. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅 1m未満の床掘りで、「1箇所当たり」とは、目的物1箇所当たりであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

5. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

6. 小型バックホウの坑内搬入搬出については、3-2(掘削補助機械搬入搬出)により計上する。

7. 坑内でバックホウを使用する場合、及び基面整正、床掘補助作業に防護施設、送風機等が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 床掘り 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	施工方法						
		標準	平均施工幅 1m以上 2m未満	掘削深さ 5m超 20m以下	掘削深さ 20m超	左記以外 (小規模)	現場制約 あり	
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	○					
		バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)		○				
		バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 後方超小旋回型 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)					○	
		油圧ロープ式クラムシェル[クローラ型] 平積0.8m ³				○		
		油圧クラムシェル[テレスコピック・クローラ型] 平積0.4m ³			○			
		小型バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積0.08m ³ (平積0.06m ³)			◎	○		
	K2	-						
	K3	-						
労務	R1	運転手(特殊)	○	○	○	○	○	
	R2	普通作業員	△	△	○	○	○	○
	R3	特殊作業員			◎	○		
	R4	-						
材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	○	○	○	○	○	
	Z2	-						
	Z3	-						
	Z4	-						
市場単価	S	-						

◎障害有りの場合

△土留方式無し以外の場合

3-2 掘削補助機械搬入搬出

(1) 条件区分

掘削補助機械搬入搬出の積算条件区分はない。
積算単位は回とする。

- (注) 1. 掘削補助機械搬入搬出は、構造物の築造目的に基面を掘下げる床掘作業において、掘削補助機械を用いる場合の補助機械搬入搬出等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 「搬入+搬出」を1回とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 掘削補助機械搬入搬出 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]16t吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

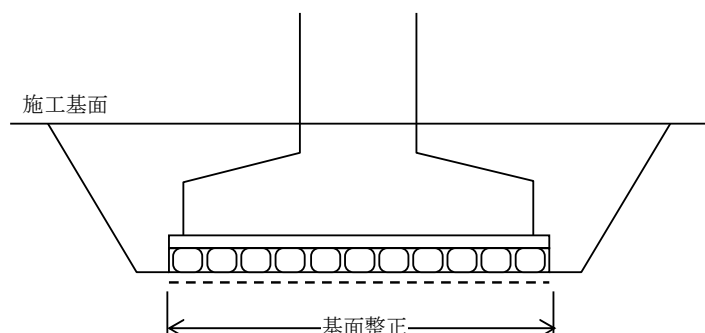
3-3 基面整正

(1) 条件区分

基面整正の積算条件区分はない。
積算単位はm²とする。

- (注) 1. 基面整正は、床掘り作業における床付面の整正等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 施工パッケージ「床掘り」において施工方法「現場制約あり」を選択した場合は、基面整正を計上する必要はない。

図3-1 基面整正の計上部分



(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 基面整正 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 舗装版破碎積込(小規模土工)

(1) 条件区分

舗装版破碎積込(小規模土工)の積算条件区分はない。

積算単位はm²とする。

(注)舗装版破碎積込(小規模土工)は、1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘作業に伴う舗装版破碎積込(舗装厚5cm以内)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。なお、「1箇所当り」とは目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 舗装版破碎積込(小規模土工) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ[クローラ・排ガス対策型(第1次)] 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

③-2 埋戻工

1. 適用範囲

本資料は、構造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 埋戻し

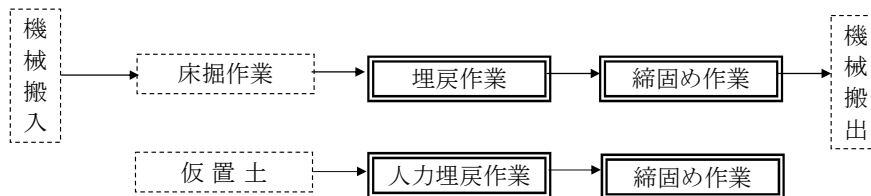
- (1) 埋戻しにおいて材料のはねつけを行う場合
- (2) 埋戻しにおいて敷均しを行う場合
- (3) 埋戻しにおいて締固めを行う場合

1-1-2 タンパ締固め

- (1) タンパによる締固めを行う場合

2. 施工概要

2-1 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 床掘作業は「第2編 第1章土工 ③-1床掘工」による。

3. 施工パッケージ

3-1 埋戻し

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 埋戻し 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

施工方法	土質	締固めの有無
最小埋戻幅 4m以上	—	—
最大埋戻幅 4m以上	—	—
最大埋戻幅 1m以上4m未満	—	—
最大埋戻幅 1m未満	—	—
上記以外(小規模)	土砂	—
現場制約あり	土砂	有り
		無し
	岩塊・玉石	有り
		無し

(注)1. 上表は、構造物の築造及び撤去後の床掘り部のはねつけ、埋戻し、敷均し・締固め等、補助労務(敷均し及びタンパ締固め補助)、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が100m3程度まで、又は平均施工幅 1m未満の床掘りに伴う埋戻しで、「1箇所当たり」とは、目的物1箇所であり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

3. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

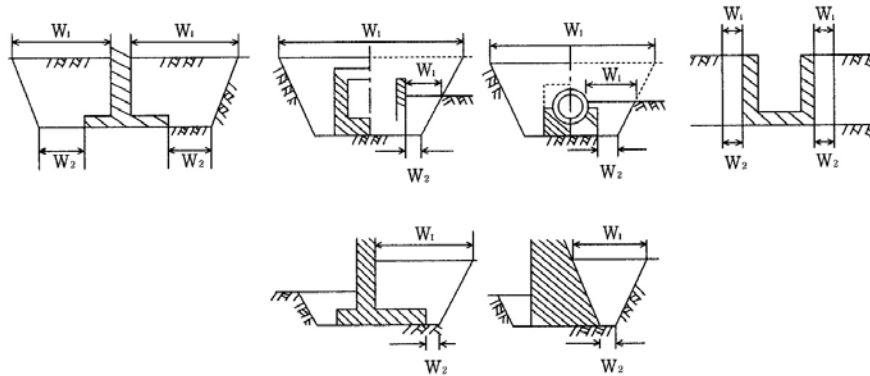
4. 埋戻幅

最大埋戻幅: 下図における埋戻幅(W1)

最小埋戻幅: 下図における埋戻幅(W2)

なお、擁壁等で前背面の最大埋戻幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一条件区分を適用するものとする。

5. 最小埋戻幅が4m以上の場合は、最大埋戻幅に関係なく、最小埋戻幅4m以上を適用する。
6. はねつけ機械の搬入が困難な場合は、施工方法を現場制約あり、締固め有りとする。
7. 機械施工が困難な場合において、小運搬や盛土法面整形が必要な場合は、別途計上する。
8. 締固めを伴わない作業等で、本施工パッケージによることが著しく不適当と判断される場合は、別途考慮する。



(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 埋戻し 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	施工方法					備考
		最小埋戻幅	最大埋戻幅	最大埋戻幅 1 m以上 4 m未満	最大埋戻幅 1 m未満	上記以外 (小規模)	
機械	K1 バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m3(平積0.6m3) バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第1次)] 山積0.45m3(平積0.35m3) バックホウ[クローラ型後方超小旋回型・排ガス型 (第1次)]山積0.28m3(平積0.2m3)	○	○	○			
					○		
						○	
	K2 ブルドーザ[普通・排ガス対策型(第1次)] 15t級 振動ローラ[ハンドガイド式]質量0.8~1.1t	○					
K3 タンパ 60~80kg		○	○	○	○	※ 賃料	
労務	R1 運転手(特殊)	○	○	○	○	○	
	R2 特殊作業員		○	○	○	○	※
	R3 普通作業員		○	○	○	○	
	R4 -						
材料	Z1 軽油 1.2号 バトル給油	○	○	○	○	○	
	Z2 ガソリンレギュラー スタンド		○	○	○	○	※
	Z3 -						
	Z4 -						
市場単価	S						

※:締固め有りの場合

3-2 タンパ締固め

(1) 条件区分

タンパ締固めの積算条件区分はない。
積算単位はm3とする。

- (注)1. タンパ締固めは、タンパによる締固め作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 土量は締固め後の土量とする。
3. 埋戻しの現場制約ありで締固め有りを選択した場合は、タンパ締固めを含んでいるので、別途計上する必要はない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的規格である。

表3.3 タンパ締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	タンパ 60~80kg	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	普通作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	ガソリンレギュラー スタンド	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ 人力運搬工

1. 適用範囲

本資料は、機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)土・石

- (1) 道路幅員が0.5m程度未満で、仮置きされた土砂等の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-2 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等

- (1) 道路幅員が0.5m程度未満で、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-3 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類

- (1) 道路幅員が0.5m程度未満で、仮置きされた積ブロック類(控35cm)の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-4 人肩運搬(運搬～取卸し)

- (1) 道路幅員が0.5m程度未満で、人力掘削(床掘り)から人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-5 小車運搬(積込～運搬～取卸し)土・石

- (1) 道路幅員が0.5m程度以上で、仮置きされた土砂等の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-6 小車運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等

- (1) 道路幅員が0.5m程度以上で、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-7 小車運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類

- (1) 道路幅員が0.5m程度以上で、仮置きされた積ブロック類(控35cm)の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-8 小車運搬(運搬～取卸し)

- (1) 道路幅員が0.5m程度以上で、人力掘削(床掘り)から小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

2. 施工パッケージ

2-1 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)土・石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)土・石 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質	換算距離
土砂	(表2.2)
岩塊・玉石	
栗石・クラッシャーラン	

(注)1. 上表は、仮置きされた土砂等の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

表2.2 換算距離

積算条件	区分
換算距離	20m以下
	40m以下
	60m以下
	80m以下
	100m以下
	120m以下
	140m以下
	160m以下
	180m以下
	200m以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)土・石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	—
	K2	—
	K3	—
労務	R1	普通作業員
	R2	—
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	—
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

2-2 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.4 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等 積算条件区分一覧
(積算単位:t)

換算距離
(表2.2)

(注)1. 上表は、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモック代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L=H+h \times 6$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.5 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-3 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.6 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類 積算条件区分一覧
(積算単位:m2)

換算距離
(表2.2)

(注)1. 上表は、仮置きされた積ブロック類(控35cm)の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L=H+h \times 6$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.7 人肩運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-4 人肩運搬(運搬～取卸し)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.8 人肩運搬(運搬～取卸し) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
土 砂	無し	(表2.2)
	有り	
岩塊・玉石	無し	
	有り	

(注)1. 上表は、人力掘削(床掘り)から人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L=H+h \times 6$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.9 人肩運搬(運搬～取卸し) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-5 小車運搬(積込～運搬～取卸し)土・石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2. 10 小車運搬(積込～運搬～取卸し)土・石 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土 質	換算距離
土 砂	(表 2. 2)
岩塊・玉石	
栗石・クラッシャーラン	

(注)1. 上表は、仮置きされた土砂等の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L=H+h\times 8$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2. 11 小車運搬(積込～運搬～取卸し)土・石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-6 小車運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.12 小車運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等 積算条件区分一覧
(積算単位:t)

換算距離
(表 2. 2)

(注)1. 上表は、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L: 換算距離(m)

H: 水平距離(m)

h: 高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.13 小車運搬(積込～運搬～取卸し)セメント等 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-7 小車運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2. 14 小車運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類 積算条件区分一覧
(積算単位:m2)

換算距離
(表2. 2)

- (注)1. 上表は、仮置きされた積ブロック類(控35cm)の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。
なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L=H+h\times 8$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2. 15 小車運搬(積込～運搬～取卸し)積ブロック類 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-8 小車運搬(運搬～取卸し)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.16 小車運搬(運搬～取卸し) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
土砂	無し	(表2.2)
	有り	
岩塊・玉石	無し	
	有り	

(注)1. 上表は、人力掘削(床掘り)から小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L:換算距離(m)

H:水平距離(m)

h:高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.17 小車運搬(運搬～取卸し) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑤ 人土工(ベルトコンベア併用)

1. 適用範囲

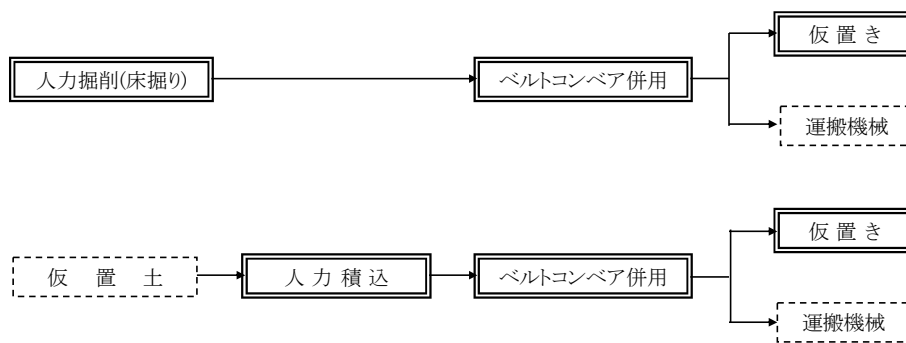
本資料は、人力による掘削(床掘り)箇所の土砂搬出が直接仮置き又はダンプトラック等に積込めない場合に適用する。

1-1 適用できる範囲

(1)ベルトコンベアを併用して土砂を搬出する掘削作業を行う場合

2. 施工概要

2-1 施工フロー



(注)本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 ベルトコンベア併用人力掘削(床掘り)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ベルトコンベア併用人力掘削(床掘り) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質	ベルトコンベア据付状態	ベルトコンベア使用台数
土砂	水平据付	(表3.2)
	傾斜据付	
岩塊・玉石	水平据付	
	傾斜据付	

- (注)1. 上表は、ベルトコンベアを使用した人力による掘削(床掘り)～仮置きその他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. ベルトコンベアの据付状態及び台数は、掘削作業箇所の高低差及び搬出距離等を勘案のうえ決定する。
 3. ベルトコンベア据付状態は、仮置き地等と施工基面の高低差の有無により判断するものとし、ベルトコンベアを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベア据付状態で判断する。
 4. 水平据付とは掘削部等にベルトコンベアをほぼ水平に据付ける場合をいう。傾斜据付とは掘削部等にベルトコンベアを傾斜して据付ける場合をいう。

図3.1 水平据付



図3.2 傾斜据付

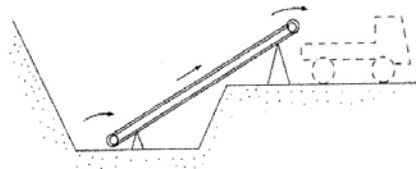


表3.2 ベルトコンベア使用台数

積算条件	区分
ベルトコンベア使用台数	1～2台
	3～4台
	5～6台
	7～8台
	9～10台

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 ベルトコンベア併用人力掘削(床掘り) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ベルトコンベア(ポータブル)[エンジン駆動] 機長7m ベルト幅350mm	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	ガンリン レギュラー スタンド	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ベルトコンベア併用人力積込

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 ベルトコンベア併用人力積込 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

土質	ベルトコンベア据付状態	ベルトコンベア使用台数
土砂	水平据付	(表3.2)
	傾斜据付	
岩塊・玉石	水平据付	
	傾斜据付	

- (注)1. 上表は、仮置きした土砂等をベルトコンベアによりダンプトラック等への積込みの他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. ベルトコンベアの据付状態及び台数は、掘削作業箇所の高低差及び搬出距離等を勘案のうえ決定する。
 3. ベルトコンベア据付状態は、仮置き地等と施工基面の高低差の有無により判断するものとし、ベルトコンベアを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベア据付状態で判断する。
 4. 水平据付とは掘削部等にベルトコンベアをほぼ水平に据付ける場合をいう。傾斜据付とは掘削部等にベルトコンベアを傾斜して据付ける場合をいう。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.5 ベルトコンベア併用人力積込 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ベルトコンベア(ポータブル)[エンジン駆動] 機長7m ベルト幅350mm	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	ガンリン レギュラー スタンド	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑥ 安定処理工

1. 適用範囲

本資料は、地盤改良工における安定処理に適用する。

(1)スタビライザ混合

現位置での路上混合作業で、混合深さ1mまで、かつ1層までの混合に適用する。

なお、1層の混合深さが1mを超える場合や2層以上混合する場合は、別途考慮する。

(2)バックホウ混合

現場条件によりスタビライザにより施工できない路床改良工事、及び構造物基礎の地盤改良工事で、1層の混合厚さが路床1m以下・構造物基礎2m以下における現位置での混合作業に適用する。

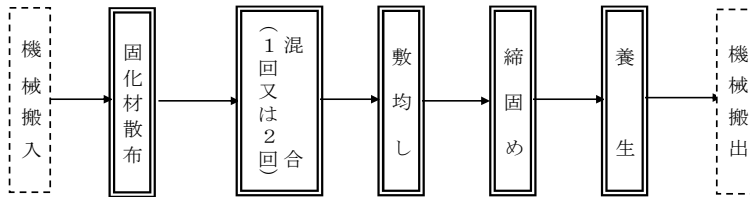
なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。

- ① 施工現場が狭隘な場合
- ② 転石がある場合
- ③ 移設出来ない埋設物がある場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

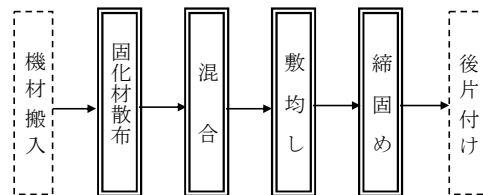
(1)スタビライザ混合



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 養生中の飛散防止等の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。

(2)バックホウ混合



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 安定処理 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材100m2当り 使用量	混合回数
スタビライザ	—	0.6m以下	(実数入力)	1回
		0.6mを超え1m以下		2回
バックホウ	路床	1m以下		1回
	構造物基礎	1m以下		2回
		1mを超え2m以下		—
				—
			—	
			—	

- (注)1. 上表は、地盤表層部もしくは路床、構造物基礎の改良材散布混合、敷均し・締固め、養生中の飛散防止(シート掛け)、現場内小運搬(スタビライザは100m程度の仮置場～現場、バックホウは50m程度の現場内小運搬)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. スタビライザ施工の混合回数は、消石灰・セメント系は1回、生石灰は2回を標準とする。ただし、土質状態により、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 条件区分の「固化材100m2当り使用量」は、実数量(材料ロスを含んだ数量)とする。

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 安定処理 代表機労材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目	代表機労材規格	備考	
スタビライザ	-	機械	K1	スタビライザ[路床改良用] 幅2.0m 深0.6m	混合深さ0.6m以下の 場合
			K1	スタビライザ[路床改良用] 幅2.0m 深1.2m	混合深さ0.6mを超え 1m以下の場合
			K2	モータグレーダ[油圧式] ブレード幅3.1m	
		労務	R1	特殊運転手	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	-	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1トンパック	
			Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
		バックホウ	路床	機械	K1
K2	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量8~20t				
K3	バックホウ [クローラ型・排ガス対策型 (第2次)] 山積0.28m ³ (平積み0.2m ³)				賃料
労務	R1			特殊運転手	
	R2			普通作業員	
	R3			土木一般世話役	
	R4			-	
材料	Z1			セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1トンパック	
	Z2			軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z3		-		
	Z4		-		
市場単価	S		-		
構造物基礎	機械		K1	バックホウ [クローラ型・クレーン機能付き] 排ガス型 (第2次) 山積0.8m ³ 2.9t吊	賃料
			K2	振動ローラ[ハンドガイド式]質量0.8~1.1t	賃料
			K3	-	
	労務		R1	土木一般世話役	
			R2	特殊運転手	
		R3	特殊作業員		
		R4	普通作業員		
	材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1トンパック		
Z2		軽油 1.2号 バトロール給油			
Z3		-			
Z4	-				
市場単価	S	-			

(注)バックホウ及び振動ローラは賃料とする。

第2章 共通工

① 法面工

1. 法面整形工

1-1. 適用範囲

本資料は、盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1-1-1 適用できる範囲

(1) 土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ・Ⅱ、中硬岩、硬岩の法面整形

1-2. 施工概要

1-2-1 盛土法面整形工

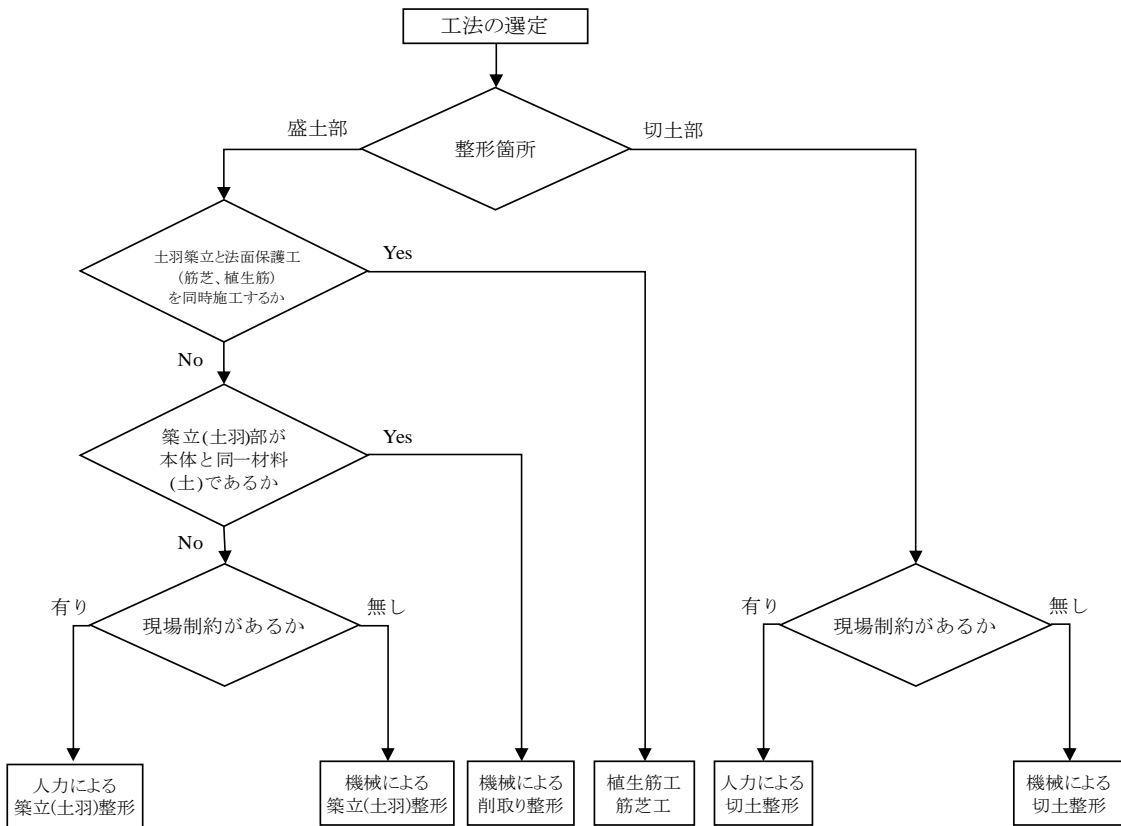
法面表層部を締め整形することを盛土法面整形工という。

1-2-2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

1-3. 施工フロー

図3-1 法面整形工 工法選定フロー図



(注)1. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。

- ・機械施工が困難な場合
- ・一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合
- ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業(二次整形)をする場合

2. 植生筋工、筋芝工については市場単価により別途計上すること。

図3-2 盛土部施工フロー図

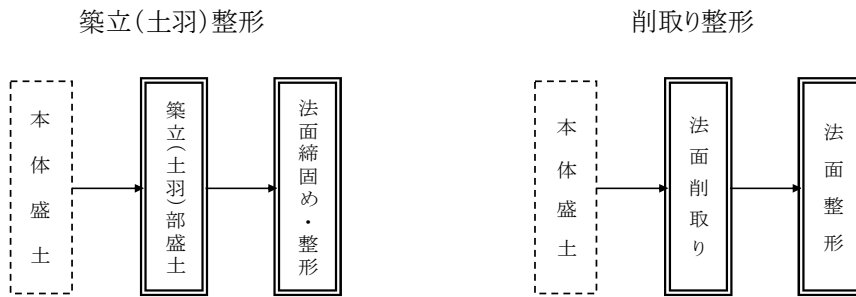
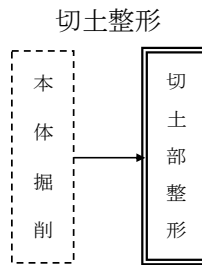


図3-3 切土部施工フロー図



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

1-4. 施工パッケージ

1-4-1 法面整形

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 法面整形 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質
盛土部	有り	有り	砂及び砂質土、粘性土
		無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
切土部	-	有り	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
			軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩
		無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
			軟岩Ⅰ

- (注)1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形又は盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面(土羽)整形、土羽土の現場内小運搬(20m程度)の他、空気圧縮機、ピックハンマ賃料、チゼル損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 残土の積込み、工区外の運搬、並びに法面保護工は含まない。
 3. 土羽土の搬入等は含まない。
 4. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。
 - ・機械施工が困難な場合
 - ・一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合
 - ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業(二次整形)をする場合
 5. 現場制約がある場合は、切土・盛土ともに人力施工になる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.2 法面整形 代表機労材規格一覧

現場制約の有無	整形箇所	項目	代表機労材規格	備考	
無し	盛土部 切土部	機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	
			K2	-	
			K3	-	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	土木一般世話役	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
		有り	盛土部	機械	K1
K2	-				
K3	-				
労務	R1			普通作業員	
	R2			土木一般世話役	
	R3			特殊作業員	
	R4			-	
材料	Z1			ガンリンレギュラー スタンド	
	Z2			-	
	Z3			-	
	Z4		-		
市場単価	S		-		
切土部	機械		K1	-	
			K2	-	
			K3	-	
	労務		R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	軟岩I、軟岩II、中硬岩、 硬岩の場合
			R4	-	
	材料		Z1	-	
			Z2	-	
		Z3	-		
		Z4	-		
市場単価	S	-			

② 基礎・裏込砕石工

1. 適用範囲

本資料は、無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 基礎砕石

- (1) 厚さが30cm以下の基礎砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

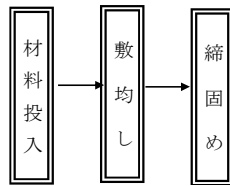
1-1-2 裏込砕石

- (1) 裏込砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

基礎・裏込砕石工



(注)1. 本施工パッケージは、上記フローのすべての作業に対応している。

2. 「敷均し」とは、掘削整形された床に栗石を機械投入し、所定の厚さに敷均し、つき固め仕上げる工法をいう。

3. 施工パッケージ

3-1 基礎砕石

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表3.1 基礎砕石 積算条件区分一覧
(積算単位:m2)

砕石の厚さ	砕石の種類
2.5cm以上7.5cm以下	(表3.2)
7.5cm超12.5cm以下	
12.5cm超17.5cm以下	
17.5cm超20.0cm以下	
20.0cm超22.5cm以下	
22.5cm超27.5cm以下	
27.5cm超30.0cm以下	

(注)1. 上表は基礎砕石工における材料の投入、敷均し、締固めおよび20m程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 砕石の材料使用量のロスを含む。

3. 基礎砕石の敷均し厚は30cmを上限とする。

表3.2 砕石の種類

積算条件	区分
砕石の種類	クラッシュラン 40～0
	クラッシュラン 30～0
	クラッシュラン 20～0
	高炉スラグ CS～40
	高炉スラグ MS-25
	高炉スラグ HMS-25
	クラッシュラン 80～0
	再生クラッシュラン 40～0
	再生クラッシュラン 80～0
	砕石(各種)

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 基礎砕石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	賃料
	K2 ー	
	K3 ー	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊運転手	
材料	Z1 再生クラッシュラン RC-40	
	Z2 軽油1.2号 バトロール給油	
	Z3 ー	
	Z4 ー	
市場単価	S ー	

3-2 裏込砕石

(1) 条件区分

条件区分は次表を標準とする。

表3.4 裏込砕石 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

砕石の種類	
クラッシュラン	40~0
クラッシュラン	30~0
クラッシュラン	20~0
高炉スラグ	CS~40
高炉スラグ	MS-25
高炉スラグ	HMS-25
クラッシュラン	80~0
再生クラッシュラン	40~0
再生クラッシュラン	80~0
砕石(各種)	

- (注)1. 上表は裏込砕石工における材料の投入、敷均し、締固めおよび20m程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 砕石の材料使用量のロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 裏込砕石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	特殊運転手	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

③ コンクリートブロック積(張)工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリートブロック積(張)に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 コンクリートブロック積

(1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上2、600kg/個以下)の場合

1-1-2 間知ブロック張

(1) 間知ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合

1-1-3 平ブロック張

(1) 平ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合

1-1-4 連節ブロック張

(1) 連節ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下)の場合

(2) 連結方式が鉄筋又は鋼線による場合

1-1-5 緑化ブロック積

(1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下)の場合

1-1-6 胴込・裏込コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込コンクリート打設の場合

1-1-7 胴込・裏込材(砕石)

(1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込材の投入転圧の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-8 遮水シート張

(1) 間知ブロック平ブロック、連節ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770 kg/個以下)における遮水シートの設置の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-9 吸出し防止材(全面)設置

(1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上2、600kg/個以下)及び平ブロック、連節ブロックの張工(勾配1割以上、ブロック質量770 kg/個以下)における吸出し防止材の設置の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-10 植樹

(1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満、ブロック質量980 kg/個以下)の植栽の場合

1-1-11 現場打基礎コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)及び石積(張)における人力打設又はクレーン車打設の現場打基礎の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-1-12 天端コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)工及び石積(張)工における天端コンクリート(打設地上高さ28m以下)の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 コンクリートブロック積

(1) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満、ブロック質量150kg/個未満)の場合

1-2-2 連節ブロック張

(1) 連結金具を使用する場合

1-2-3 胴込・裏込コンクリート

(1) 石積(張)における胴込・裏込コンクリート打設の場合

1-2-4 胴込・裏込材(砕石)

(1) 石積(張)における砕石等の胴込・裏込材設置の場合

1-2-5 現場打基礎コンクリート

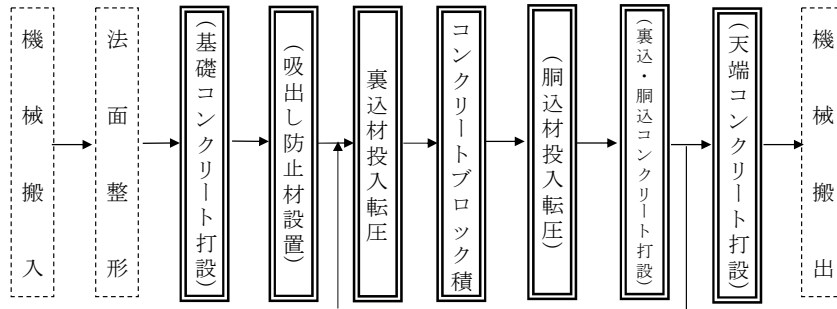
(1) 練炭養生以外の特殊養生(ジェットヒーター養生)の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

2-1 コンクリートブロック積工

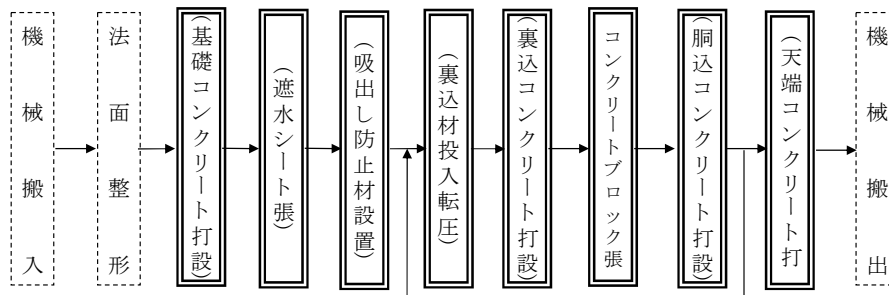
図2-1 施工フロー(コンクリートブロック積工)



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、()書きは必要な場合計上する。
 3. 水抜きパイプ設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 基礎コンクリート打設は、打設方法(人力、クレーン車)にかかわらず適用できる。

2-2 コンクリートブロック張工(間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張)

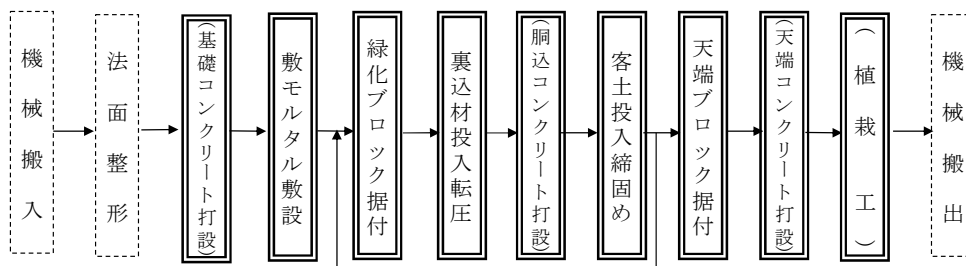
図2-2 施工フロー(コンクリートブロック張工)



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、()書きは必要な場合計上する。
 3. 間知ブロック張は、吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 基礎コンクリート打設は、打設方法(人力、クレーン車)にかかわらず適用できる。

2-3 緑化ブロック積工

図2-3 施工フロー(緑化ブロック積工)



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
 2. また、()書きは必要な場合計上する。
 3. 基礎コンクリート打設は、打設方法(人力、クレーン車)にかかわらず適用できる。
 4. 客土投入締固めの有無にかかわらず適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリートブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

鉄筋規格	鉄筋10m ² 当り使用量
(表3.2)	0.1t以下
	0.1tを超え0.2t以下

- (注)1. 上表は、間知ブロック(法勾配1割未満・ブロック質量150kg/個以上2,600kg/個以下)の設置、鉄筋(加工・組立)、現場内小運搬の他、水抜パイプ(水抜孔用吸出し防止材を含む)、吊上(下)げ作業(間知ブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 鉄筋の材料ロスを含む。
 3. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
 4. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 (5. 参考図参照)

表3.2 鉄筋規格

積算条件	区 分
鉄筋規格	SD295A D13
	SD295A D16
	SD345 D13
	SD345 D16~25
	鉄筋コンクリート用棒鋼 各種
	不要

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 コンクリートブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次)]25t吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	間知ブロック 高250×幅400×控350 滑面	鉄筋規格「不要」の場合を除く
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 間知ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 間知ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m2 当り使用量	胴込・裏込 コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10m2当り使用量	遮水シートの有無
150kg未満 控え350(m2) 滑面タイプ	(表3.5)	—	(表3.7)	—	有り
150kg未満 各種(m2)		(表3.6)		(表3.8)	無し
150kg以上 各種(m2)					有り
					無し

(注)1. 上表は、間知ブロック(法勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下)の設置、裏込材設置、胴込・裏込コンクリート打設、吊上(下)げ作業(コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材)、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬(30m程度)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 裏込材、胴込・裏込コンクリート、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。

3. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。

(5. 参考図参照)

4. 目地材は必要に応じて別途計上する。

5. 間知ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。

表3.5 裏込材規格

積算条件	区 分
裏込材規格	再生砕石 RC-40
	再生砕石 RC-80
	砕石 C-40
	砕石 C-80
	砕石各種
	不要

表3.6 裏込材10 m2当り使用量

積算条件	区 分
裏込材10m2当り使用量	1m3以下
	1m3を超え3m3以下
	3m3を超え5m3以下
	5m3を超え7m3以下

表3.7 胴込・裏込コンクリート規格

積算条件	区 分
胴込・裏込 コンクリート規格	18-8-25(普通)
	18-8-40(普通)
	18-8-25(高炉)
	18-8-40(高炉)
	生コンクリート各種
	不要

表3.8 胴込・裏込コンクリート10 m2当り使用量

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10m2当り使用量	0.1m3を超え0.5m3以下
	0.5m3を超え0.9m3以下
	0.9m3を超え1.3m3以下
	1.3m3を超え1.7m3以下
	1.7m3を超え2.1m3以下
	2.1m3を超え2.3m3以下(標準(150kg未満))
	2.3m3を超え2.7m3以下(標準(150kg以上))
	2.7m3を超え3.1m3以下
	3.1m3を超え3.5m3以下

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 間知ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t吊	賃料
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 普通作業員	
	R2 特殊作業員	
	R3 ブロック工	
	R4 土木一般世話役	
材料	Z1 間知ブロック 高250×幅400×控350 滑面	
	Z2 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
	Z3 再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合 を除く
	Z4 遮水シート 厚1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
市場単価	S -	

3-3 平ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 平ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

ブロックの 質量	平ブロック 規格	裏込材 規格	裏込材10m2 当り使用量	遮水シート の有無	吸出し防止材 の有無	連結金具 の有無	連結金具10m2 当り使用量			
150kg/個 未満	平ブロック 控 180(m2)	(表3.5)	(表3.11)	有り	有り	有り	(表3.12)			
					無し	無し				
				無し	有り	有り				
					無し	有り				
				有り	有り	有り				
					無し	有り				
	150kg/個 以上			平ブロック 控 120(m2)	(表3.5)	(表3.11)		有り	有り	有り
									無し	有り
								無し	有り	有り
				無し					有り	
				平ブロック 各種(m2)				有り	有り	
								無し	有り	
有り	有り									
150kg/個 以上	平ブロック 各種(m2)	(表3.5)	(表3.11)	有り			有り	有り		
							無し	有り		
				無し			有り	有り		
							無し	有り		
				有り			有り	有り		
					無し	有り				
無し	有り			有り						
	無し			有り						

(注)1. 上表は、平ブロック(法勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下)の設置、連結金具組立、裏込材(砕石)投入、吊上(下)げ作業(コンクリートブロック、裏込材)、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬の他、つき固め機械等の損料、目地モルタルを使用した場合の材料費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 裏込材、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。
 3. 目地モルタルの有無にかかわらず本施工パッケージを適用できる。
 4. 平ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
 5. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
 6. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
- (5. 参考図参照)

表3. 11 裏込材10m2当り使用量

積算条件	区 分
裏込材10m2当り使用量	1.0m3以下
	1.0m3を超え3.0m3以下
	3.0m3を超え5.0m3以下

表3. 12 連結金具10 m2当り使用量

積算条件	区 分
連結金具10m2当り使用量	5.0個以下
	5.0個を超え15.0個以下
	15.0個を超え20.0個以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 13 平ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次)]25t吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	平ブロック 厚さ120mm	
	Z2	再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8KN/m	吸出し防止材有りの場合
	Z4	遮水シート 厚1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
市場単価	S	—	

3-4 連節ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 14 連節ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋 (鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無
設置	150kg/個未満	(表3. 15)	有り	有り
				無し
	無し		有り	
			無し	
150kg/個以上	有り	有り		
		無し		
撤去	150kg/個未満	-	-	-
	150kg/個以上		-	-

- (注)1. 上表は、連節ブロック(法勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下)の設置、連節鉄筋(鋼線)の加工・組立・溶接、遮水シート、吸出し防止材、材料(コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材、間隙充填材)の吊上(下)げ作業、現場内小運搬の他、溶接機、止水シート(基礎、隔壁、小口止の端部継手)及び接着剤等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 連節鉄筋(鋼線)、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。
3. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
4. 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上する。
5. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
(5. 参考図参照)

表3. 15 連節鉄筋(鋼線)規格

積算条件	区 分
連節鉄筋(鋼線)規格	亜鉛アルミメッキ鋼線 径6mm
	亜鉛アルミメッキ鋼線 径8mm
	SR235 径9mm
	SR235 径13mm
	鉄筋コンクリート用棒鋼各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 16 連節ブロック張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次)]25t吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	連節ブロック 厚さ220mm	設置の場合
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SR235 φ13	設置の場合
	Z3	遮水シート 厚1.0+10.0mm	遮水シートの有りの場合
	Z4	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8KN/m	吸出し防止材有りの場合
市場単価	S	—	

3-5 緑化ブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 17 緑化ブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10m ² 当り 使用量	胴込・裏込コンクリート 規格	胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量
150kg/個未満	(表3. 5)	(表3. 18)	(表3. 7)	(表3. 19)
150kg/個以上				(表3. 20)

- (注)1. 上表は、緑化ブロック(法勾配1割未満・ブロック質量980kg/個以下)の設置、敷モルタル、裏込材(碎石)投入、胴込・裏込コンクリートの吊上げ、吊下げ、天端ブロック、調整コンクリート、客土投入・締固め、現場内小運搬の他、敷モルタル・目地モルタルの材料、つき固め機械等の損料及び油脂類の費用、コンクリートバケット、バイブレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、緑化ブロック及び天端ブロックの材料費は含まない。
- 裏込材、胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。
 - 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上することができる。
 - 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
 - (5. 参考図参照)
 - 緑化ブロック、天端ブロックの材料費は別途計上する。

表3. 18 裏込材10m²当り使用量

積算条件	区 分
裏込材10m ² 当り使用量	2.0m ³ 以下
	2.0m ³ を超え4.0m ³ 以下
	4.0m ³ を超え6.0m ³ 以下

表3.19 胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量(150Kg/個未満)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート10m2当り 使用量(150Kg/個未満)	0.7m3以下
	0.7m3を超え1.7m3以下
	1.7m3を超え2.7m3以下(標準)
	2.7m3を超え3.7m3以下
	3.7m3を超え4.7m3以下
	4.7m3を超え6.0m3以下

表3.20 胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量(150Kg/個以上)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート10m2当り 使用量(150Kg/個以上)	1.0m3以下
	1.0m3を超え2.0m3以下
	2.0m3を超え3.0m3以下(標準)
	3.0m3を超え4.0m3以下
	4.0m3を超え5.0m3以下
	5.0m3を超え6.0m3以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.21 緑化ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t吊	賃料
	K2	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第1次)]山積0.8m3(平積0.6m3)	裏込材規格「不要」の場合を除く
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
	Z2	再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 緑化ブロック(材料費)

(1) 条件区分

緑化ブロック(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、m2とする。

3-7 天端ブロック(材料費)

(1) 条件区分

天端ブロック(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、m2とする。

3-8 胴込・裏込コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 22 胴込・裏込コンクリート 積算条件区分一覧
(積算単位:m3当り)

生コンクリート規格
(表3. 7)

- (注)1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込コンクリート設置、現場内小運搬の他、コンクリートバケット、パイプレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. 胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。
 3. 養生が必要な場合は、「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 23 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-9 胴込・裏込材(砕石)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 24 胴込・裏込材(砕石) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3当り)

ブロックの種類	胴込・裏込材規格
間知・平ブロック	(表3. 5)
緑化ブロック	

- (注)1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込材設置(投入・転圧)、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. 胴込・裏込材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 25 胴込・裏込材(砕石) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第1次)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	緑化ブロックの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	緑化ブロックの場合
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシャーラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z2	軽油 1. 2号 パトロール給油	緑化ブロックの場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-10 遮水シート張

(1) 条件区分

遮水シート張の積算条件区分はない。

積算単位はm²とする。

(注)1. コンクリートブロック張における遮水シートの設置、基礎・隔壁・小口止部の止水シートの設置の他、止水シート(基礎・隔壁・小口止継手)及び接着剤の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 遮水シートの材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 26 遮水シート張 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	遮水シート 厚1. 0+10. 0mm	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-11 吸出し防止材(全面)設置

(1) 条件区分

吸出し防止材(全面)設置の積算条件区分はない。

積算単位はm²とする。

- (注)1. コンクリートブロック積・張の吸出し防止材(全面)の設置等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 吸出し防止材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 27 吸出し防止材(全面)設置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8KN/m	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-12 植樹

(1) 条件区分

植樹の積算条件区分はない。

積算単位は本とする。

- (注)1. 樹木の植穴掘り、植付け、埋戻し、養生、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、土壌改良に要する費用は含まない。
2. 樹高は、50cm以下とする。
3. 新植樹木の植栽にも適用できる。ただし、移植及び根廻し工事にかかわるものは除く。
4. 植樹割増しの有無にかかわらず適用できる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 28 植樹 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	造園工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	サツキツツジ樹高30cm	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-13 現場打基礎コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 29 現場打基礎コンクリート 積算条件区分一覧
(積算単位:m3当り)

生コンクリート規格	養生工の種類
18-8-25(普通)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-40(普通)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-25(高炉)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
18-8-40(高炉)	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし
生コンクリート各種	一般養生・特殊養生(練炭)
	養生なし

(注)1. 上表は、コンクリート、基礎材、目地板、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリート打設機器損料、コンクリート打設、養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. コンクリートの材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 30 現場打基礎コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第2次)]山積0.8m3(平積0.6m3)	賃料
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 普通作業員	
	R2 型枠工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 特殊作業員	
材料	Z1 生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z2 再生クラッシュラン RC-40	
	Z3 瀝青繊維質目地板 厚10mm	
	Z4 軽油 1.2号 バトロール給油	
市場単価	S -	

3-14 天端コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.31 天端コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類
18-8-25(普通)	打設地上高さ2m以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ2m超28m以下 かつ 水平距離20m以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-40(普通)	打設地上高さ2m以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ2m超28m以下 かつ 水平距離20m以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-25(高炉)	打設地上高さ2m以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ2m超28m以下 かつ 水平距離20m以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
18-8-40(高炉)	打設地上高さ2m以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ2m超28m以下 かつ 水平距離20m以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
生コンクリート各種	打設地上高さ2m以下	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし
	打設地上高さ2m超28m以下 かつ 水平距離20m以内	一般養生
		特殊養生(練炭)
		養生工なし

(注)1. 上表は、現場打ちによる天端コンクリート設置におけるコンクリート、型枠(製作・設置・撤去)、雑機械器具(電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリート打設機器)の損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 生コンクリートの材料ロスを含む。
3. 一般養生、特殊養生(練炭)以外の養生については別途計上する。
4. 目地材は必要に応じて別途計上する。

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 32 天端コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次)]25t吊	・打設地上高さ2m超28m以下 かつ水平距離20m以内の場合 ・賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ 場所打擁壁工

④-1 場所打擁壁工(1)

1. 適用範囲

本資料は、擁壁工における擁壁に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 小型擁壁(A)

- (1) 平均擁壁高さが0.5m以上1.0m以下の小型擁壁
- (2) コンクリート打設地上高さが2m以下の場合

1-1-2 小型擁壁(B)

- (1) 平均擁壁高さが0.5m以上1.0m以下の小型擁壁
- (2) コンクリート打設地上高さが2mを超え28m以下かつ水平打設距離20m以下の場合

1-1-3 重力式擁壁

- (1) 平均擁壁高さが1.0mを超え5.0m以下の重力式擁壁
- (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-4 もたれ式擁壁

- (1) 平均擁壁高さが3.0m以上8.0m以下のもたれ式擁壁
- (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-5 逆T型擁壁

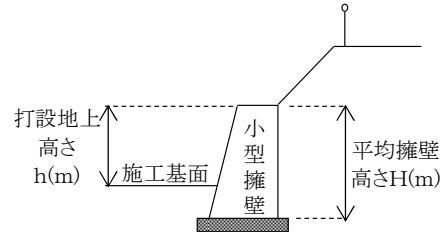
- (1) 平均擁壁高さが3.0m以上10.0m以下の逆T型擁壁
- (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合
- (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合
- (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-6 L型擁壁

- (1) 平均擁壁高さが3.0m以上7.0m以下のL型擁壁
- (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合
- (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合
- (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-7 化粧型枠

- (1) 場所打擁壁工などに用いる化粧型枠

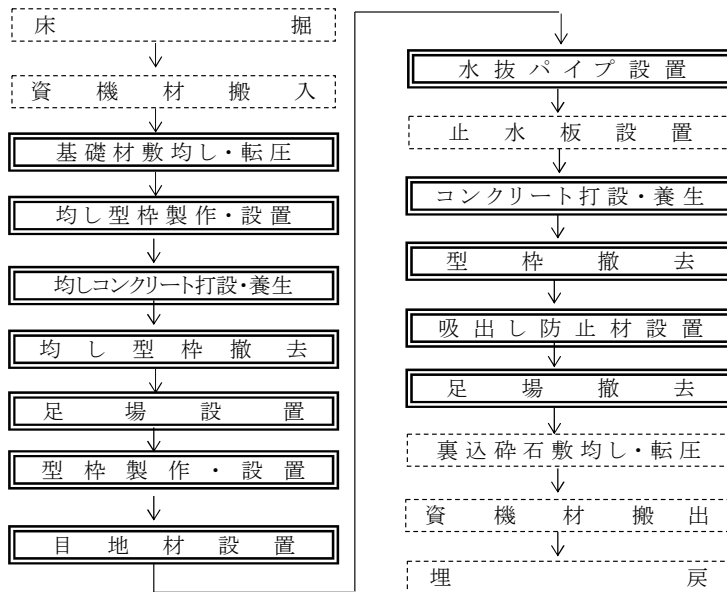


また、本項の適用を外れる現場打擁壁工については、場所打擁壁工(2)を適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

2-1 小型擁壁(A)及び(B)、重力式擁壁、もたれ式擁壁

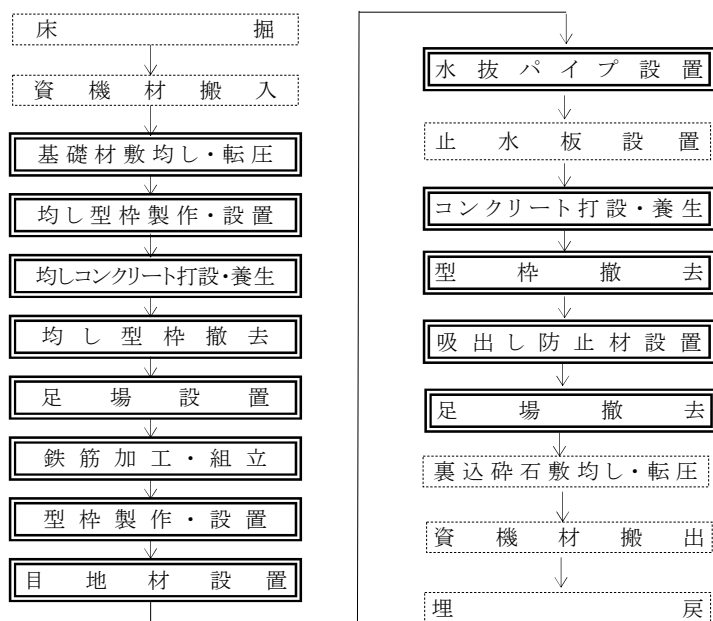


(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。

2. 基礎材敷均し・転圧、均し型枠製作設置・撤去、均しコンクリート打設・養生は、必要に応じて計上する。

3. 目地材、水抜きパイプ、吸出防止材は施工の有無によらず適用できる。

2-2 逆T型擁壁、L型擁壁



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
 2. 基礎材敷均し・転圧、均し型枠製作設置・撤去、均しコンクリート打設・養生は、必要に応じて計上する。
 3. 目地材、水抜きパイプ、吸出防止材は施工の有無によらず適用できる。
 4. ガス圧接が必要な場合は別途計上する。

3. 施工パッケージ
3-1 小型擁壁(A)

(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 小型擁壁(A) 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

コンクリート規格	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類
(表3.2)	無し	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無
		有り	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無
	有り	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無
		有り	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無

- (注)1. 上表は、小型擁壁(平均擁壁高さ0.5m以上1.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ))、現場内小運搬(5m以内)、シュート・ホッパの仮設移設、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
- コンクリートのロスを含む。
 - 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
 - ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
 - 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 - 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。

表3. 2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	27-8-25(20)(普通)
	18-8-40(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	18-8-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	18-8-25(高炉)
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 3 小型擁壁(A) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ジェットヒータ 126MJ (30, 100kcal)	・特殊養生の場合 ・賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生の場合
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-2 小型擁壁(B)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 小型擁壁(B) 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

コンクリート規格	施工条件	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類
(表3.2)	(表3.5)	無し	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒータ)
				養生工無
			有り	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒータ)
				養生工無
		有り	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒータ)
				養生工無
			有り	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒータ)
				養生工無

- (注)1. 上表は、小型擁壁(平均擁壁高さ0.5m以上1.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生・特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ))、運搬バケットへのコンクリート積込作業、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(バイブレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリートの機械打設に使用するバケット容量は0.6m3を標準とする。
3. コンクリートのロスを含む。
4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。

表3.5 施工条件

積算条件	区分
施工条件	打設高17m以下・水平打設距離17m以下
	打設高25m以下・水平打設距離18m以下
	打設高25m以下・水平打設距離20m以下
	打設高28m以下・水平打設距離20m以下
	水平打設距離30m以下

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 小型擁壁(B) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]16t吊	・打設高17m以下・水平打設距離17m以下の場合 ・賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]20t吊	・打設高25m以下・水平打設距離18m以下の場合 ・賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]25t吊	・打設高25m以下・水平打設距離20m以下の場合 ・賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]35t吊	・打設高28m以下・水平打設距離20m以下の場合 ・賃料
		クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]50t吊	・水平打設距離30m以下の場合 ・賃料
	K2	ジェットヒータ126MJ(30、100kcal)	・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 ・賃料
K3	—		
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	水平打設距離30m以下の場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 重力式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 重力式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

平均擁壁高さ	コンクリート規格	基礎碎石の有無	均しコンクリート	養生工の種類	圧送管延長
			の有無		距離区分
1m超 2m未満	(表3.2)	無し	無し	一般養生	(表3.8)
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				養生工無	
			有り	一般養生	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				養生工無	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				養生工無	
			有り	一般養生	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				養生工無	
2m以上 5m以下		無し	無し	一般養生	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内ジェットヒータ養生	
			有り	養生工無	
				一般養生	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
		有り	無し	仮囲い内ジェットヒータ養生	
				養生工無	
				一般養生	
			有り	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内ジェットヒータ養生	
				養生工無	

(注)1. 上表は、重力式擁壁(平均擁壁高さ1.0m以上5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場(平均擁壁高さが2m以上の場合)、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(バイブレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. コンクリートのロス率を含む。
3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。

表3.8 圧送管延長距離区分

積算条件	区分
圧送管延長距離区分	延長無し
	90m未満
	90m以上180m未満
	180m以上280m以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 重力式擁壁 代表機労材規格一覧

平均擁壁高さ	項目	代表機労材規格	備考	
1m超2m未満	機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	
		K2	-	
		K3	-	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	型枠工	
		R3	土木一般世話役	
		R4	特殊作業員	
	材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
		Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
		Z3	-	
Z4		-		
市場単価	S	-		
2m以上5m以下	機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	
		K2	ジェットヒータ 126MJ (30,100kcal)	・仮囲い内ジェットヒータ 養生の場合 ・賃料
		K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ 養生の場合
	労務	R1	普通作業員	
		R2	型枠工	
		R3	土木一般世話役	
		R4	とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ 養生の場合
	材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
		Z2	普通作業員	
		Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ 養生の場合
Z4		-		
市場単価	S	-		

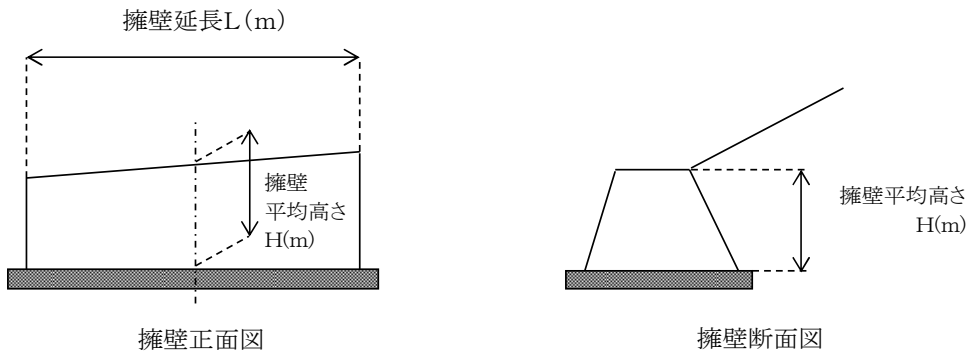
[参考図]

擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH(m)

$$H = A / L \text{ (m)}$$

A = 正面図での擁壁面積 (m²)

L = 擁壁延長 (m)



3-4 もたれ式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 もたれ式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位:m³)

コンクリート規格	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表3.2)	無し	無し	一般養生	(表3.8)
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
			仮囲い内ジェットヒータ養生	
		養生工無		
		有り	一般養生	
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
	仮囲い内ジェットヒータ養生			
	有り	無し	養生工無	
			一般養生	
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
		有り	仮囲い内ジェットヒータ養生	
			養生工無	
一般養生				

(注)1. 上表は、もたれ式擁壁(平均擁壁高さ3.0m以上8.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びびケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、足場工、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点注)、養生(一般養生・特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホップ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. コンクリートのロスを含む。
3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 11 もたれ式擁壁 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	
	K2	ジェットヒータ 126MJ (30, 100kcal)	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2. 7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z2	軽油 1. 2号 バトロール給油	
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生の場合
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-5 逆T型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 逆T型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長
					距離区分
(表3.2)	(表3.13)	無し	無し	一般養生	(表3.8)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

- (注)1. 上表は、逆T型擁壁(平均擁壁高さ3.0m以上10.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びベレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホップ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート・鉄筋のロスを含む。
 3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
 4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
 5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
 6. ガス圧接が必要な場合は別途計上する。
 7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
 9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。

表3. 13 鉄筋量

積算条件	区分
鉄筋量	0.04t/m3以上0.06t/m3未満
	0.06t/m3以上0.08t/m3未満
	0.08t/m3以上0.10t/m3未満
	0.10t/m3以上0.12t/m3未満
	0.12t/m3以上0.14t/m3未満

(注) 1. 条件区分の鉄筋量はロスを含まない数量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 14 逆T型擁壁 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1 コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力90~110m3/h		
	K2 ジェットヒータ 126MJ (30, 100kcal)	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	
	K3 発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2. 7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	
労務	R1 普通作業員		
	R2 型枠工		
	R3 土木一般世話役		
	R4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	
材料	Z1 生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%		
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋量が0.04t/m3以上 0.06t/m3未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19	鉄筋量が0.06t/m3以上 0.08t/m3未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	鉄筋量が0.08t/m3以上 0.10t/m3未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29	鉄筋量が0.10t/m3以上 0.12t/m3未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が0.12t/m3以上 0.14t/m3未満の場合
	Z3 軽油 1. 2号 バトロール給油		
Z4 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合		
市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物		

3-6 L型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.15 L型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表3.2)	(表3.13)	無し	無し	一般養生	(表3.8)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

- (注)1. 上表は、L型擁壁(平均擁壁高さ3.0m以上10.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びベレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート・鉄筋のロスを含む。
 3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
 4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。
 5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。
 6. ガス圧接が必要な場合は別途計上する。
 7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
 9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。

(2)代表機労材規格

下記機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 16 L型擁壁 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力90～110m ³ /h	
	K2	ジェットヒータ 126MJ (30, 100kcal)	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R1	普通作業員	
	R2	型枠工	
	R3	土木一般世話役 とび工	一般、特殊養生の場合
	R4	特殊作業員	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋量が0.04t/m ³ 以上 0.06t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19	鉄筋量が0.06t/m ³ 以上 0.08t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	鉄筋量が0.08t/m ³ 以上 0.10t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29	鉄筋量が0.10t/m ³ 以上 0.12t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が0.12t/m ³ 以上 0.14t/m ³ 未満の場合
	Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
Z4	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	
市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	

3-7 化粧型枠

(1) 条件区分

化粧型枠に条件区分はない。

積算単位はm²とする。

- (注)1. 化粧型の貼付・はく離作業が必要な化粧型枠(使い捨て型)の製作・設置・撤去、はく離剤及び電気ドリル、電動ノコギリ損料、電力に関する経費、仮設材の持上(下)げ機械に要する費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等)の内、一般型枠との差額のみを含む。ただし、化粧型枠(材料費)は含まない。
2. 化粧型と型枠が一体となった製品を使用し、貼付・はく離作業が不要な場合は適用できない。
3. 化粧型枠の材料費は別途計上する。
4. 化粧型枠の処分費が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下記機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 17 化粧型枠 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型枠工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-8 化粧型枠(材料費)

(1) 条件区分

化粧型枠(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位はm²とする。

3-9 ペーラインコンクリート(材料費)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 18 ペーラインコンクリート(材料費)積算条件区分一覧
(積算単位:m³)

コンクリート規格
(表3. 2)

(注)1. 上表は場所打擁壁工(1)におけるペーラインコンクリートの材料費(ロス等含む)を含む。
なお、施工費は④-1場所打擁壁工(1)の各種擁壁工の積算条件区分に含まれる。

3-10 止水板設置

止水板が必要な場合は、別途計上する。

3-11 裏込砕石

裏込砕石が必要な場合は、「第2編第2章共通工②基礎・裏込砕石工」により別途計上する。

④-2 場所打擁壁工(2)

1. 適用範囲

本歩掛は、場所打擁壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工(表1. 1)のコンクリート打設に適用する。

表1. 1 場所打擁壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工

・重力式擁壁[擁壁平均高さ5mを超えるもの]
・もたれ式擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは8mを超えるもの]
・逆T型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは10mを超えるもの]
・L型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは7mを超えるもの]
・重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁以外の形式の現場打擁壁

2. 施工歩掛

2-1 擁壁工コンクリート打設歩掛

擁壁工コンクリート打設歩掛は、次表のとおりとする。

表2. 1 擁壁工コンクリート打設歩掛 (10m3当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	
			重力式、もたれ式擁壁等 無筋の擁壁	逆T型、L型擁壁等 鉄筋の擁壁
世 話 役		人	0.15	
特 殊 作 業 員		〃	0.23	
普 通 作 業 員		〃	0.53	
コ ン ク リ ー ト		m3	10.4	10.2
コンクリートポンプ車運転	ブーム式 90~110m3/h	日	0.12	
諸 雑 費 率		%	2	

(注)1. コンクリートポンプ車の機種については「④-1場所打擁壁工(1)、表4. 1 機種の選定」による。

2. コンクリートの補正係数は、重力式、もたれ式等無筋の擁壁で+ 0.04、逆T型、L型擁壁等鉄筋の擁壁で+ 0.02として上表に含めてある。また、ペーラインコンクリートについてはコンクリート材料費のみを別途計上すること。なお、ペーラインコンクリートの材料補正は擁壁本体と同一の数値を用いることとする。
3. 表2. 1 には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。
4. 諸雑費は、パイプレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
5. コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合の圧送管の組立・撤去が必要な場合は「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。なお、コンクリートの1日当り打設量は80m3を標準とする。
6. 養生工については、「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

2-2 型枠工

型枠工は、「第2編第3章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。

2-3 足場工

足場工は、「第2編第4章仮設工①足場工」により別途計上する。

2-4 その他

上記以外に必要なものについては、該当する各工種により別途計上する。

3. 単価表

(1) 擁壁工コンクリート打設10m3当り施工単価表[場所打擁壁工(2)]

		施工歩掛コード		WB226410
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.15	表2. 1
特 殊 作 業 員		〃	0.23	〃
普 通 作 業 員		〃	0.53	〃
コ ン ク リ ー ト		m3		〃 10 × (1 + 補正係数)
コンクリートポンプ車運転	ブーム式90~110m3/h	日	0.12	〃
圧送管組立・撤去		式	1	(2) 単価表 必要に応じて計上
養 生 工		〃	1	必要に応じて計上(注)
諸 雑 費		〃	1	表2. 1
計				

(注) 養生工については「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工4-2. 養生工、4-3. 養生工(特殊養生)」により計上する。

(2) 圧送管組立・撤去費(場所打擁壁工)10m3当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	$0.46 \times L / 80$	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
コンクリートポンプ車	ブーム式90~110m3/h	機-20	機械損料1 →コンクリートポンプ車
			運転労務数量 → 1.00
			燃料消費量 → 77
			機械損料数量 → 1.02
			機械損料2 →コンクリート圧送管 (径125mm)
			単位 → m・供用日
			数量 → L × 1.02

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。

⑤排水構造物工

1. 適用範囲

本資料は、プレキャスト製排水構造物の据付、撤去、据付・撤去作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 ヒューム管(B形管)

- (1)ヒューム管、B形管(ソケット管)の据付、撤去、据付・撤去の場合
- (2)ヒューム管、B形管(ソケット管)を仮設に使用する場合

1-1-2 ボックスカルバート

- (1)1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート(内空断面が台形タイプの物を含む)の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-3 暗渠排水管

- (1)硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-4 フィルター材

- (1)暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材(クラッシュラン・単粒度碎石等)の敷設の場合

1-1-5 管(函)渠型側溝

- (1)車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-6 プレキャスト集水桝

- (1)プレキャスト製集水桝の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-7 鉄筋コンクリート台付管

- (1)管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている(管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む)プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-8 プレキャストL形側溝

- (1)プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合

1-1-9 プレキャストマンホール

- (1)プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合
- (2)プレキャスト製マンホールの内径が1,500mm以下の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 ヒューム管(B形管)

- (1)巻きコンクリート(固定基礎)を含む撤去、据付・撤去の場合

1-2-2 ボックスカルバート

- (1)グラウトを使用しないPCアンボンドケーブル等による施工の場合
- (2)製品長1.0m/個で縦締を行う場合
- (3)曲線部における縦締め施工の場合

1-2-3 暗渠排水管

- (1)持上げ高が2m以上の場合
- (2)埋設を行わない地上露出配管の敷設の場合

1-2-4 フィルター材

- (1)暗渠排水管の敷設を行わない場合

1-2-5 管(函)渠型側溝

- (1)土中に全体埋設される場合

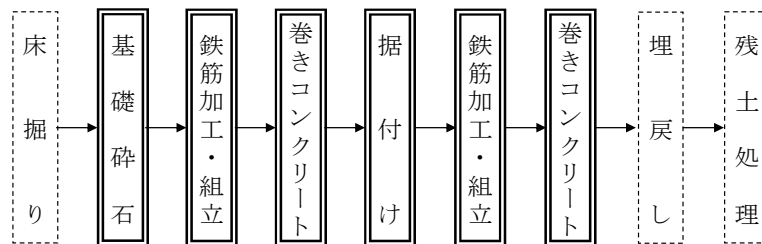
1-2-6 プレキャスト集水桝

- (1)質量 80 kg/基以下で、持上げ高が2m以上の場合

2. 施工概要

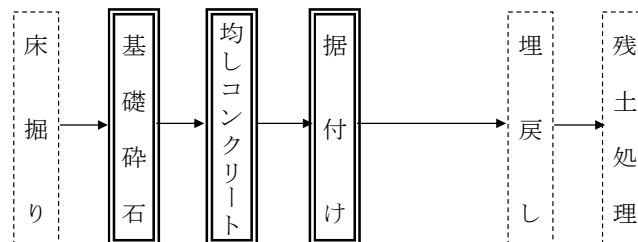
施工フローは、下記を標準とする。

(1) ヒューム管(B形管)



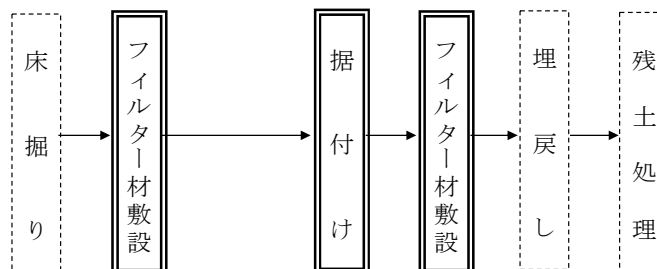
- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
2. 基礎碎石、巻きコンクリートは、必要に応じて計上する。
3. コンクリートの養生は、特殊な養生にかかわらず、本施工パッケージを適用できる。
4. 鉄筋加工・組立は、巻きコンクリートが360° 巻きの場合のみ計上する。

(2) ボックスカルバート



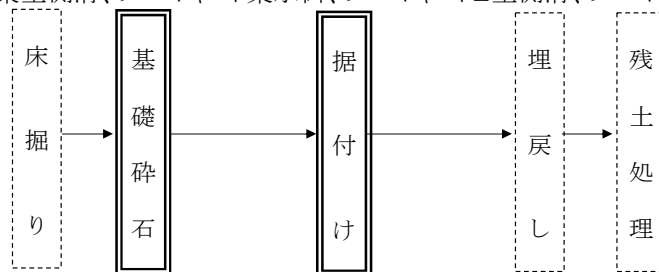
- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
2. 基礎碎石、均しコンクリートは、必要に応じて計上する。

(3) 暗渠排水管、フィルター材



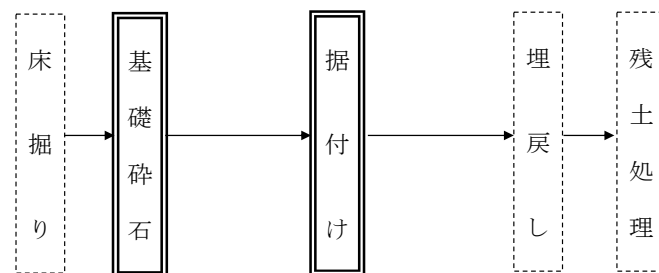
- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。

(4) 管(函)渠型側溝、プレキャスト集水柵、プレキャストL型側溝、プレキャストマンホール



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
2. 基礎砕石は、必要に応じて計上する。
3. プレキャスト集水柵は、蓋版の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用できる。

(5) 鉄筋コンクリート台付管



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重線部分のみである。
2. 基礎砕石の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用できる。

3. 施工パッケージ
3-1 ヒューム管(B形管)

(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ヒューム管(B形管) 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	管径	固定基礎	基礎碎石	規格	生コンクリート規格
据付	(表3.2)	90° 巻き	(表3.4)	外圧管1種	(表3.5)
				外圧管2種	
		180° 巻き		外圧管1種	
				外圧管2種	
		360° 巻き	—	外圧管1種	
		無し		外圧管1種	
			外圧管2種		
	(表3.3)	90° 巻き	(表3.4)	外圧管1種	
				外圧管2種	
		180° 巻き		外圧管1種	
		外圧管2種			
		無し	—	外圧管1種	
				外圧管2種	
撤去	(表3.2)	—	—	—	—
	(表3.3)	—	—	—	—
据付・撤去	(表3.2)	—	—	外圧管1種	—
	(表3.3)	—	—	外圧管2種	—

- (注)1. 上表は、ヒューム管の設置、基礎碎石、鉄筋、運搬距離30m程度までの現場内小運搬、基礎コンクリート、コンクリート、型枠(剥離材塗布及びケレン作業を含む)の他、緊結用器具、コンクリートカッタ運転、目地モルタルの費用、ヒューム管損失分の費用、カッタブレードの損耗費、レバーブロック損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 碎石、鉄筋、コンクリートのロスを含む。
 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
 5. 固定基礎無しは、基礎碎石を含まないため必要な場合は別途計上する。
 6. 撤去作業、据付・撤去作業は、ヒューム管のみを対象としている。
 7. コンクリートの養生は、一般養生及び特殊養生にかかわらず適用出来る。

表3.2 管径①

積算条件	区分
管径	200mm
	250mm
	300mm
	350mm
	400mm
	450mm
	500mm
	600mm
	700mm
	800mm
	900mm
1,000mm	

表3.3 管径②

積算条件	区分
管径	1,100mm
	1,200mm
	1,350mm

表3.4 基礎砕石

積算条件	区分
基礎砕石	有り
	無し

表3.5 生コンクリート規格

積算条件	区分
生コンクリート規格	18-8-40(高炉)
	18-8-25(20)(高炉)
	18-8-40(普通)
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 ヒューム管(B形管) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考	
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準)] 25t吊	・賃料 ・管径が1,100~1,350mmの場合	
		バックホウ[クローラ型クレーン機能付・排出ガス対策型(第1次基準)] 山積0.45m3(平積0.35 m3) 2.9t吊	管径が200~1,000mmの場合	
		—		
労務	R1	普通作業員		
	R2	型枠工	作業区分が据付で、固定基礎が有りの場合	
		運転手(特殊)	上記以外の場合	
	R3	土木一般世話役		
R4	特殊作業員			
材料	Z1	ヒューム管 外圧管 B形1種 径200mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が200mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径250mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が250mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径300mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が300mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径350mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が350mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径400mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が400mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径450mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が450mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径500mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が500mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径600mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が600mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径700mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が700mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径800mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が800mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径900mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が900mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,000mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が1,000mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,100mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が1,100mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,200mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が1,200mmの場合	
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,350mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が1,350mmの場合	
		Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	作業区分が据付で、固定基礎が無し以外の場合
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	管径が200~1,000mmの場合
		Z4	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	作業区分が据付で固定基礎が360°巻きの場合
		市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物

3-2 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 ボックスカルバート 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	製品長	内空幅・内空高(m)	基礎材種別	PC鋼材による縦締め
据付	1.0m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	(表3.8)	—
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	1.5m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	(表3.8)	(表3.9)
		0m < H ≤ 1.25m		
		1.25m < B ≤ 2.5m		
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	2.0m/個	0m < B ≤ 1.25m	(表3.8)	(表3.9)
		0m < H ≤ 1.25m		
1.25m < B ≤ 2.5m				
0m < B ≤ 1.25m				
1.25m < H ≤ 2.5m				
1.25m < H ≤ 2.5m				
撤去	1.0m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	—	—
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	1.5m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	—	(表3.9)
		0m < H ≤ 1.25m		
		1.25m < B ≤ 2.5m		
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	2.0m/個	0m < B ≤ 1.25m	—	(表3.9)
		0m < H ≤ 1.25m		
1.25m < B ≤ 2.5m				
0m < B ≤ 1.25m				
1.25m < H ≤ 2.5m				
1.25m < B ≤ 2.5m				

作業区分	製品長	内空幅・内空高(m)	基礎材種別	PC鋼材による縦締め
据付・撤去	1.0m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	(表3.8)	—
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	1.5m/個	1.25m < B ≤ 2.5m	(表3.8)	(表3.9)
		0m < H ≤ 1.25m		
		1.25m < B ≤ 2.5m		
		1.25m < H ≤ 2.5m		
		2.5m < B ≤ 3.75m		
		1.25m ≤ H ≤ 2.5m		
	2.0m/個	2.5m < B ≤ 3.75m	(表3.8)	(表3.9)
		2.5m < H ≤ 3.75m		
		0m < B ≤ 1.25m		
		0m < H ≤ 1.25m		
		1.25m < B ≤ 2.5m		
0m < H ≤ 1.25m				

- (注)1. 上表は、ボックスカルバートの設置、PC鋼材による縦締め、基礎材、均しコンクリート、型枠(剥離材塗布及びケレン作業を含む)、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト、運搬距離30m程度までの現場内小運搬、レバーブロック、油圧ジャッキ(ポンプを含む)、グラウトポンプ、ミキサーの損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、PC鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。
- 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
 - 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は最大値とする。
 - PC鋼材、定着金具は、別途必要量を計上する。
 - 縦締めは、直線部にのみ適用する。
 - 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 - 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。
 - 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 - 製品長が1個あたり1.0mの場合、PC鋼材による縦締めの費用は含まない。

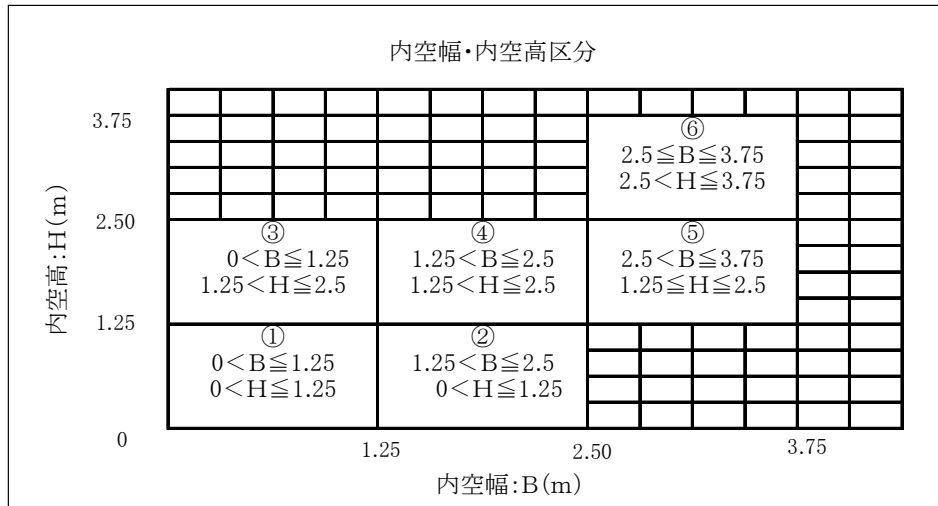
表3.8 基礎材種別

積算条件	区分
基礎材種別	基礎碎石+均しコンクリート
	基礎碎石
	均しコンクリート
	無し

表3.9 PC鋼材による縦締め

積算条件	区分
PC鋼材による縦締め	無し
	有り

図3-1 ボックスカルバート内空幅・内空高区分



(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 10 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次)]25t吊	・賃料 ・内空高2.5m以下の場合
	K2 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次)]45t吊	・賃料 ・内空高2.5m超の場合
	K3 —	
労務	R1 普通作業員	
	R2 土木一般世話役	
	R3 特殊作業員	
	R4 —	
材料	Z1 ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m≤H≤2.5mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B1500×H1000×L1500 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、1.25m≤H≤2.5mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、2.5m<H≤3.75mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 2.0m/個で、内空幅・内空高が 0m<B≤1.25m、0m<H≤1.25mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 2.0m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 2.0m/個で、内空幅・内空高が 0m<B≤1.25m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z1 ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り0.5～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 2.0m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5mの場合
	Z2 —	
	Z3 —	
	Z4 —	
市場単価	S —	

3-3 暗渠排水管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.11 暗渠排水管 積算条件区分一覧 (積算単位:m)

作業区分	管種別	呼び径	継手材料費	
据付	直管	50 ~ 150mm	—	
		200 ~ 400mm	—	
	波状管及び網状管	50 ~ 150mm	要	
			不要	
		200 ~ 400mm	要	
			不要	
	450 ~ 600mm	要		
		不要		
撤去	直管	50 ~ 150mm	—	
		200 ~ 400mm		
	波状管及び網状管	50 ~ 150mm		
		200 ~ 400mm		
		450 ~ 600mm		
据付・撤去	直管	50 ~ 150mm	—	
		200 ~ 400mm		
	波状管及び網状管	50 ~ 150mm		要
				不要
		200 ~ 400mm		要
				不要
	450 ~ 600mm	要		
		不要		

- (注)1. 上表は、暗渠排水管(浅層地下排水除去のために行う)の敷設、継手材料、運搬距離100m程度まで現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は別途考慮する。
3. 暗渠排水管の切断ロスを含む。
4. 継手材料費は継手接合の場合であり、継手を必要としない場合及び排水管価格に含む場合は計上しない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 暗渠排水管 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	暗渠排水管 直管 呼び径75mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が50～150mmの場合
		暗渠排水管 直管 呼び径300mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が200～400mmの場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径75mm 高密度ポリエチレン管 (シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が50～150mmの場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径300mm 高密度ポリエチレン管 (シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が200～400mmの場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径500mm 高密度ポリエチレン管 (シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が450～600mmの場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 フィルター材

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.13 フィルター材 積算条件区分一覧
(積算単位:m3)

フィルター材の種類	
クラッシュラン	C 80
〃	C 40
〃	C 30
粒度調整砕石	M 40
〃	M 30
〃	M 25
コンクリート用骨材	砕石 40-5
単粒度砕石 4号	30-20
再生クラッシュラン	RC 80
〃	RC 40
〃	RC 30
各 種	

(注)1. 上表は、暗渠排水管敷設に伴うフィルター材(クラッシュラン及び単粒度砕石等)の設置、締固め、運搬距離30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)。

2. フィルター材の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.14 フィルター材 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排出ガス対策型(第1次)] 山積0.45m3(平積0.35 m3)	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 管(函)渠型側溝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.15 管(函)渠型側溝 積算条件区分一覧
(積算単位:m)

作業区分	内径又は内空幅(mm)	基礎碎石の有無
据付	200mm 以上 400mm以下	有り
		無し
	400mmを超え600mm以下	有り
		無し
撤去	200mm 以上 400mm以下	—
	400mmを超え600mm以下	—
据付・撤去	200mm 以上 400mm以下	有り
		無し
	400mmを超え600mm以下	有り
		無し

- (注)1. 上表は、プレキャスト製管(函)渠型側溝の設置、基礎材、運搬距離30m程度までの現場内小運搬の他、コンクリートカッタ運転経費、目地モルタル、敷モルタルの費用、カッタブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.16 管(函)渠型側溝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	バックホウ[クローラ型クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次)] 山積0.28m ³ (平積0.2 m ³) 1.7 t 吊	・ 賃料 ・ 内径又は内空幅が200mm以上400mm以下の場合
		バックホウ[クローラ型クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次)] 山積0.45m ³ (平積0.35 m ³) 2.9 t 吊	・ 賃料 ・ 内径又は内空幅が400mmを超え600mm以下の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手(特殊)	
材料	Z 1	円形側溝 縦断用 内径300mm T-25	作業区分が据付又は据付・撤去で、内径又は内空幅が200mm以上400mm以下の場合
		円形側溝 縦断用 内径500mm T-25	作業区分が据付又は据付・撤去で、内径又は内空幅が400mmを超え600mm以下の場合
	Z 2	軽油 1. 2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 プレキャスト集水桝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.17 プレキャスト集水桝 積算条件区分一覧
(積算単位:基)

作業区分	製品質量(kg/基)	基礎碎石の有無
据付	(表3.18)	有り
		無し
—		
有り		
撤去		無し
据付・撤去		無し

- (注)1. 上表は、プレキャスト集水桝の設置、基礎材、敷砂又は敷モルタル、運搬距離30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、集水桝(材料費)は含まない。
2. 蓋版の有無にかかわらず適用出来る。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
6. 集水桝の材料費は別途計上する。

表3.18 製品質量

積算条件	区分
製品質量 (kg/基)	50kg 以上80kg以下
	80kgを超え400kg以下
	400kgを超え800kg以下
	800kgを超え1,200kg 以下
	1,200kgを超え 1,600kg 以下
	1,600kg を超え2,200kg 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.19 プレキャスト集水桝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ [クローラ型クレーン機能付き(排出ガス対策型(第1次))]山積0.45m ³ 2.9t吊	製品質量が80kgを超え2,200kg/基以下の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手(特殊)	製品質量が80kgを超え2,200kg/基以下の場合
材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	製品質量が80kgを超え2,200kg/基以下の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-7 プレキャスト集水桝(材料費)

(1) 条件区分

プレキャスト集水桝(材料費)の条件区分はない。
積算単位は基とする。

3-8 鉄筋コンクリート台付管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 20 鉄筋コンクリート台付管 積算条件区分一覧
(積算単位:m)

作業区分	管 径
据 付	(表3. 21)
撤 去	
据付・撤去	

- (注)1. 上表は、鉄筋コンクリート台付管の設置、基礎砕石、運搬距離30m程度までの現場内小運搬、緊結用器具、コンクリートカッタ運転、目地モルタル、コンクリートカッタブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 断面が卵形の場合の管径は内幅とする。
3. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎砕石は含まない。
5. 基礎砕石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。

表3. 21 管径

積算条件	区分	積算条件	区分
管 径	200mm	管 径	600mm
	250mm		700mm
	300mm		800mm
	350mm		900mm
	400mm		1,000mm
	450mm		1,100mm
	500mm		1,200mm

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 22 鉄筋コンクリート台付管 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次)]25t吊	・賃料 ・管径が900～1,200mmの場合
		バックホウ[クローラ型クレーン機能付・排出ガス対策型(第1次)] 山積0.45m ³ (平積0.35 m ³)2.9t吊	管径が200～800mmの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手(特殊)	管径が200～800mmの場合
材料	Z1	鉄筋コンクリート台付管(バイコン台付管) 管径300mm×長さ2,000mm	・1m当たり0.5本 ・作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が200～300mmの場合
		鉄筋コンクリート台付管(バイコン台付管) 管径450mm×長さ2,500mm	・1m当たり0.4本 ・作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が350～500mmの場合
		鉄筋コンクリート台付管(バイコン台付管) 管径600mm×長さ2,500mm	・1m当たり0.4本 ・作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が600～800mmの場合
		鉄筋コンクリート台付管(バイコン台付管) 管径1,000mm×長さ2,500mm	・1m当たり0.4本 ・作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が900～1,200mmの場合
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	管径が200～800mmの場合
	Z3	—	
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-9 プレキャストL形側溝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 23 プレキャストL形側溝 積算条件区分一覧
(積算単位:m)

作業区分	基礎碎石の有無	L形側溝の種類
据付	有り	(表3. 24)
	無し	
撤去	—	—
据付・撤去	有り	(表3. 24)
	無し	

- (注)1. 上表は、プレキャスト製品によるL型側溝の設置、基礎碎石、運搬距離30m程度までの現場内小運搬の他、コンクリートカッタ運転経費、目地モルタル、敷モルタルの費用、コンクリートカッタブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種類・規格にかかわらず適用出来る。

表3. 24 プレキャストL形側溝の種類

積算条件	区分	
	呼び名	種類
L形側溝の種類	C250A	コンクリートL形(350×175×600)
	C250B	コンクリートL形(450×175×600)
	250A	鉄筋コンクリートL形(350×155×600)
	250B	鉄筋コンクリートL形(450×155×600)
	300	鉄筋コンクリートL形(500×155×600)
	350	鉄筋コンクリートL形(550×155×600)
	500A	鉄筋コンクリートL形(665×270×600)
	500B	鉄筋コンクリートL形(700×320×600)
	500C	鉄筋コンクリートL形(705×370×600)
	—	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 25 プレキャストL形側溝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型クレーン機能付・排出ガス対策型(第1次基準)] 山積0.45m ³ (平積0.35 m ³)2.9t吊	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	鉄筋コンクリートL形300(500×155×600)	作業区分が据付又は据付・撤去の場合
	Z2	軽油 1. 2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S		

⑥ 函渠工

⑥-1 函渠工(1)

1. 適用範囲

本資料は、函渠工(現場打カルバート工)の施工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 函渠工(以下のいずれかの条件に該当する場合)

- (1) 土被り範囲9m以下で1層の現場打ちボックスカルバート(アーチ等形状は問わない)
- (2) 土被り範囲9m以下で1層2連の現場打ちボックスカルバート
- (3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が340m以下の場合

1-2 適用できない範囲

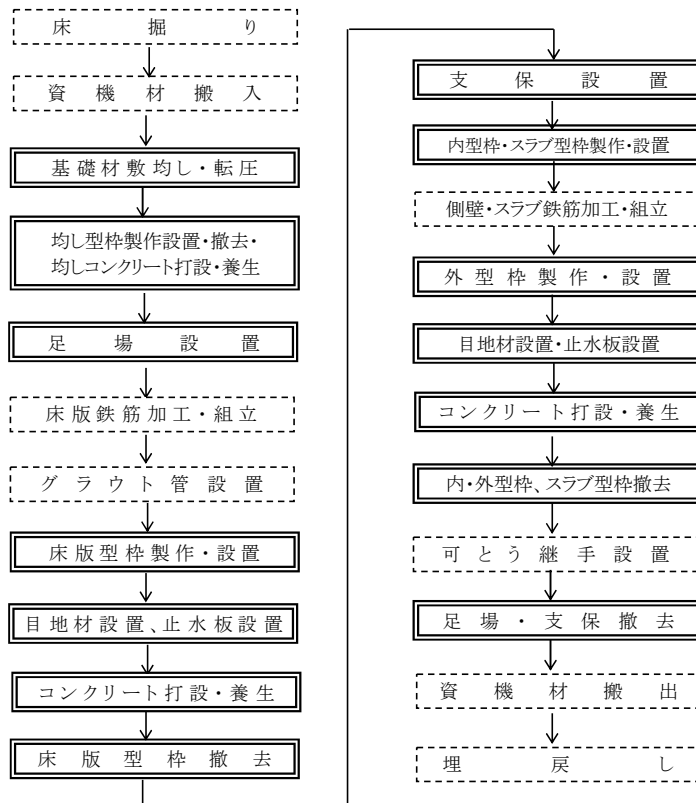
- (1) 河川工事で施工する樋門・樋管、水路等
- (2) アーチ型の場合で、支保にセントルを使用する場合

また、本項の適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工(2)を適用する。

2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 基礎材敷均し・転圧、均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生、目地材設置、止水板設置は、必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 函渠

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 函渠 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

コンクリート 規格	内空寸法 (幅×高さ)m	養生工 の種類	基礎砕石 の有無	均しコンクリート の有無	目地・止水板 の有無	圧送管延長距離区分
						延長無し 110m未満 110m以上220m未満 220m以上340m以下
(表3.2)	(表3.3)	一般養生・ 特殊養生 (練炭・ ジェット)	有り	有り	有り	延長無し
						110m未満
						110m以上220m未満
					220m以上340m以下	
					無し	延長無し
						110m未満
				110m以上220m未満		
				無し	220m以上340m以下	
					有り	延長無し
						110m未満
						110m以上220m未満
					無し	220m以上340m以下
			無し			延長無し
				110m未満		
				110m以上220m未満		
				有り	220m以上340m以下	
					無し	延長無し
						110m未満
			110m以上220m未満			
			220m以上340m以下			

(表3. 2)	(表3. 3)	特別な養生 (仮囲い内 ジェットヒータ)	有り	有り	有り	延長無し
						110m未満
						110m以上220m未満
					220m以上340m以下	
					無し	延長無し
						110m未満
				110m以上220m未満		
				無し	有り	220m以上340m以下
						延長無し
						110m未満
					無し	110m以上220m未満
						220m以上340m以下
			延長無し			
			無し	有り	110m未満	
					110m以上220m未満	
					220m以上340m以下	
					無し	延長無し
						110m未満
						110m以上220m未満
				無し	有り	220m以上340m以下
						延長無し
						110m未満
					無し	110m以上220m未満
						220m以上340m以下
延長無し						

- (注)1. 上表は、現場打函渠(ボックスカルバートの1層2連まで、土被りが9m以下)のコンクリート打設、基礎砕石、手摺先行型枠組足場、支保、型枠(はく離剤塗布及びびケレン作業含む)、養生(一般養生、特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、目地材、止水板等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠、冬期の施工での雪寒仮囲い等の特別な足場は含まない。
- 設計数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。
 - 基礎形式は、直接基礎・杭基礎のいずれも適用出来る。
 - コンクリートのロスを含む。
 - 「特別な養生(仮囲い内ジェットヒータ)」の場合には「手摺先行型枠組足場」費用は含んでいない。
 - 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
 - 化粧型枠を使用する場合は、加算費用を、「第2編第2章共通工④-1場所打擁壁工(1)3-7化粧型枠」により別途計上する。
 - 目地・止水板についてはI型を標準としており、I型以外の形状の目地・止水板を使用する場合は、別途計上する。
 - 可とう継手、取替式止水板及びグラウト管等を施工する場合は、別途計上する。
 - 防水工・防水層保護工を施工する場合は、「土木工事標準積算基準書第IV編第4章共同溝工①-2共同溝工(2)」により別途計上する。
 - 手摺先行型枠組足場には、二段手摺及び幅木の機能を有している。

12. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を110m未満、110m以上220m未満、220m以上340m以下から該当する区分を選択する。

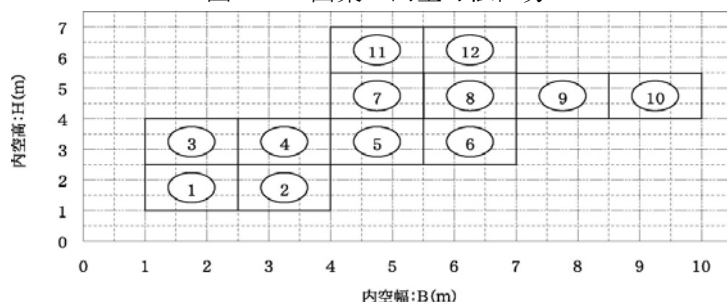
表3.2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	各種

表3.3 内空寸法

積算条件	区分
内空寸法 (幅×高さ)	① 幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:1.0以上2.5未満
	② 幅:2.5以上4.0以下かつ高さ:1.0以上2.5未満
	③ 幅:1.0以上2.5未満かつ高さ:2.5以上4.0以下
	④ 幅:2.5以上4.0未満かつ高さ:2.5以上4.0以下
	⑤ 幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:2.5以上4.0未満
	⑥ 幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:2.5以上4.0未満
	⑦ 幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:4.0以上5.5未満
	⑧ 幅:5.5以上7.0未満かつ高さ:4.0以上5.5未満
	⑨ 幅:7.0以上8.5未満かつ高さ:4.0以上5.5以下
	⑩ 幅:8.5以上10.0以下かつ高さ:4.0以上5.5以下
	⑪ 幅:4.0以上5.5未満かつ高さ:5.5以上7.0以下
	⑫ 幅:5.5以上7.0以下かつ高さ:5.5以上7.0以下

図3-1 函渠工内空寸法区分



1層2連の場合の考え方は、下表のとおりである。

表3.4 1層2連の場合

	適用する積算条件区分
同一断面の場合	1連分のB、Hで決定
異形断面の場合	大きい断面のB、Hで決定

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.5 函渠 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	
	K2	ジェットヒータ 126MJ (30,100kcal)	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料
	K3	発電発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータの場合
労務	R1	型枠工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	とび工	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%	
	Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータの場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工歩掛

4-1 鉄筋工

鉄筋工は、市場単価により別途計上する。

⑥-2 函渠工(2)

1. 適用範囲

本歩掛は函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工コンクリート打設に適用する。

表1.1 函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工

河川工事で施工する函渠	道路工事で施工する函渠
・樋門・樋管(函渠(門柱等含む)、翼壁、水叩)、 ボックス形式の水路等	・ボックスカルバート以外の函渠
	・1層又は1層2連以外の函渠
	・土被りが9mを超える函渠
	・「④-1函渠工(1)、図3.1函渠工内空寸法区分」 の適用範囲を外れる函渠

2. 施工歩掛

2-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

機 械 名	規 格	摘 要
コンクリートポンプ車	ブーム式90~110m ³ /h	

- (注)1. コンクリートポンプ車圧送コンクリートのスランプ値及び粗骨材の最大寸法は、「第2編第3章コンクリート工」による。
2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

2-2 函渠工コンクリート打設歩掛

函渠工コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。

表2.2 函渠工コンクリート打設歩掛 (10m³ 当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.1	
特 殊 作 業 員		〃	0.19	
普 通 作 業 員		〃	0.58	
コ ン ク リ ー ト		m ³	10.2	
コンクリートポンプ車運転	ブーム式90~110m ³ /h	日	0.1	
諸 雑 費 率		%	1	

- (注)1. 設計数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。
2. コンクリートのロス率は、+ 0.02 として上表に含まれている。
3. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。
4. 諸雑費は、バイブレータ損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械運転経費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
5. コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合で圧送管設置・撤去が必要な場合は、「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。
なお、コンクリート1日当り打設量は、102m³ を標準とする。
6. 養生については、「第2編第3章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

2-3 型枠工

型枠工は、「第2編第3章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。

2-4 鉄筋工

鉄筋工は、市場単価により別途計上する。

2-5 足場工

足場工は、「第2編第4章仮設工①足場工」により別途計上する。

2-6 支保工

支保工は、「第2編第4章仮設工②支保工」により別途計上する。

2-7 その他

上記以外で必要なものについては、該当する各工種により別途計上する。

⑦ 殻運搬(施工パッケージ)

1. 適用範囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1-1 適用できる範囲

- (1) 既設コンクリート構造物のとりこわしにより発生した殻(鉄筋・無筋)の運搬の場合
- (2) コンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の破砕作業により発生した殻の運搬の場合
- (3) バックホウを用いて行う平均施工幅1m未満の舗装版破砕(舗装厚5cm以内)により発生した殻の運搬の場合
- (4) モルタルの吹付法面のとりこわし作業により発生した殻の運搬の場合

1-2 適用できない範囲

- (1) 路面切削作業で発生したアスファルト殻の運搬
- (2) 電線共同溝におけるアスファルト舗装版の破砕作業により発生した殻の運搬
- (3) 自動車専用道路を利用する場合
- (4) 運搬距離が60kmを超える場合

2. 施工パッケージ

2-1 殻運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 殻運搬 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離
コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし	機械積込	無し	0.3km以下
			0.5km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.0km以下
			3.0km以下
			4.0km以下
			5.5km以下
			6.5km以下
			7.5km以下
			9.5km以下
			11.5km以下
			15.5km以下
			22.5km以下
49.5km以下			
60.0km以下			

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離
コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし	機械積込	有り	0.3km以下
			0.5km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.0km以下
			3.0km以下
			3.5km以下
			5.0km以下
			6.0km以下
			7.0km以下
			8.5km以下
			11.0km以下
			14.0km以下
			19.5km以下
			31.5km以下
	60.0km以下		
	人力積込	無し	0.3km以下
			0.5km以下
			1.5km以下
			2.0km以下
			2.5km以下
			3.0km以下
			4.0km以下
			5.0km以下
			6.5km以下
			8.5km以下
			11.0km以下
			16.0km以下
			27.5km以下
			60.0km以下
人力積込			有り
	0.5km以下		
	1.0km以下		
	1.5km以下		
	2.0km以下		
	2.5km以下		
	3.5km以下		
	4.5km以下		
	6.0km以下		
	8.0km以下		
	10.5km以下		
	14.5km以下		
	23.0km以下		
	60.0km以下		

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離
舗装版破碎	機械積込 (騒音対策不要、舗装版厚15cm超) または (騒音対策必要)	無し	0.5km以下
			1.0km以下
			2.0km以下
			2.5km以下
			3.5km以下
			4.5km以下
			6.0km以下
			7.5km以下
			10.0km以下
			13.5km以下
			19.5km以下
			39.0km以下
		60.0km以下	
		有り	0.5km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.0km以下
			3.0km以下
			4.0km以下
			5.5km以下
			7.0km以下
			9.0km以下
			12.0km以下
			17.5km以下
28.5km以下			
60.0km以下			

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離	
舗装版破碎	人力積込	無し	0.3km以下	
			0.5km以下	
			1.5km以下	
			2.0km以下	
			2.5km以下	
			3.0km以下	
			4.0km以下	
			5.0km以下	
			6.5km以下	
			8.5km以下	
			11.0km以下	
			16.0km以下	
			27.5km以下	
			60.0km以下	
			有り	0.3km以下
				0.5km以下
				1.0km以下
				1.5km以下
	2.0km以下			
	2.5km以下			
	3.5km以下			
	4.5km以下			
	6.0km以下			
	8.0km以下			
	10.5km以下			
	14.5km以下			
	23.0km以下			
	60.0km以下			
	機械積込 (騒音対策不要、舗装版厚15cm以下)	無し	0.3km以下	
			1.5km以下	
3.5km以下				
6.5km以下				
11.5km以下				
22.0km以下				
有り		0.3km以下		
		1.5km以下		
		3.5km以下		
		6.0km以下		
		10.5km以下		
		19.5km以下		
60.0km以下				

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離
舗装版破碎	機械積込 (小規模土工)	無し	0.3km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.5km以下
			3.0km以下
			3.5km以下
			4.5km以下
			5.5km以下
			7.0km以下
			9.0km以下
			12.0km以下
			17.0km以下
			28.5km以下
			60.0km以下
		有り	0.3km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.5km以下
			3.0km以下
			3.5km以下
			4.5km以下
			5.0km以下
			6.5km以下
			8.0km以下
11.0km以下			
15.0km以下			
24.0km以下			
60.0km以下			

殻発生作業	積込工法区分	DID区間の有無	運搬距離
吹付法面取壊し (モルタル)	機械積込	無し	0.5km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.5km以下
			3.5km以下
			5.5km以下
			7.5km以下
			9.5km以下
			12.0km以下
			16.5km以下
			25.5km以下
			60.0km以下
		有り	0.5km以下
			1.0km以下
			1.5km以下
			2.5km以下
			3.5km以下
			5.5km以下
			7.0km以下
			8.5km以下
			11.0km以下
			15.0km以下
			22.0km以下
			42.0km以下
60.0km以下			

- (注) 1. 上表は、既設構造物等のとりこわし、舗装版の破碎によって発生するコンクリート殻又はアスファルト殻の運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。なお、積込作業は含まない。
2. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理に掛かる費用を含む。
3. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」に関わらず適用できる。
4. 有料道路を利用する場合には、別途考慮する。
5. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
6. 運搬距離が60kmを超える場合は、別途考慮する。
7. 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.2 殻運搬 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1	ダンプトラック[普通・ディーゼル] 10t積級	下記以外の場合
		ダンプトラック[普通・ディーゼル] 2t積級	積込工法区分が人力積込及び機械積込(小規模土工)の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	一般運転手	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

第3章 コンクリート工

① コンクリート工

1. 適用範囲

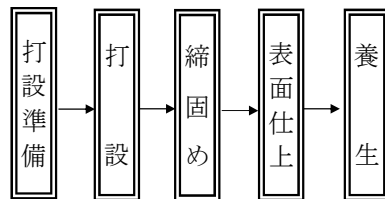
本資料は、一般的な構造物(無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物)の人力及び機械によるコンクリート打設、及び人力によるモルタル練に適用する。

1-1 適用できる範囲(以下のいずれかの条件に該当する場合)

- (1) 無筋構造物(表1.1を参照)
- (2) 鉄筋構造物(表1.1を参照)
- (3) 小型構造物(表1.1を参照)

1-2 適用できない範囲(以下のいずれかの条件に該当する場合)

- (1) ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、並びに、橋梁床版の養生工
- (2) 場所打擁壁工
- (3) 函渠工
- (4) 共同溝工 ただし、現場打ちの電線共同溝(C・C・BOX)を除く。
- (5) 橋台・橋脚工



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分である。

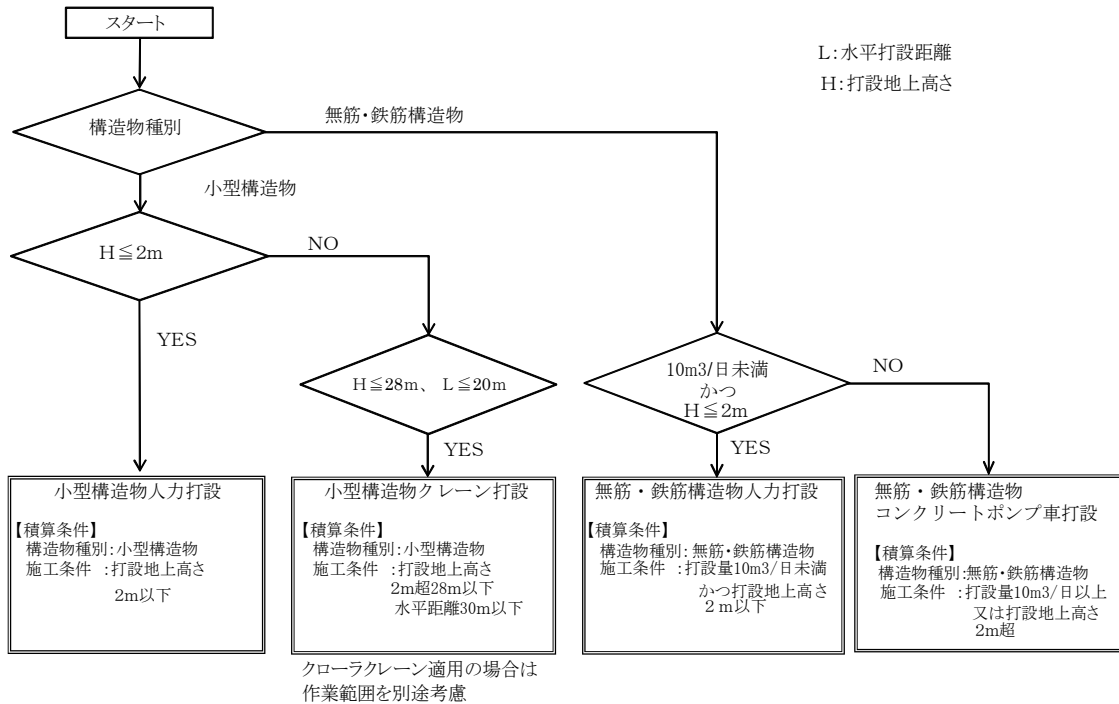
表1.1 コンクリート構造物の分類

構造物種別	コンクリート構造物の分類
無筋構造物	マシブな構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物、均しコンクリート等
鉄筋構造物	水路、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、橋梁床版、壁高欄等の鉄筋量の多い構造物
小型構造物	コンクリート断面積が1m ² 以下の連続している側溝、笠コンクリート等、コンクリート量が1m ³ 以下の点在する集水桝、照明基礎、標識基礎等

2. コンクリート打設工法の選定

コンクリート打設工法の選定は、図2. 1 を標準とするが、現場状況等を考慮し、これにより難しい場合は、別途考慮する。

図2. 1 コンクリート打設工法の選定



3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位:m3)

構造物種別	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離		
無筋・鉄筋構造物	打設量10m3/日以上又は打設地上高さ2m超	(表3.3)	10m3以上300m3未満	養生無し	延長無し	—	—		
					60m以下	—	—		
					60m超120m以下	—	—		
					120m超180m以下	—	—		
				一般養生	180m超240m以下	—	—		
					延長無し	—	—		
					60m以下	—	—		
					60m超120m以下	—	—		
				特殊養生(練炭、ジェットヒータ)	120m超180m以下	—	—		
					180m超240m以下	—	—		
					延長無し	—	—		
					60m以下	—	—		
	300m3以上600m3未満		養生無し	延長無し	—	—			
				240m以下	—	—			
			一般養生	延長無し	—	—			
				240m以下	—	—			
	特殊養生(練炭、ジェットヒータ)		延長無し	—	—				
			240m以下	—	—				
打設量10m3/日未満かつ打設地上高さ2m以下	—	—	養生無し	—	有り	—			
				無し	—	—			
			一般養生	—	有り	—			
				無し	—	—			
			特殊養生(練炭、ジェットヒータ)	—	有り	—			
				無し	—	—			
小型構造物	打設地上高さ2m超28m以下 水平距離30m以下	—	養生無し	—	—	—	(表3.4)		
				一般養生					
				特殊養生(練炭)					
				特殊養生(ジェットヒータ)					
	打設地上高さ2m以下		—	養生無し	—	—		—	—
					一般養生				
					特殊養生(練炭)				
					特殊養生(ジェットヒータ)				

- (注) 1. 上表は、一般的な構造物(無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物)のコンクリート打設、締固め、表面仕上、養生の他、シュート、ホッパ、バイブレータ、コンクリートバケット損料、電力に関する経費、ホースの筒先作業等を行う機械付補助作業等、その施工に要する全ての費用を含む。
2. コンクリートのロスを含む。
3. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設のコンクリートポンプ車圧送のコンクリートのスランプ値及び粗骨材の最大寸法は、次表のとおりとする。

表3.2 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車圧送のコンクリートの標準範囲

スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)
8 ~ 12	40 以下

4. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設において、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超える場合は、超えた部分について圧送管延長距離を積算条件区分から選択する。この場合、圧送管の日々組立・撤去費用を含む。なお、圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。
5. 小型構造物クレーン車打設において、クローラクレーンを使用する場合は、現場条件から打設高さを検討し、適当なブーム長さを設定する。
6. 小型構造物クレーン車打設のバケット容量は、 $V=0.6m^3$ を標準とする。
7. 特殊養生は、河川・海岸・道路工事における寒中コンクリートの養生に適用する。
 なお、養生方法は給熱養生を標準とし、鉄筋構造物はジェットヒータ養生、鉄筋構造物以外は練炭養生を原則とする。また、異形ブロック製作における養生は適用しない。養生のための足場は別途計上とする。

表3.3 コンクリート規格

積算条件	区分	
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)	19.5-8-40(高炉)
	24-8-25(20)(普通)	18-5-40(高炉)
	27-8-25(20)(普通)	21-5-40(高炉)
	30-8-25(20)(普通)	18-8-40(高炉)
	40-8-25(20)(普通)	21-8-40(高炉)
	18-8-40(普通)	24-8-40(高炉)
	19.5-8-40(普通)	21-12-40(高炉)
	21-8-40(普通)	40-8-25(早強)
	21-12-40(普通)	21-8-25(早強)
	22.5-8-40(普通)	24-8-25(早強)
	24-8-40(普通)	18-8-25(高炉)
	4.5-2.5-40(普通)	21-5-80(高炉)
	21-8-25(20)(高炉)	18-3-40(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)	21-3-40(高炉)
	19.5-5-40(高炉)	Y-020000(各種)

表3.4 打設高さ、水平距離

積算条件	区分
打設高さ、水平距離	打設高さ約17m以下、水平距離約17m以下
	打設高さ約25m以下、水平距離約18m以下
	打設高さ約25m以下、水平距離約20m以下
	打設高さ約28m以下、水平距離約20m以下
	水平距離約30m以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 コンクリート 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	コンクリートポンプ車[ブーム式] 圧送能力90~110m ³ /h	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
	K2	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]16t吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約17m以下、水平距離約17m以下の場合
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]20t吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平距離約18m以下の場合
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]25t吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平距離約20m以下の場合
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]35t吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約28m以下、水平距離約20m以下の場合
		クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]50t吊	・賃料 ・小型構造物で、水平距離約30m以下の場合
	K3	ジェットヒータ 126MJ (30,100kcal)	ジェットヒータ養生の場合
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊運転手	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
材料	Z1	生コンクリート 高炉24-8-25(20)W/C55%	
	Z2	軽油1.2号 パトロール給油	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、または小型構造物で、水平距離約30m以下の場合
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	ジェットヒータ養生の場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工歩掛

4-1 圧送管組立、撤去

4-1-1 適用範囲

本歩掛は、表4. 1に示す施工パッケージ以外で、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超える場合の、超えた部分の圧送管延長分の組立・撤去到適用する。

表4. 1 本歩掛が適用できない施工パッケージ

・函渠(1)	・重力式擁壁	・もたれ式擁壁
・逆T型擁壁	・L型擁壁	・コンクリート

4-1-2 圧送管組立、撤去歩掛

コンクリートポンプ車から作業範囲30m を超える場合は、超えた部分の圧送管延長分について、次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。

なお、これにより難しい場合は別途考慮する。

表4. 2 圧送管組立、撤去歩掛 (10m当り)

名 称	単 位	組 立 労 務	撤 去 労 務
普通作業員	人	0.26	0.2

(注) 圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は、別途計上する。

4-2 養生工

4-2-1 適用範囲

本歩掛は、表4. 3に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。

表4. 3 本歩掛が適用できない施工パッケージ

・ヒューム管(B形管)	・函渠(1)	・現場打基礎コンクリート
・天端コンクリート	・小型擁壁(B)	・重力式擁壁
・もたれ式擁壁	・逆T型擁壁	・L型擁壁

4-2-2 一般養生工

一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。

表4. 4 養生歩掛 (10 m³ 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普通作業員	人	0.3	0.16	0.69
諸 雑 費 率	%	17	33	19

(注) 諸雑費は、シート、養生マット、角材、パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-3 養生工(特殊養生)

4-3-1 適用範囲

本歩掛は、表4.5に示す施工パッケージ以外の河川、海岸、道路工事における寒中コンクリートの養生に適用する。なお、養生方法は給熱養生を標準とし、鉄筋構造物はジェットヒータ養生、鉄筋構造物以外は練炭養生を原則とする。
また、異形ブロック製作における養生は、適用しない。

表4.5 本歩掛が適用できない施工パッケージ

・ヒューム管(B形管)	・函渠(1)	・現場打基礎コンクリート
・天端コンクリート	・小型擁壁(B)	・重力式擁壁
・もたれ式擁壁	・逆T型擁壁	・L型擁壁

4-3-2 特殊養生工

4-3-2-1 特殊養生工(練炭養生)

空港整備工事等における寒中コンクリートの養生に適用するものとし、養生方法は給熱養生を標準とする。
練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表4.6 特殊養生歩掛(練炭養生) (10 m3 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普通作業員	人	0.88	0.54	1.56
諸 雑 費 率	%	25	25	32

- (注) 1. 諸雑費は、練炭、コンロ、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 養生のための足場は、別途計上する。

4-3-2-2 特殊養生工(ジェットヒータ養生)

(1) 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.7 機種を選定

機 械 名	規 格
ジェットヒータ	126MJ (30,100kcal)

(2) 施工歩掛

ジェットヒータによる特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表4.8 特殊養生歩掛(ジェットヒータ養生) (10m3 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普通作業員	人	0.74	0.43	2.4
ジェットヒータ運転	h	30	28	157
諸 雑 費 率	%	13	28	33

- (注) 1. ジェットヒータは賃料とする。
2. 諸雑費は、電力に関する経費、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 養生のための足場は、別途計上する。

(3) 運転時間

ジェットヒータによる特殊養生に要する施工機械運転日当り運転時間は、次表を標準とする。

表4.9 施工機械運転日当り運転時間 (h/日)

名 称	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
ジェットヒータ運転	18.5	15.2	20.1

(注) ジェットヒータの運転時間当り燃料消費量は、灯油3.6 ℓ/hとする。

5. 単価表

(1) 圧送管組立、撤去費10m3 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.46×L/B	表4.2
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。
2. Bは、コンクリートの標準日打設とする。
3. 設計日打設量が10m3以上300m3未満の場合は、標準日打設量を81m3とする。
4. 設計日打設量が300m3以上600m3未満の場合は、標準日打設量を400m3とする。

(2) 養生工(一般養生)10m3 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.4
諸 雑 費		式	1	"
計				

(3) 養生工(特殊養生・練炭)10m3 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.6
諸 雑 費		式	1	"
計				

(4) 養生工(特殊養生・ジェットヒータ)10m3 当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.8
ジ ャ ッ ト ヒ ー タ 運 転	126MJ (30,100 kcal)	h		"
諸 雑 費		式	1	"
計				

(5) ジェットヒータ運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費	灯油	ℓ		表4.9
ジ ャ ッ ト ヒ ー タ 賃 料	126MJ(30,100kcal)	h	1	時間当り賃料 →賃料×1/(表4.9)
諸 雑 費		式	1	

② 型 枠 工

1. 適用範囲

本資料は、一般土木工事の構造物及び「土木構造物設計マニュアル(案)－土木構造物・橋梁編－」(平成11年10月28日建設省)に基づき設計された場所打ち鉄筋構造物(ボックスカルバート、L型、逆T式擁壁、張出し式・壁式橋脚)の施工にかかる型枠、橋梁の床版部・支承部・連結部等に使用する発泡スチロールによる撤去しない埋設型枠に適用する。

1-1 適用できる範囲

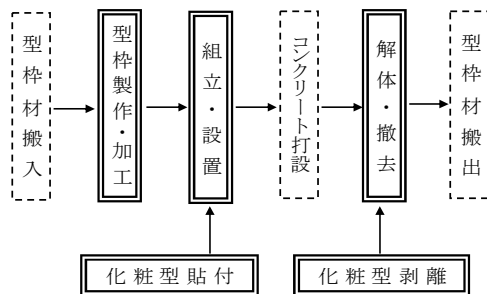
(1) 平均設置高30m以下の場合

1-2 適用できない範囲

- (1) 鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル等で、標準歩掛において別途、型枠の基準が設定されている工種の場合
- (2) 「土木構造物設計マニュアル(案)－樋門編－」(平成13年12月21日国土交通省)に基づき設計された函渠、胸壁、しゃ水壁、門柱、ゲート操作台、翼壁の型枠工
- (3) 第2編第2章共通工④-1場所打擁壁工(1)、⑥-1函渠工(1)
- (4) 土木工事標準積算基準書第IV編第4章共同溝工(1)(2)、第7章橋梁工⑩-1橋台・橋脚工(1)
- (5) 一般型枠(鉄筋・無筋構造物、小型構造物)の半径5m以下の円形部分
- (6) 化粧型と型枠が一体となった製品等を使用し、貼付・はく離作業が不要な場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(化粧型枠とする場合)

- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 構造物の分類は、「第3章①コンクリート工」による。
3. 水抜きパイプの有無にかかわらず適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 型枠

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする

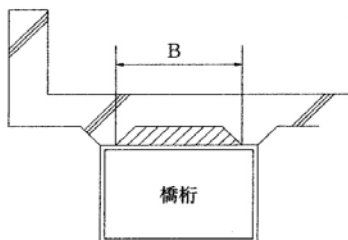
表3.1 型枠 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

型枠の種類	構造物の種類
一般型枠	鉄筋・無筋構造物
	小型構造物
	鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)
	均しコンクリート
化粧型枠	鉄筋・無筋構造物
	小型構造物
	鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)
撤去しない埋設型枠	床版部
	支承部・連結部

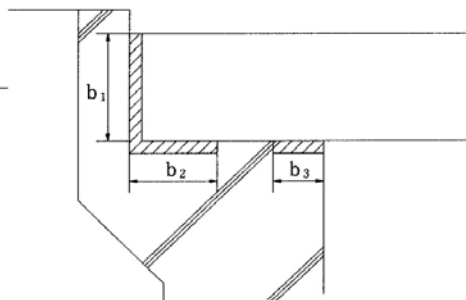
- (注) 1. 上表は型枠の組立・設置・撤去、水抜きパイプの設置、はく離剤塗布及びケレン作業の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤及び電気ドリル、電気ノギリ損料、電力に関する経費、仮設材の持上(下)げ機械に要する費用等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、化粧型枠(材料費)及び撤去しない埋設型枠(材料費)は含まない。
2. 撤去しない埋設型枠の床版部には、接着・小運搬を含む。また、支承部・連結部には発泡スチロールの加工・接着・現場内小運搬を含む。
3. 水抜きパイプの有無にかかわらず適用できる。ただし、水抜きパイプ材料は、必要量を別途計上する。
4. コンクリート、足場、支保は含まない。
5. 化粧型枠の材料費(使い捨て型)は、別途計上する。
6. 化粧型枠の処分費が必要な場合は、別途計上する。
7. 撤去しない埋設型枠の材料費(発泡スチロール)は、別途計上とする。
なお、床版部はハンチ等の加工費も含めて別途計上する。
8. 撤去しない埋設型枠の設置面積は下記とする。
設置面積=B×L B:設置幅
L:設置延長

(1)床版部



(2)支承部・連結部

$$B = b_1 + b_2 + b_3$$



9. 撤去しない埋設型枠の材料(発泡スチロール)の使用量

支承部・連結部の発泡スチロールの使用量は、次式による。

$$\text{使用量(m}^2\text{)} = \text{設置面積(m}^2\text{)} \times (1 + K) \dots\dots\dots \text{(式2. 1)}$$

K:ロス率

表3. 2 ロス率(K)

ロス率	+0.04
-----	-------

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 3 型枠 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考	
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型枠工 特殊作業員	一般型枠・化粧型枠の場合 撤去しない埋設型枠の場合
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 化粧型枠(材料費)

(1)条件区分

化粧型枠(材料費)の条件区分はない。

積算単位はm²とする。

3-3 撤去しない埋設型枠(材料費)

(1)条件区分

撤去しない埋設型枠(材料費)の条件区分はない。

積算単位はm²とする。

第4章 用地造成

① 舗装取壊し工

①-1 舗装版破碎工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート舗装版、アスファルト舗装版及びこれらの重複舗装版の破碎作業及び掘削・積込みの作業に適用する。

なお、路盤・路床の掘削は、「第2編第1章土工②土工」によるものとする。

1-1 適用できる範囲

(1) 機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の破碎作業及び掘削・積込みの場合

(2) 人力によるアスファルト舗装版の破碎作業及び掘削・積込みの場合

1-2 適用できない範囲

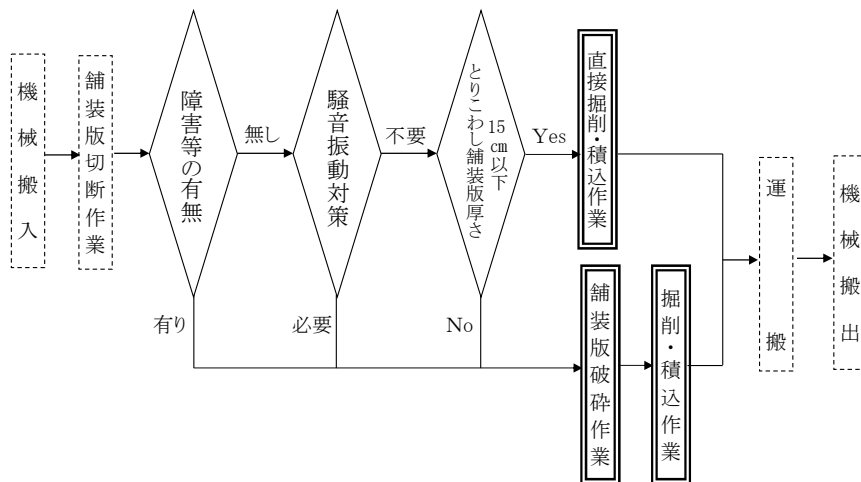
(1) 急速施工、橋梁舗装版撤去の場合

(2) 人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の破碎作業及び掘削・積込みの場合

(3) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版において、全体厚が45cmを超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が50%を超える場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 運搬は「第2編第2章共通工⑦殻運搬」による。

3. 舗装版切断は「第3編第1章用地造成⑤-2 舗装版切断工」による。

4. 障害等の有無の「有り」とは、現場状況、作業量、障害物等により表3. 2で想定する機械での施工が困難な場合をいう。

5. 舗装版破碎: 舗装版のみを破碎する作業。

掘削・積込: 舗装版を破碎後、掘削し、積込む作業。

直接掘削・積込: 直接舗装版を掘削し、積込む作業。

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版破碎

(1) 条件区分

舗装版破碎における条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 舗装版破碎 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

舗装版種別	障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	Co+As(カバー)舗装による アスファルト舗装版厚	積込作業の有無
アスファルト 舗装版	無し	不要	10cm以下	-	有り
			10cmを超え15cm以下	-	有り
			15cmを超え40cm以下	-	有り
		必要	15cm以下	-	有り
			15cmを超え35cm以下	-	有り
	有り	-	4cm以下	-	有り
			4cmを超え10cm以下	-	無し
			10cmを超え15cm以下	-	有り
			15cmを超え30cm以下	-	無し
			15cmを超え30cm以下	-	有り
コンクリート 舗装版	無し	不要	10cm以下	-	有り
			10cmを超え15cm以下	-	有り
			15cmを超え35cm以下	-	有り
		必要	15cm以下	-	有り
			15cmを超え35cm以下	-	有り
コンクリート +アスファルト (カバー)舗装版	無し	不要	15cm以上35cm以下	15cm以下	有り
			15cmを超え22.5cm以下	有り	

- (注)1. 障害等の有無の「有り」とは、現場状況、作業量、障害物等により表3.2で想定する機械での施工が困難な場合をいう。
2. 破碎対象となるアスファルト舗装版の幅が1m未満の場合、障害等「有り」とする。
3. 上表は、舗装版とりこわし・掘削・積込みの他、大型ブレーカのチゼル損耗費(大型ブレーカによる破碎の場合)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
4. 舗装版切断は含まない。
5. 殻運搬、殻処分は含まない。
6. 「コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版」の舗装版厚はコンクリート舗装部分の厚さをいう。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 舗装版破碎 代表機労材規格一覧

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目	代表機労材規格	備考			
無し	不要	15cm以下	機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.45m3(平積0.35m3)	賃料		
				K2	-			
				K3	-			
			労務	R1	普通作業員			
				R2	土木一般世話役			
				R3	特殊運転手			
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油				
			Z2	-				
			Z3	-				
		市場単価	S	-				
		15cm超	機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.45m3(平積0.35m3)	賃料		
				K2	大型ブレーカ油圧式 600~800kg級			
	K3			-				
	労務		R1	普通作業員				
			R2	土木一般世話役				
			R3	特殊運転手				
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油					
		Z2	-					
		Z3	-					
	市場単価	S	-					
	有り	必要	-	機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型(第2次)] 山積0.45m3(平積0.35m3)	賃料	
K2					コンクリート圧砕機[建物用] 735~850mm			
K3					-			
労務				R1	普通作業員			
				R2	土木一般世話役			
				R3	特殊運転手			
材料			Z1	軽油 1.2号 バトロール給油				
			Z2	-				
			Z3	-				
市場単価			S	-				
有り			-	-	機械	K1	空気圧縮機[可搬式・エンジン掛] 3.5~3.7m3/min	賃料
						K2	さく岩機(コンクリートブレーカ) 20kg級	
	K3	-						
	労務	R1		特殊作業員				
		R2		普通作業員				
		R3		-				
	材料	Z1		軽油 1.2号 バトロール給油				
		Z2		-				
		Z3		-				
市場単価	S	-						

①-2 舗装版切断工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート舗装版、アスファルト舗装版及びこれらの重複舗装版における舗装版切断に適用する。

1-1 適用できる範囲

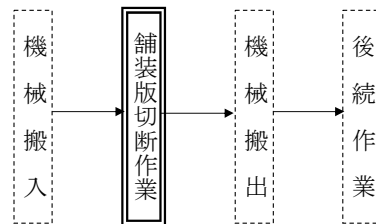
- (1) アスファルト舗装版厚が40cm以下の場合
- (2) コンクリート舗装版厚が30cm以下の場合
- (3) 重複舗装版(コンクリート+アスファルト(カバー))厚が40cm以下の場合

1-2 適用できない範囲

- (1) コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の場合、舗装版厚のうちアスファルト舗装版が占める割合が50%を超える場合

2. 施工範囲

施工フローは下記のとおりとする。



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 舗装版切断 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

舗装版種別	アスファルト舗装版厚	コンクリート舗装版厚	コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版の全体厚
アスファルト舗装版	15cm以下	—	—
	15cmを超え30cm以下	—	—
	30cmを超え40cm以下	—	—
コンクリート舗装版	—	15cm以下	—
	—	15cmを超え30cm以下	—
コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版	—	15cm以下	15cm以下
			15cmを超え30cm以下
		15cmを超え30cm以下	15cmを超え30cm以下
			30cmを超え40cm以下

(注)1. 上表は、舗装版種別でコンクリート+アスファルト(カバー)舗装版を選択した場合、コンクリート舗装版厚の選択肢は、コンクリート+アスファルト(カバー)舗装版のうちのコンクリート舗装版のみの厚さとする。

2. 舗装版切断、水タンク等の運搬、濁水の収集、マーキング、切断補助、路面清掃、ブレード損耗費、水タンク、汚水タンク、ホース、ほうき等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

3. 舗装版切断時に発生する濁水の運搬・処理が必要な場合の処理等は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 舗装版切断 代表機労材規格一覧

舗装版種別	項目	代表機労材規格	備考	
アスファルト 舗装版 コンクリート 舗装版	機械	コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 切削深20cm級	舗装版厚が15cm以下の場合	
		コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 超低騒音型 切削深30cm級	舗装版厚が15cmを超え30cm以下 の場合	
		コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 超低騒音型 切削深40cm級	舗装版厚が30cmを超え40cm以下 の場合	
	労務	K2	-	
		K3	-	
		R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
	材料	R3	-	
		R4	-	
		Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径22インチ	舗装版厚が15cm以下の場合
			コンクリートカッタ (ブレード) 径30インチ	舗装版厚が15cmを超え30cm以下 の場合
			コンクリートカッタ (ブレード) 径38インチ	舗装版厚が30cmを超え40cm以下 の場合
		Z2	ガソリンレギュラー スタンド	
		Z3	-	
Z4	-			
市場単価	S	-		
コンクリート + アスファルト (カバー) 舗装版	機械	コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 切削深20cm級	全体厚が15cm以下の場合	
		コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 超低騒音型 切削深30cm級	全体厚が15cmを超え30cm以下 の場合	
		コンクリートカッタ[バキューム式・湿式] 超低騒音型 切削深40cm級	全体厚が30cmを超え40cm以下 の場合	
	労務	K2	-	
		K3	-	
		R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
	材料	R3	-	
		R4	-	
		Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径22インチ	全体厚が15cm以下の場合
			コンクリートカッタ (ブレード) 径30インチ	全体厚が15cmを超え30cm以下 の場合
			コンクリートカッタ (ブレード) 径38インチ	全体厚が30cmを超え40cm以下 の場合
		Z2	ガソリンレギュラー スタンド	
		Z3	-	
Z4	-			
市場単価	S	-		

第5章 基本施設舗装

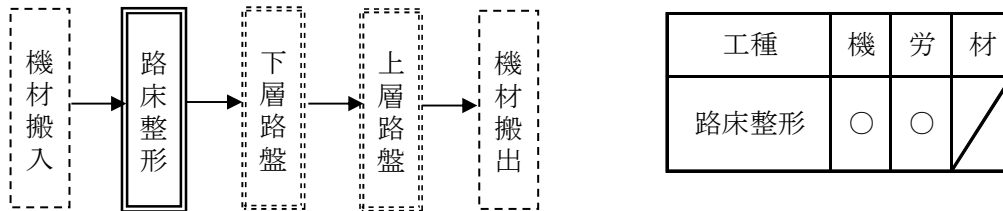
① 路床整形工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる基本施設舗装工事の空港舗装工における路床整形に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

3. 施工パッケージ

3-1 施工パッケージ及び単価表

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 路床整形 積算条件区分一覧
 (積算単位:m²)

施工幅区分	現場条件
4m以上	標準工事
	拡幅工事
	夜間工事
	夜間拡幅工事
2.5m以上4m未満	標準工事
	拡幅工事
	夜間工事
	夜間拡幅工事
1m以上2.5m未満	標準工事
	拡幅工事
	夜間工事
	夜間拡幅工事
1m未満	標準工事
	拡幅工事
	夜間工事
	夜間拡幅工事

(注) 上表は、土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な労務、機械、燃料を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 路床整形 代表機労材規格

施工幅区分	項目	代表機労材規格	備考
4m以上	機械	K1	モータグレーダ ブレード幅3.7m
		K2	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊運転手
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
2.5m以上4m未満	機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス 対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
		K2	ブルドーザ 普通・排出ガス対策型 (第1次基準値) 3t級
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	特殊運転手
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
1m以上2.5m未満	機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス 対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
		K2	-
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
1m未満	機械	K1	振動ローラ [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t
		K2	-
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	

(3) 単価表

1) 路床整形 1m以上

1,000m²当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
路床整形		m ²	1,000	施工パッケージ単価

2) 路床整形 1m未満

100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
路床整形		m ²	100	施工パッケージ単価

② 下層路盤工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる基本施設舗装工事の空港舗装工における下層路盤工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 下層路盤(空港)

(1) 一層当りの仕上り厚さが10cm以上20cm以下の下層路盤

1-1-2 散水車(空港)

(1) 水取場までの距離が10km以下の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 下層路盤(空港)

(1) 砂路盤の場合

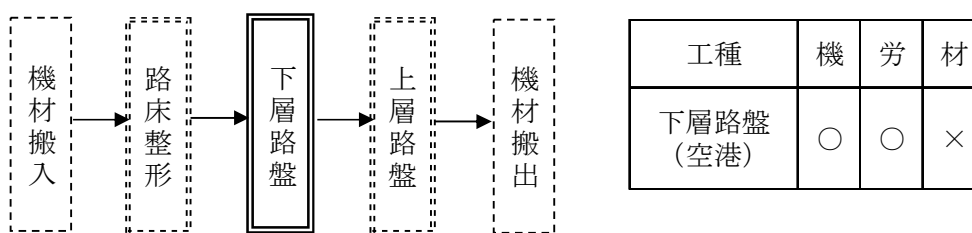
(2) 凍上抑制層に用いる場合

(3) 遮断層に用いる場合

2. 施工概要

2-1 下層路盤(空港)

施工フローは、下記を標準とする。

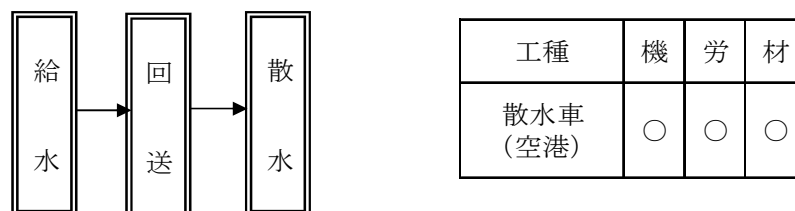


(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

2-2 散水車(空港)

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 施工パッケージ及び単価表

3-1-1 下層路盤(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 下層路盤(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

施工幅区分	施工内容	現場条件	路盤材厚区分
4m以上	不陸整正及び新設工事	標準工事	(表3.1.1)
		夜間工事	
	改良及び拡幅工事	標準工事	
		拡幅工事	
		夜間工事	
		夜間拡幅工事	
2.5m以上4m未満	不陸整正及び新設工事	標準工事	
		夜間工事	
	改良及び拡幅工事	標準工事	
		拡幅工事	
		夜間工事	
		夜間拡幅工事	
1m以上2.5m未満	-	標準工事	
		拡幅工事	
		夜間工事	
		夜間拡幅工事	
1m未満	-	標準工事	
		拡幅工事	
		夜間工事	
		夜間拡幅工事	

- (注) 1. 上表は、路盤材敷均し・締固めの他、補助機械等、その施工に必要な機械、労務、燃料を含む。
 2. 路盤材の材料費は別途計上する。
 3. 路盤材(碎石類)の使用数量は、設計数量にロス率1.37を乗じる。碎石類以外の材料を用いる場合は、別途考慮する。

表3.1.1 路盤材厚区分(1)

積算条件	区分
路盤材厚区分	20cm以下
	20cm超40cm以下
	40cm超60cm以下
	60cm超80cm以下
	80cm超100cm以下
	100cm超120cm以下

(注) 一層の最大仕上層は10cm以上20cm以下とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 下層路盤(空港) 代表機労材規格

施工幅区分	項目	代表機労材規格	備考
4m以上	機械	K1	タイヤローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8~20t
		K2	モータグレーダ ブレード幅3.7m
		K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10~12t
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊運転手
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
2.5m以上4m未満	機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス 対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
		K2	ブルドーザ 普通・排出ガス対策型 (第1次基準値) 3t級
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	特殊運転手
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
1m以上2.5m未満	機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス 対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
		K2	-
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	
1m未満	機械	K1	振動ローラ [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t
		K2	-
		K3	-
	労務	R1	普通作業員
		R2	特殊作業員
		R3	-
		R4	-
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油
		Z2	-
		Z3	-
Z4		-	
市場単価	S	-	

(3) 単価表

1) 下層路盤(空港) 4m以上

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
路盤材		m ³		1,000m ² ×仕上厚×ロス率
下層路盤(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

(注) 路盤材のロス率は1.37とする。

2) 下層路盤(空港) 4m未満

100m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
路盤材		m ³		100m ² ×仕上厚×ロス率
下層路盤(空港)		m ²	100	施工パッケージ単価

(注) 路盤材のロス率は1.37とする。

3-1-2 散水車(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 散水車(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

路盤材種類	片道距離区分
碎石類	5km未満
	5km以上10km未満
ソイルセメント	5km未満
	5km以上10km未満

- (注) 1. 上表は、給水、回送、散水等、その施工に必要な機械、労務、燃料を含む。
 2. 水の材料費は必要に応じて別途計上する。
 3. 散水車は通常5,500～6,500ℓとし、1層当りの散水量は以下のとおりとする。

路 盤	散水量
碎石類	5ℓ/m2
ソイルセメント	7ℓ/m2

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 散水車(空港) 代表機労材規格

項目	代表機労材規格	
機械	K1	散水車 5,500～6,000ℓ
	K2	-
	K3	-
労務	R1	一般運転手
	R2	-
	R3	-
	R4	-
材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油
	Z2	-
	Z3	-
	Z4	-
市場単価	S	-

(3) 単価表

1) 散水車(空港)

1,000m2当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
水		ℓ		水の費用は必要に応じて計上
散水車(空港)		m2	1,000	施工パッケージ単価

③ 上層路盤工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる基本施設舗装工事の空港舗装工における上層路盤工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 上層路盤(空港)

(1)一層当りの仕上り厚さが砕石類の場合は15cm以下、セメント安定処理(ソイルセメント)の場合は10cm以上20cm以下、アスファルト安定処理の場合は10cm以下の上層路盤

(2)アスファルト安定処理の場合は、施工幅が8.5m以下の上層路盤

1-1-2 散水車(空港)

「第2章 基本施設舗装②下層路盤工」を準用。

1-2 適用できない範囲

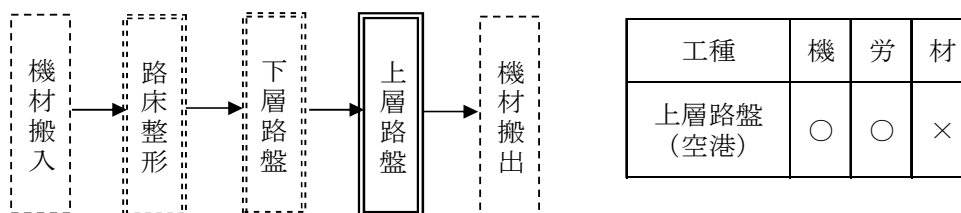
1-2-1 上層路盤(空港)

(1)砂路盤の場合

2. 施工概要

2-1 上層路盤(空港)

施工フローは、下記を標準とする。



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

2-2 散水車(空港)

「第2章 基本施設舗装②下層路盤工」を準用。

3. 施工パッケージ

3-1 施工パッケージ及び単価表

3-1-1 上層路盤(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 上層路盤(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

路盤材種別	施工幅区分	施工内容	現場条件	路盤材厚区分
碎石類	4m以上	不陸整正及び新設舗装	標準工事	(表3.1.1)
			夜間工事	
		改良及び拡幅工事	標準工事	
			拡幅工事	
			夜間工事	
			夜間拡幅工事	
	2.5m以上4m未満	不陸整正及び新設舗装	標準工事	
			夜間工事	
		改良及び拡幅工事	標準工事	
			夜間拡幅工事	
	1m以上2.5m未満	—	標準工事	
			拡幅工事	
			夜間工事	
			夜間拡幅工事	
	1m未満	—	標準工事	
			拡幅工事	
夜間工事				
夜間拡幅工事				
ソイルセメント	4m以上	不陸整正及び新設舗装	標準工事	(表3.1.2)
			夜間工事	
		改良及び拡幅工事	標準工事	
			拡幅工事	
			夜間工事	
			夜間拡幅工事	
	2.5m以上4m未満	不陸整正及び新設舗装	標準工事	
			夜間工事	
		改良及び拡幅工事	標準工事	
			夜間拡幅工事	
	1m以上2.5m未満	—	標準工事	
			拡幅工事	
			夜間工事	
			夜間拡幅工事	
	1m未満	—	標準工事	
			拡幅工事	
夜間工事				
夜間拡幅工事				

路盤材種別	施工幅区分	施工内容	現場条件	路盤材厚区分
アスファルト安定処理	1.4m以上2m以下	-	-	-
	2m超2.5m以下			
	2.5m超3m以下			
	3m超4m以下			
	4m超5m以下			
	5m超6m以下			
	6m超7m以下			
	7m超8m以下			
8m超8.5m以下				

- (注) 1. 上表は、路盤材敷均し・締固め、ソイルセメント(セメント安定処理)又はアスファルト安定処理等、その施工に必要な労務、機械、燃料の他、型枠及び舗装用器具等の費用を含む。
2. 路盤材の材料費は別途計上する。
3. 路盤材(砕石類・ソイルセメント)の使用数量は、設計数量にロス率1.37を乗じる。路盤材(アスファルト安定処理)の使用数量は、設計数量にロス率1.04を乗じる。これら以外の路盤材を用いる場合は、別途考慮する。
4. アスファルト安定処理の一層当りの最大仕上げ厚は10cm以下とする。
5. アスファルト安定処理の仕上り標準密度(t/m³)は以下の通りであり、これにより難い場合は、別途考慮する。

材 料	仕上り標準密度(t/m ³)
アスファルト安定処理	2.35

表3. 1. 1 路盤材厚区分(1)

積算条件	区分
路盤材厚区分	15cm以下
	15cm超30cm以下
	30cm超45cm以下
	45cm超60cm以下
	60cm超75cm以下
	75cm超90cm以下
	90cm超105cm以下
	105cm超120cm以下

(注) 砕石類の一層の最大仕上厚は15cm以下とする。

表3. 1. 2 路盤材厚区分(2)

積算条件	区分
路盤材厚区分	20cm以下
	20cm超40cm以下
	40cm超60cm以下
	60cm超80cm以下
	80cm超100cm以下
	100cm超120cm以下

(注) ソイルセメント(セメント安定処理)の一層の最大仕上厚は10cm以上20cm以下とする。

表3. 1. 3 現場条件

積算条件	区分	摘要
現場条件	良好	新設空港等の昼間作業等で、作業スペースが広く自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	普通	供用空港内等の昼間作業で航空機や自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	不良	供用空港の場合の夜間作業。自動車等の交通による作業の影響が大きい場合。修繕工事等で比較的小規模な箇所の場合

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 上層路盤(空港) 代表機労材規格

路盤材種別	施工幅区分	項目	代表機労材規格	備考	
砕石類・ソイルセメント	4m以上	機械	K1	タイヤローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8~20t	
			K2	モータグレーダ ブレード幅3.7m	
			K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型(第1次基準値)質量10~12t 締固め幅2.1m	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	-	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
		2.5m以上4m未満	機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
	K2			ブルドーザ 普通・排出ガス対策型(第1次基準値) 3t級	
	K3			-	
	労務		R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	特殊運転手	
			R4	-	
	材料		Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
	市場単価		S	-	
	1m以上2.5m未満		機械	K1	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・排出ガス対策型(第1次基準値) 質量2.4~2.8t
		K2		-	
		K3		-	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	特殊運転手	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
1m未満		機械	K1	振動ローラ [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t	
	K2		-		
	K3		-		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	-		
		R4	-		
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
		Z4	-		
	市場単価	S	-		

路盤材種別	施工幅区分	項目	代表機労材規格	備考	
ア ス フ ア ル ト 安 定 処 理	1.4m以上3m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅1.4～3.0m	
			K2	振動ローラ 搭乗式・コンバインド型・排出ガス 対策型(第1次基準値) 質量3～4t	
			K3	タイヤローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量3～4t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	特殊作業員	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	3m超6m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅2.4～6.0m	
			K2	タイヤローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8～20t	
			K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10～12t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	特殊運転手	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	6m超8.5m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ ホイール型 舗装厚3.0～8.5m	
			K2	タイヤローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8～20t	
			K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10～12t	
労務		R1	普通作業員		
		R2	特殊運転手		
		R3	特殊作業員		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	軽油 1.2号 バトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
	Z4	-			
市場単価	S	-			

(3) 単価表

1) 上層路盤(空港) (砕石類)(ソイルセメント) 4m以上

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
路盤材		m ³		1,000m ² ×仕上厚×ロス率
上層路盤(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

(注)路盤材のロス率は1.37とする。

2) 上層路盤(空港) (砕石類)(ソイルセメント) 1m未満

100m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
路盤材		m ³		100m ² ×仕上厚×ロス率
上層路盤(空港)		m ²	100	施工パッケージ単価

(注)路盤材のロス率は1.37とする。

3) 上層路盤(空港) (アスファルト安定処理)

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
アスファルト安定処理		t		1,000m ² ×厚さ(m)× 仕上がり標準密度(t/m ³)×ロス率
上層路盤(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

(注)アスファルト安定処理のロス率は1.04、仕上り標準密度(t/m³)は2.35とする。

3-1-2 散水車(空港)

「第2章 基本施設舗装②下層路盤工」を準用。

④ アスファルト舗装工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる空港の基本施設舗装工事のアスファルト舗装工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 路面清掃(空港)

(1) 路面清掃車による路面清掃

1-1-2 プライムコート(アスファルト舗装工)

(1) アスファルト舗装に対するプライムコートの散布

1-1-3 タックコート

(1) タックコートの散布

1-1-4 基層・中間層(空港)

(1) 施工幅8.5m以下のアスファルト舗装工における基層

(2) 施工幅8.5m以下のコンクリート舗装工における中間層

1-1-5 表層(空港)

(1) 施工幅8.5m以下のアスファルト舗装工における表層

2. 施工概要

2-1 路面清掃(空港)

施工フローは、下記を標準とする。

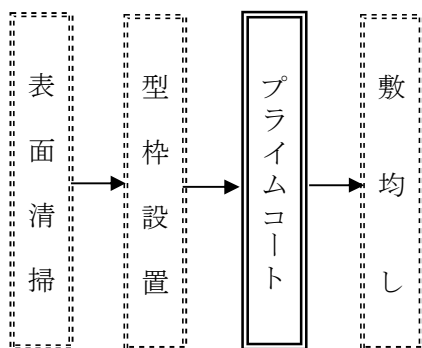
路面
清掃

工種	機	労	材
路面清掃	○	○	/

(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2-2 プライムコート(アスファルト舗装工)

施工フローは、下記を標準とする。



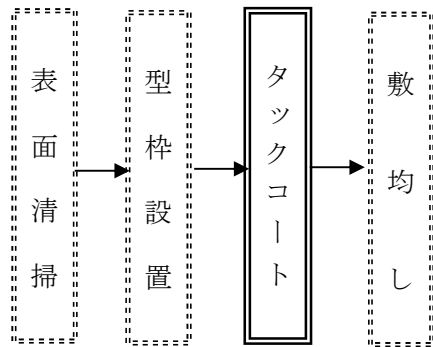
工種	機	労	材
プライムコート (アスファルト舗装工)	○	○	×

(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

2-3 タックコート

施工フローは、下記を標準とする。

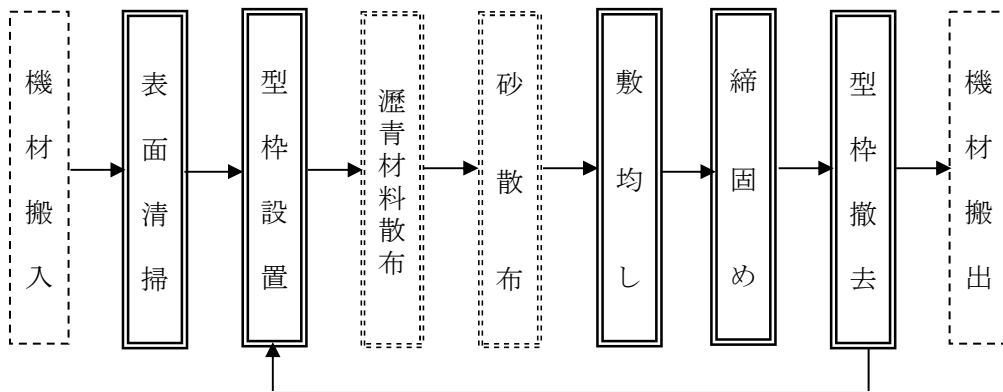


工種	機	労	材
タックコート	○	○	×

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

2-4 基層・中間層(空港)

施工フローは、下記を標準とする。

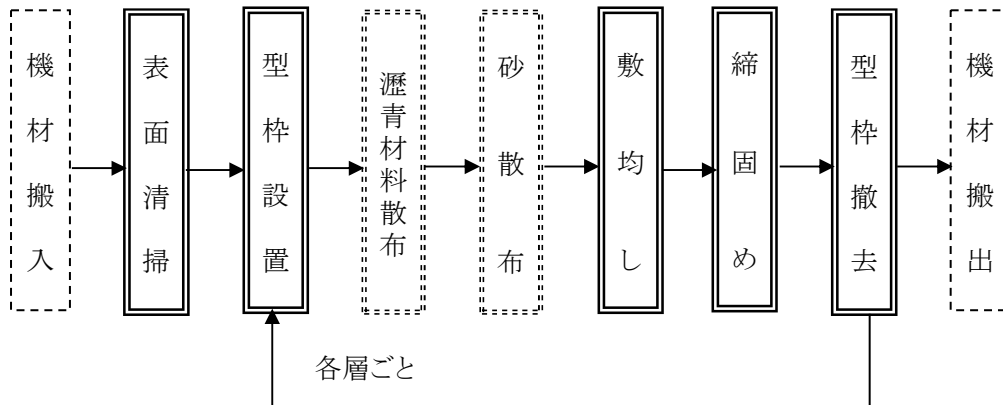


- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

工種	機	労	材
基層・中間層 (空港)	○	○	×

2-5 表層(空港)

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 二重点線部分は、他の施工パッケージで対応する。

工種	機	労	材
表層(空港)	○	○	×

3. 施工パッケージ

3-1 施工パッケージ及び単価表

3-1-1 路面清掃(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 路面清掃(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

現場条件	摘要
良好	新設空港等の昼間作業で、作業スペースが広く自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
普通	供用空港内等の昼間作業で航空機や自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
不良	供用空港の場合の夜間作業 自動車等の交通による作業の影響が大きい場合 修繕工事等で比較的小規模な箇所の場合

(注) 上表は、路面清掃の施工に必要な労務、機械、燃料を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 路面清掃(空港) 代表機労材規格

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	路面清掃車 ブラシ式・四輪式 ホッパ容量2.5～3.1m ³	
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	一般運転手	
	R2	-	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

(3) 単価表

1) 路面清掃(空港) 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
路面清掃(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

3-1-2 プライムコート(アスファルト舗装工)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 プライムコート(アスファルト舗装工) 積算条件区分一覧
(積算単位:m²)

施工機械	砂計上の有無
アスファルトディストリビュータ	有り
	無し
エンジンスプレーヤ+トラック	有り
	無し

- (注) 1. 上表は、アスファルト舗装工のプライムコートの施工に必要な労務、機械、燃料の他、瀝青材飛散保護等の費用を含む。
2. 瀝青材料の材料費は別途計上する。
3. 養生に砂が必要な場合、材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 プライムコート(アスファルト舗装工) 代表機労材規格

施工機械	項目	代表機労材規格	備考	
アスファルト ディストリビュータ 砂計上有り	機械	K1	ディストリビュータ 自走式 タンク容量2,000~3,000ℓ	
		K2	-	
		K3	-	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	一般運転手	
		R3	-	
		R4	-	
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z2	-	
		Z3	-	
		Z4	-	
	市場単価	S	-	
	アスファルト ディストリビュータ 砂計上無し	機械	K1	ディストリビュータ 自走式 タンク容量2,000~3,000ℓ
K2			-	
K3			-	
労務		R1	一般運転手	
		R2	-	
		R3	-	
		R4	-	
材料		Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z2	-	
		Z3	-	
		Z4	-	
市場単価		S	-	
エンジンスプレーヤ +トラック		機械	K1	トラック 普通 積載質量2t積
	K2		アスファルトエンジンスプレーヤ 手押し式 散布能力250/min	
	K3		-	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	一般運転手	
		R4	-	
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z2	ガソリン レギュラー	
		Z3	-	
		Z4	-	
	市場単価	S	-	

(3) 単価表

1) プライムコート(アスファルト舗装工) アスファルトディストリビュータ

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	920	0.8ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =920ℓ
プライムコート(アスファルト舗装工)		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

2) プライムコート(アスファルト舗装工) エンジンスプレーヤー+トラック

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	920	0.8ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =920ℓ
プライムコート(アスファルト舗装工)		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

- (注) 1. 上表1)・2)のプライムコートの標準散布量について、上表により難しい場合は、別途散布量を定めることができる。
 2. 養生に砂が必要な場合は、標準として、1,000m²当り1.5m³の砂を計上する。
 3. 瀝青材料のロス率は1.15とする。

3-1-3 タックコート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 タックコート 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

施工区分	施工機械
既設アスファルト舗装	アスファルトディストリビュータ
	エンジンスプレーヤー+トラック
新設	アスファルトディストリビュータ
	エンジンスプレーヤー+トラック
既設コンクリート舗装	アスファルトディストリビュータ
	エンジンスプレーヤー+トラック

- (注) 1. 上表は、アスファルト舗装工のタックコート施工に必要な労務、機械、燃料の他、瀝青材飛散保護等の費用を含む。
 2. 瀝青材料の材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 タックコート 代表機労材規格

施工機械	項目		代表機労材規格	備考
アスファルト ディストリビュータ	機械	K1	ディストリビュータ 自走式 タンク容量2,000~3,000ℓ	
		K2	-	
		K3	-	
	労務	R1	一般運転手	
		R2	-	
		R3	-	
		R4	-	
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z2	-	
		Z3	-	
		Z4	-	
	市場単価	S	-	
	エンジンブレイヤ +トラック	機械	K1	トラック 普通 積載質量2t積
K2			アスファルトエンジンブレイヤ 手押し式 散布能力25ℓ/min	
K3			-	
労務		R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	一般運転手	
		R4	-	
材料		Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z2	ガソリン レギュラー	
		Z3	-	
		Z4	-	
市場単価		S	-	

(3) 単価表

1) 既設アスファルト舗装 アスファルトディストリビュータ 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	345	0.3ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =345ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

2) 新設 アスファルトディストリビュータ 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	230	0.2ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =230ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

3) 既設コンクリート舗装 アスファルトディストリビュータ 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	460	0.4ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =460ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

4) 既設アスファルト舗装 エンジンスプレーヤ+トラック 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	345	0.3ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =345ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

5) 新設 エンジンスプレーヤ+トラック 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	230	0.2ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =230ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

6) 既設コンクリート舗装 エンジンスプレーヤ+トラック 1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
瀝青材料		ℓ	460	0.4ℓ/m ² ×ロス率× 1,000m ² =460ℓ
タックコート		m ²	1,000	施工パッケージ単価
諸雑費		式	1	瀝青材料の2%

- (注) 1. 上表1)～6)のタックコートの標準散布量について、上表により難しい場合は、別途散布量を定めることができる。
2. 瀝青材料のロス率は1.15とする。

3-1-4 基層・中間層(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 基層・中間層(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

施工箇所	施設区分	施工幅区分	現場条件
一般部	基本施設	3m超4m以下	(表3.7.1)
		4m超5m以下	
		5m超6m以下	
		6m超7m以下	
		7m超8m以下	
		8m超8.5m以下	
	基本施設拡張	1.4m以上2m以下	-
		2m超2.5m以下	
2.5m超3m以下			
すりつけ部	-	-	(表3.7.1)

- (注) 1. 上表は、基層又はアスファルト中間層のアスファルト混合物敷均し・締固めの施工に必要な労務、機械、燃料の他、舗装用器具、補助機械等の費用を含む。
 2. アスファルト混合物の材料費は別途計上する。
 3. アスファルト混合物の使用数量は設計数量にロス率1.04を乗じる。
 4. アスファルト舗装の仕上り標準密度(t/m³)は以下のとおりであり、これにより難しい場合は、別途考慮する。

区 分	基本施設	摘要
種 別		
密粒アスコン	2.35	基本施設とはR/W、T/W、A/Pをいう
粗粒アスコン	2.35	
細粒アスコン	2.30	

5. 一層当りの最大仕上げ厚は8cm以下とする。但し、すりつけ部の場合は3cm以下とする。
 6. 舗装用アスファルト混合物は原則として購入方式による。これにより難しい場合は、仮設プラントによる現地混合方式とすることができる。ただし、本施工パッケージによることが著しく不相当と判断される場合は、別途考慮する。

表3.7.1 現場条件

積算条件	区分	摘要
現場条件	良好	新設空港等の昼間作業で、作業スペースが広く自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	普通	供用空港内等の昼間作業で航空機や自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	不良	供用空港の場合の夜間作業 自動車等の交通による作業の影響が大きい場合 修繕工事等で比較的小規模な箇所の場合

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 基層・中間層(空港) 代表機労材規格

施工箇所	施設区分	項目	代表機労材規格	備考	
一般部	基本施設 施工幅 6m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅2.4~6.0m	
			K2	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t	
			K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10~12t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	特殊運転手	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	基本施設 施工幅 6m超8.5m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ ホイール型 舗装幅3.0~8.5m	
			K2	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t	
			K3	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10~12t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	特殊作業員	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	基本施設 拡幅	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅1.4~3.0m	
			K2	振動ローラ 搭乗式・コンバインド型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量3~4t	
			K3	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量3~4t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	特殊作業員	
R4			土木一般世話役		
材料		Z1	軽油 1.2号 パトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
	Z4	-			
市場単価	S	-			
すりつけ部	機械	K1	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t		
		K2	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10~12t		
		K3	-		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	土木一般世話役		
		R4	特殊運転手		
	材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
Z4		-			
市場単価	S	-			

(3) 単価表

1) 基層・中間層(空港)

1,000m²当り

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
混合物		t		1,000m ² ×厚さ(m)×仕上がり標準密度(t/m ³)×ロス率
基層・中間層(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

(注) 混合物のロス率は1.04、仕上り標準密度(t/m³)は密粒は2.35、粗粒は2.35、細粒は2.30とする。

3-1-5 表層(空港)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.9 表層(空港) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

施工箇所	施設区分	施工幅区分	現場条件
一般部	基本施設	3m超4m以下	(表3.9.1)
		4m超5m以下	
		5m超6m以下	
		6m超7m以下	
		7m超8m以下	
		8m超8.5m以下	
一般部	基本施設拡幅	1.4m以上2m以下	—
		2m超2.5m以下	
		2.5m超3m以下	
すりつけ部	—	—	(表3.9.1)

- (注) 1. 上表は、表層のアスファルト混合物敷均し・締固めの施工に必要な労務、機械、燃料の他、舗装用器具、補助機械等の費用を含む。
 2. アスファルト混合物の材料費は別途計上する。
 3. アスファルト混合物の使用数量は設計数量にロス率1.04を乗じる。
 4. アスファルト舗装の仕上り標準密度(t/m³)は以下のとおりであり、これにより難しい場合は、別途考慮する。

区 分	基本施設	摘要
種 別		
密粒アスコン	2.35	基本施設とはR/W、T/W、A/Pをいう
粗粒アスコン	2.35	
細粒アスコン	2.30	

5. 一層当りの最大仕上げ厚は8cm以下とする。但し、すりつけ部の場合は3cm以下とする。
 6. 舗装用アスファルト混合物は原則として購入方式による。これにより難しい場合は、仮設プラントによる現地混合方式とすることができる。ただし、本施工パッケージによることが著しく不相当と判断される場合は、別途考慮する。

表3. 9. 1 現場条件

積算条件	区分	摘要
現場条件	良好	新設空港等の昼間作業で、作業スペースが広く自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	普通	供用空港内等の昼間作業で航空機や自動車等の交通による作業の影響が少ない場合
	不良	供用空港の場合の夜間作業 自動車等の交通による作業の影響が大きい場合 修繕工事等で比較的小規模な箇所の場合

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 表層(空港) 代表機労材規格

施工箇所	施設区分	項目	代表機労材規格	備考	
一般部	基本施設 施工幅 6m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅2.4~6.0m	
			K2	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8~10t	
			K3	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	特殊作業員	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	基本施設 施工幅 6m超8.5m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ ホイール型 舗装幅3.0~8.5m	
			K2	振動ローラ 搭乗式・タンデム型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量8~10t	
			K3	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊運転手	
			R3	特殊作業員	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
	Z4		-		
	市場単価	S	-		
	基本施設 拡張幅	機械	K1	アスファルトフィニッシャ クローラ型 舗装幅1.4~3.0m	
			K2	振動ローラ 搭乗式・コンバインド型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 質量3~4t	
			K3	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量3~4t	
労務		R1	普通作業員		
		R2	特殊運転手		
		R3	特殊作業員		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	軽油 1.2号 バトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
	Z4	-			
市場単価	S	-			
すりつけ部	機械	K1	タイヤローラ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量8~20t		
		K2	ロードローラ マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値) 質量10~12t		
		K3	-		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	土木一般世話役		
		R4	特殊運転手		
	材料	Z1	軽油 1.2号 バトロール給油		
		Z2	-		
		Z3	-		
Z4		-			
市場単価	S	-			

(3) 単価表

1) 表層(空港)

1,000m ² 当り				
名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
混合物		t		1,000m ² ×厚さ(m)×仕上がり 標準密度 (t/m ³)×ロス率
表層(空港)		m ²	1,000	施工パッケージ単価

(注) 混合物のロス率は1.04、仕上り標準密度 (t/m³) は密粒は2.35、粗粒は2.35、細粒は2.30とする。

第6章 舗 装

① 路床整形工

「第2章 基本施設舗装 ① 路床整形工」を準用

② コンクリート舗装工

「第2章 基本施設舗装 ③ コンクリート舗装工」を準用

③ 路盤工

1. 適用範囲

本資料は、アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工(瀝青安定処理路盤を含む)に適用する。

1-1 適用できる範囲

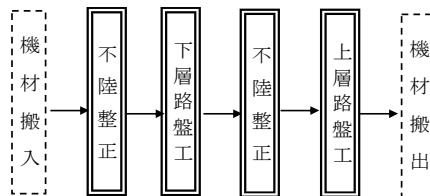
- (1) 路盤・路床面等の不陸整正
- (2) 一層当りの仕上り厚さが20cmまでの下層路盤
- (3) 一層当りの仕上り厚さが15cmまで(瀝青安定処理路盤の場合は10cmまで)の上層路盤
- (4) 舗装構成が車道部と同じ場合の路肩部の路盤

1-2 適用できない範囲

- (1) 瀝青安定処理路盤の締固め後密度2.30t/m³未満、2.40t/m³以上の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 不陸整正は、必要に応じて計上する。
 3. 下層路盤工(下層路盤(車道部)、下層路盤(歩道部))は、凍上抑制層の施工にも適用する。
 4. 現道における車道での情報ボックス工事及びこれに類する工事は、歩道部を適用する。

3. 施工パッケージ

3-1 不陸整正

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 不陸整正 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料
無し	—	—
有り	(表3.2)	(表3.3)

- (注)1. 上表は、路盤・路床面等の不陸整正(補足材料がある場合も含む)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 補足材料はロスを含む。

表3.2 補足材料平均厚さ

積算条件	区 分
補足材料平均厚さ	1mm以上3mm未満
	3mm以上6mm未満
	6mm以上9mm未満
	9mm以上13mm未満
	13mm以上17mm未満
	17mm以上21mm未満
	21mm以上25mm未満
	25mm以上29mm未満
	29mm以上34mm未満
	34mm以上39mm未満
	39mm以上44mm未満
	44mm以上49mm未満
	49mm以上55mm未満
	55mm以上61mm未満
	61mm以上67mm未満
67mm以上75mm未満	

表3.3 補足材料

積算条件	区 分
補足材料	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	再生粒度調整碎石 RM-25
	再生粒度調整碎石 RM-30
	再生粒度調整碎石 RM-40
	粒度調整碎石 M-25
	粒度調整碎石 M-30
	粒度調整碎石 M-40
	補足材料(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 不陸整正 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	モータグレーダ[排出ガス対策型(第1次基準値)] ブレード幅3.1m	
	K2	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t	
	K3	ロードローラ[マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t	
労務	R1	特殊運転手	
	R2	普通作業員	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	軽油 1.2号 ノットロール給油	
	Z2	再生クラッシュャラン RC-40	補足材料有りの場合
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-2 下層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 下層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

平均厚さ	材 料
(表3.6)	クラッシュャラン C-20
	クラッシュャラン C-30
	クラッシュャラン C-40
	再生クラッシュャラン RC-20
	再生クラッシュャラン RC-30
	再生クラッシュャラン RC-40
	路盤材(各種)

- (注)1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤(凍上抑制層がある場合も含む)の路盤材敷均し・締固めの他、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 路盤材はロスを含む。

表3.6 平均厚さ

積算条件	区 分
平均厚さ	75mm超125mm以下
	125mm超175mm以下
	175mm超200mm以下
	200mm超225mm以下
	225mm超275mm以下
	275mm超325mm以下
	325mm超375mm以下
	375mm超400mm以下
	400mm超425mm以下
	425mm超475mm以下
	475mm超525mm以下
	525mm超575mm以下
	575mm超600mm以下
	600mm超625mm以下
	625mm超675mm以下
	675mm超725mm以下
	725mm超775mm以下
	775mm超800mm以下
	800mm超825mm以下
	825mm超875mm以下
875mm超925mm以下	
925mm超975mm以下	
975mm超1000mm以下	
1000mm超1025mm以下	
1025mm超1075mm以下	
1075mm超1125mm以下	

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 下層路盤(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	モータグレーダ[排出ガス対策型(第1次基準値)] ブレード幅3.1m	
	K2	ロードローラ[マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t	
	K3	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t	
労務	R1	特殊運転手	
	R2	普通作業員	
	R3	-	
	R4	-	
材料	Z1	クラッシャーラン C-40	
	Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-3 下層路盤(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.8 下層路盤(歩道部) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

平均厚さ	材 料
(表3.9)	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	路盤材(各種)

(注)1. 上表は、歩道部の下層路盤の路盤材敷均し・締固めの他、散水、補助機械等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 路盤材はロスを含む。

表3.9 平均厚さ

積算条件	区 分
平均厚さ	25mm超75mm以下
	75mm超125mm以下
	125mm超175mm以下
	175mm超200mm以下
	200mm超225mm以下
	225mm超275mm以下
	275mm超325mm以下
	325mm超375mm以下
	375mm超400mm以下
	400mm超425mm以下
	425mm超475mm以下
	475mm超525mm以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 下層路盤(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ [クローラ型]山積0.11m ³ (平積0.08m ³)	賃料
	K2	振動ローラ [搭乗式コンバインド型]3~4t	賃料
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊運転手	
	R3	特殊作業員	
	R4	-	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-4 上層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 11 上層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

材料	平均厚さ	平均幅員	瀝青材料種類
(表3. 12)	45mm超55mm以下	1.4m未満	(表3. 14)
		1.4m以上	
	55mm超65mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	65mm超75mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	75mm超85mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	85mm超95mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	95mm超105mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	105mm超115mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	115mm超125mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
	125mm超135mm以下	1.4m未満	
		1.4m以上	
135mm超145mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
145mm超155mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
155mm超165mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
165mm超175mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
175mm超185mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
185mm超195mm以下	1.4m未満		
	1.4m以上		
(表3. 13)	25mm超75mm以下	-	-
	75mm超125mm以下		
	125mm超150mm以下		
	150mm超175mm以下		
	175mm超225mm以下		
	225mm超275mm以下		
	275mm超300mm以下		
	300mm超325mm以下		
	325mm超375mm以下		
	375mm超425mm以下		
425mm超450mm以下			

(注)1. 上表は、上層路盤(車道・路肩部)の路盤材敷均し・締固め又はアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布の他、散水、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 路盤材及びアスファルト混合物はロスを含む。

表3.12 材料

積算条件	区分	標準締固め後密度 (t/m ³)
材料	瀝青安定処理材(25)	2.35
	瀝青安定処理材(30)	〃
	瀝青安定処理材(40)	〃
	再生瀝青安定処理材(40)	〃
	路盤材(各種)	2.30以上～2.40未満

表3.13 材料

積算条件	区 分
材料	再生粒度調整碎石 RM-25
	再生粒度調整碎石 RM-30
	再生粒度調整碎石 RM-40
	粒度調整碎石 M-25
	粒度調整碎石 M-30
	粒度調整碎石 M-40
	路盤材(各種)

表3.14 瀝青材料種類

積算条件	区 分
瀝青材料種類	プライムコートPK-3
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.15 上層路盤(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

材料	平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
瀝青安定処理	1.4m未満	機械	K1	振動ローラ[ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	
			K2	振動コンパクト[前進型] 質量 40~60kg	
			K3	-	
		労務	R1	特殊作業員	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	-	
		材料	Z1	アスファルト混合物(安定処理材) AS安定処理(40)	
	Z2		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		
	Z3		ガソリンレギュラー スタンド		
	Z4		軽油 1.2号 パトロール給油		
	市場単価	S	-		
	1.4m以上	機械	K1	ASフィニッシャー[ホイール型] [排出ガス対策型 (第2次基準値)] 舗装幅2.4~6.0m	
			K2	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t	
			K3	ロードローラ[マカダム・排ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t	
		労務	R1	普通作業員	
R2			特殊作業員		
R3			特殊運転手		
R4			土木一般世話役		
材料		Z1	アスファルト混合物(安定処理材) AS安定処理(40)		
	Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用			
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油			
	Z4	-			
市場単価	S	-			
粒度調整砕石	-	機械	K1	モータグレーダ[排ガス対策型(第1次基準値)] ブレード幅3.1m	
			K2	ロードローラ[マカダム・排ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t	
			K3	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t	
		労務	R1	特殊運転手	
			R2	普通作業員	
			R3	-	
	R4		-		
	材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-40		
		Z2	軽油 1.2号 パトロール給油		
		Z3	-		
Z4		-			
市場単価	S	-			

3-5 上層路盤(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.16 上層路盤(歩道部) 積算条件区分一覧
(積算単位:m2)

平均厚さ	材 料
(表3.17)	再生粒度調整砕石 RM-25
	再生粒度調整砕石 RM-30
	再生粒度調整砕石 RM-40
	粒度調整砕石 M-25
	粒度調整砕石 M-30
	粒度調整砕石 M-40
	路盤材(各種)

(注)1. 上表は、歩道部の上層路盤の路盤材敷均し・締固めの他、散水、補助機械等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 路盤材はロスを含む。

表3.17 平均厚さ

積算条件	区 分
平均厚さ	75mm超125mm以下
	125mm超150mm以下
	150mm超175mm以下
	175mm超225mm以下
	225mm超275mm以下
	275mm超300mm以下
	300mm超325mm以下
	325mm超375mm以下
	375mm超425mm以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.18 上層路盤(歩道部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ [クローラ型]山積0.11m3(平積0.08m3)	賃料
	K2	振動ローラ [搭乗式コンバインド型]3~4t	賃料
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊運転手	
	R3	特殊作業員	
	R4	-	
材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-30	
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

④ アスファルト舗装工

1. 適用範囲

本資料は、道路・駐車場及び歩道等の施工幅の狭い舗装工における基層・中間層・表層および縁石工におけるアスカーブに適用する。

1-1 適用できる範囲

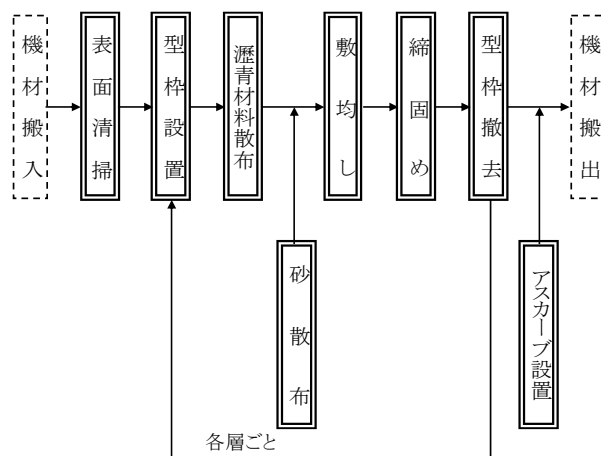
- (1) アスファルト混合物が購入方式の場合
- (2) 施工箇所が車道・路肩部で平均厚さが25mm以上、70以下の場合
- (3) 施工箇所が歩道部で平均厚さが25mm以上、70以下の場合
- (4) 断面積が125cm²以上、300cm²未満のアスカーブの場合

1-2 適用できない範囲

- (1) アスファルト混合物が現地プラント方式の場合
- (2) アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.40t/m³以上の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 基層(道路・駐車場部)・中間層(道路・駐車場部)・表層(道路・駐車場部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 基層(道路・駐車場部)・中間層(道路・駐車場部)・表層(道路・駐車場部) 積算条件区分一覧
(積算単位:m²)

平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類
25mm以上35mm未満	1.4m未満	(表3.2)	(表3.3)
	1.4m以上		
35mm以上45mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
45mm以上55mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
55mm以上65mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
65mm以上70m以下	1.4m未満		
	1.4m以上		

- (注)1. 上表は、道路・駐車場部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布の他、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. アスファルト混合物・瀝青材料の材料ロスを含む。
3. 幅員に関わらず機械施工が困難な場合は平均幅員1.4m未満を適用する。
4. 瀝青材の有無に関わらず適用できる。なお、瀝青材を散布しない場合は、瀝青材の材料費は計上しない。

表3.2 材料

積算条件	区 分			
	アスファルト混合物	標準締固め後 密度 (t/m3)	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m3)
材料	密粒度アスコン(20)	2.35	細粒度アスコン(13)	2.30
	密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
	密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度ギャップアスコン(20F)	〃
	密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度ギャップアスコン(13F)	〃
	密粒度ギャップアスコン(20)	〃	細粒度ギャップアスコン(5F)	〃
	密粒度ギャップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
	密粒度ギャップアスコン(20F)	〃	開粒度アスコン(13)	1.94
	密粒度ギャップアスコン(13F)	〃	各種(1.90以上2.00t/m3未満)	1.90以上～2.00未満
	粗粒度アスコン(20)	〃	各種(2.00以上2.10t/m3未満)	2.00以上～2.10未満
	再生密粒度アスコン(20)	〃	各種(2.10以上2.20t/m3未満)	2.10以上～2.20未満
	再生密粒度アスコン(13)	〃	各種(2.20以上2.30t/m3未満)	2.20以上～2.30未満
	再生粗粒度アスコン(20)	〃	各種(2.30以上2.40t/m3未満)	2.30以上～2.40未満
	改質As 粗粒 AC-100(20)	〃		
	改質As 密粒 AC-100(20)	〃		
	改質As 密粒 AC-100(13)	〃		
	改質As 密粒 I型(20)	〃		
	改質As 密粒 II型(20) DS3000	〃		
	改質As 粗粒 I型(20)	〃		
	改質As 粗粒 I型(20) DS3000	〃		
	改質As 粗粒 II型(20) DS5000	〃		
	改質As 再生粗粒 I型(20)	〃		
	改質As 再生粗粒 I型(20) DS3000	〃		
	改質As 再生粗粒 II型(20) DS5000	〃		

表3.3 瀝青材料種類

積算条件	区 分
瀝青材料種類	タックコート PK-4
	プライムコート PK-3
	タックコート(各種)
	プライムコート(各種)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 基層(道路・駐車場部) 中間層(道路・駐車場部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1 振動ローラ[ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t		
		K2 振動コンパクタ[前進型] 質量 40~60kg		
		K3 -		
	労務	R1 特殊作業員		
		R2 普通作業員		
		R3 土木一般世話役		
		R4 -		
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締め後密度 2.35t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締め後密度 2.30t/m ³
			アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	標準締め後密度 1.94t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油			
市場単価	S	-		
1.4m以上	機械	K1 ASフィニッシャ[ホイール型] 舗装幅2.4~6.0m [排出ガス対策型(第2次基準値)]		
		K2 タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t		
		K3 ロードローラ[マカダム・排ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t		
	労務	R1 普通作業員		
		R2 特殊作業員		
		R3 特殊運転手		
		R4 土木一般世話役		
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締め後密度 2.35t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締め後密度 2.30t/m ³
			アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	標準締め後密度 1.94t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
Z4	-			
市場単価	S	-		

表3.5 表層(道路・駐車場部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ[ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクタ[前進型] 質量 40~60kg	
		K3	-	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	-	
	材料	Z1	アスファルト混合物 密粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			アスファルト混合物 密粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリンレギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油			
市場単価	S	-		
1.4m以上	機械	K1	ASフィニッシャ[ホイール型] 舗装幅2.4~6.0m [排出ガス対策型(第2次基準値)]	
		K2	タイヤローラ[排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量 8~20t	
		K3	ロードローラ[マカダム・排ガス対策型 (第1次基準値)] 質量 10~12t	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	特殊運転手	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	アスファルト混合物 密粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			アスファルト混合物 密粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
Z4	-			
市場単価	S	-		

3-2 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部) 積算条件区分一覧
(積算単位:m²)

平均厚さ	平均幅員	材料	瀝青材料種類
25mm以上35mm未満	1.4m未満	(表3.7)	(表3.3)
	1.4m以上		
35mm以上45mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
45mm以上55mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
55mm以上65mm未満	1.4m未満		
	1.4m以上		
65mm以上70m以下	1.4m未満		
	1.4m以上		

(注)1. 上表は、歩道部における基層、中間層又は表層のアスファルト混合物敷均し・締固め、アスファルト乳剤散布の他、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. アスファルト混合物・瀝青材料の材料ロスを含む。

3. 幅員に関わらず機械施工が困難な場合は平均幅員1.4m未満を適用する。

4. 瀝青材の有無に関わらず適用できる。なお、瀝青材を散布しない場合は、瀝青材の材料費は計上しない。

表3.7 材料

積算条件	区 分			
	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)	アスファルト混合物	標準締固め後密度 (t/m ³)
材料	密粒度アスコン(20)	2.20	細粒度アスコン(13)	2.15
	密粒度アスコン(13)	〃	細粒度アスコン(13F)	〃
	密粒度アスコン(20F)	〃	細粒度ギャップアスコン(20F)	〃
	密粒度アスコン(13F)	〃	細粒度ギャップアスコン(13F)	〃
	密粒度ギャップアスコン(20)	〃	細粒度ギャップアスコン(5F)	〃
	密粒度ギャップアスコン(13)	〃	再生細粒度アスコン(13)	〃
	密粒度ギャップアスコン(20F)	〃	各種(1.90以上2.00t/m ³ 未満)	1.90以上～2.00未満
	密粒度ギャップアスコン(13F)	〃	各種(2.00以上2.10t/m ³ 未満)	2.00以上～2.10未満
	粗粒度アスコン(20)	〃	各種(2.10以上2.20t/m ³ 未満)	2.10以上～2.20未満
	再生密粒度アスコン(20)	〃	各種(2.20以上2.30t/m ³ 未満)	2.20以上～2.30未満
	再生密粒度アスコン(13)	〃	各種(2.30以上2.40t/m ³ 未満)	2.30以上～2.40未満
	再生粗粒度アスコン(20)	〃		

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.8 基層(歩道部) 中間層(歩道部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ[ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクタ[前進型] 質量 40~60kg	
		K3	-	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	-	
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油			
市場単価	S	-		
1.4m以上	機械	K1	ASフィニッシャー[クローラ型] 舗装幅1.4~3.0m	
		K2	振動ローラ [搭乗式コンバインド型]3~4t	賃料
		K3	-	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	特殊運転手	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生粗粒度AS混合物(20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
Z4	-			
市場単価	S	-		

表3.9 表層(歩道部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ[ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクタ[前進型] 質量 40~60kg	
		K3	-	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	-	
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生密粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生密粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
Z4	軽油 1.2号 バトロール給油			
市場単価	S	-		
1.4m以上	機械	K1	ASフィニッシャ[クローラ型] 舗装幅1.4~3.0m	
		K2	振動ローラ [搭乗式コンバインド型] 3~4t	賃料
		K3	-	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	特殊運転手	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生密粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生密粒度AS混合物(13)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.40t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
Z4	-			
市場単価	S	-		

3-3 アスカーブ

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 10 アスカーブ 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

断面積	材料
125cm ² 以上140cm ² 未満	(表3. 11)
140cm ² 以上155cm ² 未満	
155cm ² 以上175cm ² 未満	
175cm ² 以上195cm ² 未満	
195cm ² 以上215cm ² 未満	
215cm ² 以上235cm ² 未満	
235cm ² 以上255cm ² 未満	
255cm ² 以上280cm ² 未満	
280cm ² 以上300cm ² 未満	

- (注)1. 上表は、アスカーブ設置の他、瀝青材料、瀝青材料の散布及び加熱燃料等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. アスファルト混合物の材料ロスを含む。

表3. 11 材料

積算条件	積算条件
材料	細粒度アスファルト混合物(13)
	細粒度アスファルト混合物(13F)
	再生細粒度アスファルト混合物(13)
	再生細粒度アスファルト混合物(13F)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 12 アスカーブ 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック[普通・ディーゼル] 2t積級	
	K2	アスファルトカーバ 4.0~4.5m ³ /h	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	一般運転手	
材料	Z1	再生アスファルト混合物 再生細粒度AS混合物(13)	
	Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z3	ガソリンレギュラー スタンド	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

⑤ 透水性アスファルト舗装工

1. 適用範囲

本資料は、歩道における透水性アスファルト舗装工事に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 フィルター層

(1)透水性舗装におけるフィルター層の平均厚さが40mm以上220mm以下の場合

1-1-2 透水性アスファルト舗装

(1)アスファルト混合物が購入方式の場合で平均厚さは、平均幅員が1.4m未満では、25mm以上50mm以下、平均幅員が1.4m以上では、25mm以上70mm以下の場合

1-2 適用できない範囲

1-2-1 透水性アスファルト舗装

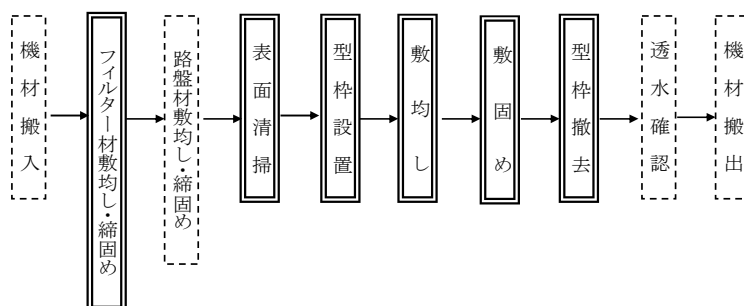
(1)アスファルト混合物が現地プラント方式の場合

(2)アスファルト舗装工及び排水性舗装工における表層の施工

(3)アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m³未満、2.10t/m³以上の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 フィルター層

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 フィルター層 積算条件区分一覧
(積算単位:m²)

平均厚さ
40mm以上 60mm未満
60mm以上 80mm未満
80mm以上 100mm未満
100mm以上120mm未満
120mm以上140mm未満
140mm以上160mm未満
160mm以上180mm未満
180mm以上200mm未満
200mm以上220mm以下

(注)1. 透水性舗装におけるフィルター材(歩道部)の敷均し・締固め等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. フィルター材料の材料ロスを含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 フィルター層 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	振動ローラ[搭乗式・コンバインド型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量3~4t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	特殊運転手	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	砂 再生砂	
	Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 透水性アスファルト舗装

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 透水性アスファルト舗装 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

平均幅員	平均厚さ	締固め後密度
1.4m未満	25mm以上35mm未満	(表3.4)
	35mm以上45mm未満	
	45mm以上50mm以下	
1.4m以上	25mm以上35mm未満	
	35mm以上45mm未満	
	45mm以上55mm未満	
	55mm以上65mm未満	
	65mm以上70mm以下	

- (注)1. 表層(歩道部)の透水性アスファルト混合物敷均し・締固めの他、砂の散布、舗装用器具、補助機械、型枠材料、加熱燃料、瀝青材飛散保護等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. アスファルト混合物の材料ロスを含む。
 3. すりつけに使用する混合物は、実状に応じて別途計上する。
 4. 幅員に関わらず機械施工が困難な場合は平均幅員1.4m未満を適用する。

表3.4 締固め後密度

積算条件	区分
締固め後密度	2.05t/m ³ (標準)
	各種 1.90 t/m ³ 以上2.00t/m ³ 未満
	各種 2.00 t/m ³ 以上2.10t/m ³ 未満

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 透水性アスファルト舗装 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ[ハンドガイド型]質量0.5～0.6t	
		K2	振動コンパクト[前進型]質量40～60kg	
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	
		Z2	ガソリンレギュラー スタンド	
		Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	
	1.4m以上	機械	K1	ASフィニッシャ[クローラ型]舗装幅1.4～3.0m
K2			振動ローラ[搭乗式・コンバインド型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 質量3～4t	
K3			—	
労務		R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	特殊運転手	
材料		Z1	アスファルト混合物 開粒度AS混合物(13)	
		Z2	軽油 1.2号 バトロール給油	
		Z3	—	
		Z4	—	
市場単価		S	—	

⑥ 区画線工

市場単価による。

⑦ 縁石工

I 縁石工

1. 適用範囲

本資料は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック及び地先境界ブロックの据付作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 歩車道境界ブロック
製品長2m以下の場合

1-1-2 地先境界ブロック
製品長2m以下の場合

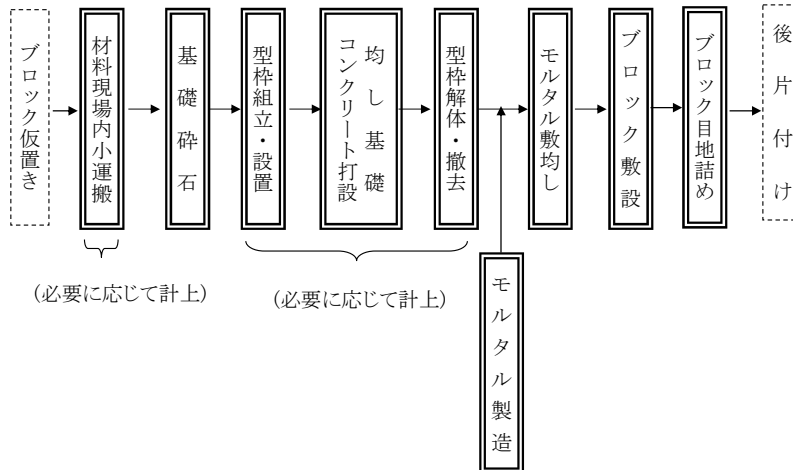
1-2 適用できない範囲

1-2-1 歩車道境界ブロック
製品長が2mを超える場合

1-2-2 地先境界ブロック
製品長が2mを超える場合

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



(注)1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分である。

2. 基礎砕石の有無に関わらず適用できる。

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 1. 1 歩車道境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無
設置	A種(150/170×200×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
		B種(180/205×250×600)	無し	-
	有り		養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
	C種(180/210×300×600)		無し	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
		各種(600mm以下、50kg未満)	無し	-
	有り		養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
各種(2000mm以下、50kg以上550kg未満)	無し		-	-
	有り	養生なし	無し	
		一般養生	有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	
			有り	

表3. 1. 2 歩車道境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無
再利用設置	A種(150/170×200×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	B種(180/205×250×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	C種(180/210×300×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	各種(600mm以下、50kg未満)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
一般養生			有り	
特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)			無し	
			有り	
			有り	
各種(2000mm以下、50kg以上550kg未満)	無し	-	-	
	有り	養生なし	無し	
		一般養生	有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	
			有り	
			有り	

(注)1. 上表は、歩車道境界ブロック(道路の車道と歩道等を分離するために用いる)の基礎材、基礎コンクリート型枠、基礎コンクリート、プレキャストブロックの設置、コンクリート現場内小運搬の他、敷モルタル、目地モルタル、器具等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 作業区分が「再利用設置」の場合、注1の歩車道境界ブロック本体の製品費は含まない費用とする。

3. ブロック規格で「各種」を選択した場合、ブロックは、m当たりの単価とする。

$$\text{ブロックm当たり単価} = \text{ブロック単価(円/個)} \times \text{使用量(個/100m)} / 100(\text{m})$$

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 歩車道境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型枠工	均し基礎コンクリート 有りの場合
特殊作業員		均し基礎コンクリート 無しの場合	
材料	Z1	歩車道境界ブロックB種(180/205×250×600)	設置の場合
	Z2	生コンクリート 高炉18-8-25(20) W/C 60%	均し基礎コンクリート 有りの場合
	Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z4	再生クラッシュチャーレン RC-40	
市場単価	S	—	

3-2 地先境界ブロック

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3.1 地先境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無
設置	A種(120×120×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				無し
	B種(150×120×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				無し
	C種(150×150×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				無し
	各種(600mm以下、 50kg未満)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
一般養生			有り	
特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)			無し	
			有り	
			無し	
各種(200mm以下、 50kg以上550kg未満)	無し	-	-	
	有り	養生なし	無し	
		一般養生	有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	
			有り	
			無し	

表3. 3. 2 地先境界ブロック 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

作業区分	ブロック規格	均し基礎コンクリートの有無	養生工の種類	現場内小運搬の有無
再利用設置	A種(120×120×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	B種(150×120×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	C種(150×150×600)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
			一般養生	有り
			特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し
				有り
				有り
	各種(600mm以下、 50kg未満)	無し	-	-
		有り	養生なし	無し
一般養生			有り	
特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)			無し	
			有り	
			有り	
各種(2000mm以下、 50kg以上550kg未満)	無し	-	-	
	有り	養生なし	無し	
		一般養生	有り	
		特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	無し	
			有り	
			有り	

(注)1. 上表は、地先境界ブロック(地先境界に道路の舗装止めとして用いる)の基礎材、均し型枠、基礎コンクリート、プレキャストブロックの設置、コンクリート現場内小運搬の他、敷モルタル、目地モルタル、器具等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 作業区分が「再利用設置」の場合、注1の地先境界ブロック本体の製品費は含まない費用とする。

3. ブロック規格で「各種」を選択した場合、ブロックは、m当たりの単価とする。

$$\text{ブロックm当たり単価} = \text{ブロック単価(円/個)} \times \text{使用量(個/100m)} / 100(\text{m})$$

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 地先境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ[クローラ型・排ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型枠工	均し基礎コンクリート 有りの場合
特殊作業員		均し基礎コンクリート 無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロックA種(120×120×600)	設置の場合
	Z2	生コンクリート 高炉18-8-25(20) W/C 60%	均し基礎コンクリート 有りの場合
	Z3	軽油 1.2号 ノパトロール給油	
	Z4	再生クラッシャーラン RC-40	
市場単価	S	—	

II 縁石取壊し工

1. 適用範囲

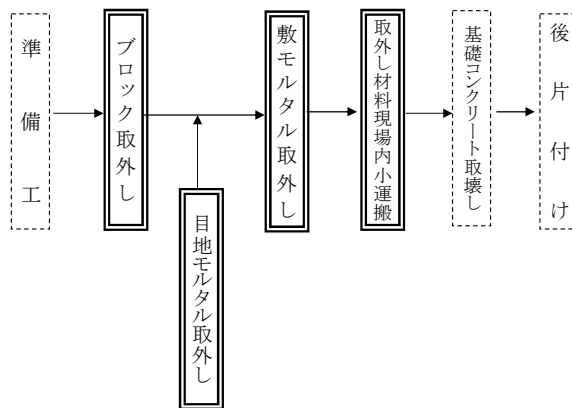
本資料は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック及び地先境界ブロックの取外し作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

- (1) 処分又は再利用を目的としたブロック(長さ800mm/個以下、質量105kg/個未満)の撤去の場合

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



- (注)1.本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2.ブロック、モルタル処分費及び現場搬出の費用は、別途計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去 積算条件区分一覧
(積算単位:m)

再利用区分
処分
再利用

- (注)1. 上表は、プレキャスト製品による歩車道境界ブロック、または地先境界ブロックの撤去、敷モルタル・目地モルタルの取外し、集積、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工数量は直線部、曲線部及び片面用、両面用、乗入れ、すりつけ用ブロックを含んだ施工延長である。
3. 基礎コンクリートのとりこわしは、別途計上する。

(2)代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 2 歩車道境界ブロック撤去 地先境界ブロック撤去 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ [クローラ型・超小旋回型] 山積0.22m3	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊運転手	
	R4	ブロック工	再利用区分が再利用の場合
材料	Z1	軽油 1. 2号 バトロール給油	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	